

但本文列記番號中左ノ枚數ハ無効ニ付扣除ス

百圓證書百四拾五枚 五拾圓證書九百九拾四枚 貳拾五圓證書三千百七拾貳枚 拾圓證書九千七百八拾四枚

○大藏省告示第四百四十五號

一 本月抽籤ヲ以テ償還シタル七分利付金祿公債元金ノ代リトシテ整理公債證書ノ交付ヲ望ムモノ
ハ其申込書ニ當籤證書ヲ添ヘ各自元利金ノ交付ヲ受クヘキ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ請求ス
ヘシ

一 當籤ノ證書ニシテ其額整理公債證書ノ額面ニ滿タサルモノアルトキハ之ニ他ノ六分以上利付金
祿公債證書ヲ加ヘテ前項ノ請求ヲナスコトヲ得

一 整理公債證書ノ利子ハ二十一年十二月ヨリ之ヲ付ス

但本年十二月三十日ヲ過キ交換ノ請求ヲナスモノハ其請求ノ翌月ヨリ利子ヲ付ス

明治二十一年十一月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第四百四十六號

金祿公債證書 貳拾五圓 丙貳號 參四四九番 壹枚

右ハ大阪府平民本田利助所有ノ處本年九月二十五日同府下ニ於テ遺失

前書ノ通届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若シ其所在ヲ聞見スルモノハ直ニ所在地方廳ヘ届出ヘシ

明治二十一年十一月二十六日

大藏大臣伯爵松方正義

○司法省告示第二十三號

司法省門内ニ於ケル下馬下乘ノ制限自今廢止ス

明治二十一年十一月二十八日

司法大臣伯爵山田顯義

○逓信省告示第九十八號

來十二月十六日ヨリ伊賀國名張郡名張郵便局ヲ名張郵便電信局トシ其事務ヲ取扱ハシム
但當分ノ内歐文電報數字及亞刺比亞數字ヲ記入シタル和文電報ハ取扱ハス

明治二十一年十一月二十九日

逓信大臣子爵榎本武揚

○逓信省告示第九十九號

信濃國北佐久郡輕井澤村ニ三等郵便局ヲ置キ輕井澤郵便局ト稱シ來十二月一日ヨリ其事務ヲ取扱
ハシム

明治二十一年十一月二十九日

逓信大臣子爵榎本武揚

○大藏省告示第四百四十七號

起業公債證書無記名 百圓 第參號 第四七九五番 壹枚

右ハ新潟縣下新瀨區西大畑町士族田中充所有ノ處本年九月十七日新瀨第四國立銀行ヨリ新潟縣
廳ニ至ル途中ニ於テ遺失

前書ノ通届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若シ其所在ヲ聞見スルモノハ直ニ所在地方廳ヘ届出ヘシ

明治二十一年十一月三十日

大藏大臣伯爵松方正義

○司法省告示第二十四號

札幌始審裁判所管内膽振國室蘭郡室蘭村外二箇村戸長役場及同國幌別郡幌別村外二箇村戸長役場
本年十一月三十日限り廢止シ更ニ同國幌別郡警別村外五箇村戸長役場ヲ警別村ニ設置ニ付テハ以
後室蘭幌別兩登記所ノ事務ハ同戸長役場ニ於テ之ヲ取扱フ

根室始審裁判所管内千島國擇捉郡内保村外一箇村戸長役場本年十一月三十日限り廢止シ右各村ハ

同國紗那郡留別村外二箇村戸長役場ノ管轄ニ更定ニ付テハ以後内保登記所ノ事務ハ同戸長役場ニ於テ之ヲ取扱フ

明治二十一年十一月三十日

司法大臣伯耆山田顯義

○大藏省告示第四百四十八號

本年勅令第七十三號ヲ以テ諸公債證書ノ條例ヲ改正セラレタルニ付テハ金祿公債證書ノ交付者ニ對スル明治十一年九月號外同公債證書保護法ノ布達ハ本年十二月限廢止ス

明治二十一年十二月一日

内務大臣伯耆山縣有朋
大藏大臣伯耆松方正義

(參照) 明治十一年五月内務大藏兩省號外布達

今般金祿公債證書ヲ買入並賣買約定取替候儀被差許候處從來家祿實錄ヲ以テ專ラ生計ヲ營ミ來候者共別ニ前途營生ノ目的ニ不相立右公債證書ヲ以テ輕々敷一時金祿ノ便ヲ計リ又ハ目下困難相通リ深ク其得失ヲ不顧格外ノ低價ヲ以テ取引致シ損耗相續候者往々可有之說モ難計候ニ付此際別紙手續書ノ通リ右公債證書保護ノ方法取替候儀錄シテ者ハ管轄廳ニ可願出此旨金祿公債證書相渡候者ニ布達候事

金祿公債證書保護手續書

- 第一條 金祿公債證書下付ノ後孤兒姪婦ハ勿論其他何人ニ限ラス右證書保護方ニ差支フル等ノ者保護方ヲ本管廳又ハ寄附管廳ニ願出ルニ於テハ各管廳ニテ其公債證書ノ預ケ主ニハ預リ證書ヲ下付シ其公債證書ニ對シ預ケ主ニ年々利子渡方及ヒ當額ノ節元金渡方等ヲナスヘシ
- 第二條 金祿公債證書買上方ヲ願フ者ハ本管廳又ハ寄附管廳ニ書面ヲ以テ其旨申出ヘシ然ルトキハ證書百圓ニ付五分利付ノ分ハ六十四圓六分利付ノ分ハ七十三圓七分利付ノ分ハ八拾貳圓一割利付ノ分ハ百圓ノ割合ヲ以テ買上致スヘクニ付者管廳ニ於テ其願ヲ一箇月限リ一ト額メニ致シ上申書ヲ副ヘ大藏省ニ送附スヘシ(但大藏省ノ都合ニヨリ買上方ヲ差止ルコトアルヘシ)
- 第三條 前條ニ所謂金祿公債證書預リ又ハ買上ヲナス者ハ今般官廳ヨリ本人ニ下賜タル金祿公債證書ニ限ル可シ他ヨリ買入買入又ハ買上セシ金祿公債證書ハ此例ニ依ルコトヲ得ス

○大藏省告示第四百四十九號

明治二十二年一月一日ヨリ三月三十一日迄輸入從價稅百圓元價ノ換算ニ適用スヘキ外國貨幣日本銀貨比較表左ノ通之ヲ定ム

但外國銀貨ト日本銀貨トノ比較ハ從前ノ通

明治二十一年十二月一日

大藏大臣伯爵松方正義

外國貨幣日本銀貨比較表

外國貨幣	日本銀貨
英吉利	六四九一
獨逸	三一七
北米合衆國	一、三三一
佛蘭西	二五六
瑞西	二五六
白耳義	二五六
伊太利	二五六
丁抹	三五六
瑞典	三五六
諾威	三五六
和蘭	五三五
西班牙	〇六七
葡萄牙	一、四三七
土耳其	〇五八

○陸軍省告示第十七號

自今陸軍省門下馬下乘ノ制限ヲ廢ス

明治二十一年十二月三日

陸軍大臣伯爵大出 巖

○第三回内國勸業博覽會事務局告示第四號

第三回内國勸業博覽會出品主心得左ノ通相定ム

明治二十一年十二月三日

第三回内國勸業博覽會副總裁伯爵井上馨

第三回内國勸業博覽會出品主心得

緒言

第三回内國勸業博覽會出品は學理技術經濟の三要より成るものなり其部類品種に因り此三つの要點を皆含むものあり又は其内の二つを兼ね或は一つの性質に出るものもありて固より一様ならずと雖も凡う此三要は出品物の製作、組立に於て最も缺べからざるの基礎にして徒らに觀美、巧緻を貪り又は輕薄なる考へをもちて着實ならざる粗大の物などを造り實用に適せざるの類は本會の望む所にあらずるゆゑ能く此主旨を辨へ務て實益に着目すべし要するに本會への出品物は何品に限らず前に述べたる三要に據り専ら其本を立つるを以て肝要なりとす

出品は部類を分ち無數の品物を一つの場所に集め部に據り類に従ひ府縣順にて之を陳列し混雜の患を防ぎ比較對照の便を與へ出品主をして各自ら拵らへたる品物の善惡損徳を一目の下に知り意匠技術を闡はし勉めて意を實益に注がしめんとするにあり

明治二十一年十一月 告示 第三回内國勸業博覽會事務局第四號

出品は之を七部に別け即ち第一部(工業)は之を十六類に分ち概ね加工既成の物品を陳列するの區にして直に使用し得らるべきものに限り

第二部(美術)は之を五類に分ち其列品は總て工藝に成り秀麗高雅にして美術の巧妙を顯はし意匠知識技術及新機軸の四者に基づけるものに限り

第三部(農業山林及園藝)は之を十類に分ち農業山林は經濟を以て主要となし園藝は人意を娛樂せしむるものなるを以て美術の應用より成りたる草木器物及園庭を造る道具に限り

第四部(水産)は之を五類に分ち水産業の盛衰を較べ其術の巧みなるか拙なきかを審かにし實益に適切なるものを主とす

第五部(教育及學藝)は之を三類に分ち有形無形共に學術を奨め又之を適用し及經濟運用の方法書等なり

第六部(礦業及冶金術)は之を三類に分ち礦山の原質及其掘採練和に關するものとす

第七部(機械)は之を十五類に分ち機械の功用を示し努力を省く便を知らしむるの設けにして汽力水力人力等を以て運轉すべきものとす是れ部類分けの大略にして委しき區別は本年八月當局告示第三號に就て見るべし

凡る物品は宜く時勢の變遷を量り現今及將來の需用に適するを以て主眼とすべし其形も色も合ひ紋柄の如何用途の如何を考へず濫りに有體なるものを作り又は珍らしき事をのみ求めて後に續かぬ

如きものは農産工作を問はず出陳に要なきなり且つ諸品中是迄は必要なるも最早今日には不用となりしもの又は今日有用なるも後には不用となるべきものもあり又時勢を量り今より拵らへ創め又は故法を考へ直して大に用に堪へ固有の術を擴充して愈進歩せしむべきものもありて素より一定し難しと雖も要するに學理技術を應用し勉めて經濟に適するを主とし内國は勿論遠く海外に販路を弘め現今將來の需用に適せしむるを以て專一とするに在り若し精密巧妙たぐひ稀れなる物を造らんと欲せば飽まで考案を凝らし手術を盡し其技術を顯さるべからず輕忽に手を下し無用の長物を製作せば獨り本會の望みに背くのみならず出品主の不名譽ともなる事ゆへよく心得置くべきことなり

凡る第五部に屬する商工業の方法施設即ち仕組仕方及りの成績を顯す等の出品は他の部類に出陳する實物眞象とは固より其趣を異にし今や商工業の業日に開進せんとし人心既に之に向ひ頻に資本を卸して其事業の振ひ作る様勉むる時に際し其方法施設の優劣を比較し得失を鑑別して遂に其妙用を知るに至らば無形の方案は有形物を動かし他の部類の出品は其良法の爲め後日其指揮の間に愉快なる有様を觀ることあるべし故に常に考案を盡し既に實施せる仕方仕組を出陳して品評を求むるときは農商工業の改良を促し進歩を誘ふの益たること亦多かるべし

以上僅かに其要點を擧るに過すと雖も凡る品柄の異同製作の何たるに論なく學理技術經濟の三要を逃るゝものはあらず苟も此三者を含み無用の長物を製作出品するに於ては決して製産の發達

を求むること能はず故に出品主は専ら意を之に注ぎ時勢を察し内外に鑑み以て本會の趣旨に副はんことを務むべし

本會開設の要は前に陳べたる如くにして其出品の部分類別をなすに當り或は其所屬を詳かにし難きもの之あるやもれず因て部に據り類に就き順次に其要領を説き明かすべし

第一 出品要旨

○出品は一人にして同一形状同一模様ものを數多く出陳すべからず(數量の制限は第四數量の條に在り)例へば形状に小異あるか或は畫紋に小異あるか爲め之を異種と見做し各々多數を出品するが如きは陳列上及觀覽人に取し少くも利益なきに因り此等の事あらざる様能く注意すべし

一 地方同種の産物にして別に一個人の出品主を定めざる品物は其町村地名を以て出品するも妨げなし

一 出品の爲めに平常取扱はざる物品を俄かに製造若くは買ひ求めて出品するが如きこと之なきは勿論なりと雖も自己の考案に由り他の職工をして製造せしめ之を出品するは固より妨げなし

一 總て出品は官設の博覧會共進會及外國博覧會共進會に於て審査を受たる品物を其儘出陳するを許さず尤も其品柄同一様なりとも更に何程の工夫を加へ新に造りしものは出品することを得べし

第二 出品部類説明

○第一部(工業)に屬する出品は既に出來上りて直に用らるべき品物に限るゆへ其原料並に牛製物即ち幾分か手を着けたるものは共に此部類の外とす例へば絹麻木綿然絲染絲織物の如きは此部類に屬すれども繭生絲綿及總絲の如きものは第三部の内(農業)に屬すべきものとす尤も製造の順序を示す歟又は参照の爲め其原料半製物を添るときは其譯柄を明らかに示すべし又既に出來上りたる品なりとも其用の方因り部類の定まりたるものは各其部類に據るべし即ち農業用具は第三部漁業用具は第四部に屬する類の如し

一 同種の製品にして第一部或は第二部に屬する區別あり陶磁器漆器金屬器織物繻物竹木製品其他玉石牙甲等の諸品にして専ら彫刻若くは畫紋裝飾の美術を示すべき目的を以て持たへたるものは第二部に屬す又品質の善きこと製作の精きこと代價の安きこと用途の便利なることを目的とし或は軸色若くは効用を主とするものは假令何程かの彫刻畫紋などありとも是等の類は第一部に屬す故に第一部に於ては適當とするも第二部に於ては協はざるものあり又第二部に於て取るべきも第一部に取らざるものあり若し此區別を誤るときは其目的の違ひため出品主の不利となることあるべし依て此次第を能く辨へ部類の分別に注意すべし

一 第一部第一類(化學製品及藥劑)其一の鹽類中には食鹽をも含むものにて其解説は第四部水産に屬する出品解説の書式を見合すべし

一 同類其二に藥劑とあるは製藥術の和合物其外一切の藥劑を含むものなりと雖も其質により原料

の定りたる部類あるものは各其部類に屬す例へば草根、木皮は第三部第一類に屬する類の如し

一同類其四に染料とあるは直に用ゆるべき出来上りたる染料に限り其原料たる染草の類は第三部第一類に屬す

一同類其五に麝香、龍涎香とあるは香料を主として此に入る、といへども藥料を主とするものは本類其二に屬す

一同類其六烽火、烟火、燐枝及各種瓦斯の製法並用法とあるは總て其製法、用法又は裝置に止まり現品を出陳することを得ず但し燐枝は審査の時現品を差出すべし烽火、烟火等若し實見を要するときは臨機其取扱をなすべし

第一部第二類(燒製製品)其一に植木鉢とあるは裝飾用を主とすべし仕立鉢は第三部第十類(園藝)に屬す

一同類其二の建築用品中には圓筒用の陶器類をも加ふるものとす

第一部第三類(玻璃)其一に鏡材とあるは色々の鏡に用うべき硝子板及之に水銀を着たるものを謂ふ縁框等の裝飾を加へ鏡の體を成せしものは本部第十二類其四(化粧具、梳髮具、及鏡、楊枝類)に屬す

第一部第五類金工中には洋食用の肉刀、食匙、肉刺の類をも含むものなり

第一部第九類(百工用具及利器諸金物)其二に造家用の金物とあるは門戸の鎖、鑰、襖障子の引

手其外釘、釘隠を總て家屋の建築又は裝飾に要する種々の金物を謂ふ又鐵門、鐵柵の如き類は本部第五類に屬す

第一部第十一類(絲及織物)其一の絹絲其二の木綿絲及其三の麻絲は總て合せ捫りになしたるものとす總絲及び生絲は第三部第一類(穀菜及各種の植物)第二類(家畜家禽出類及動物の産物)に入り毛絲は第一部第十一類に屬すれども羊毛、牛毛は第二部第二類に屬すべきものとす

一同類其七に編物、組物類とあるは其用うる途に因り部類の定まるものは各其部類に屬す例へば手袋、靴足袋の如きは編製、組製たりとも第一部第十二類(衣服、裝飾其他雜品)に屬する類の如し

第一部第十二類其三に裝身具とあるは胸飾、腕環、襟針、鈕、半襟、簪、指輪などの如き裝飾に用うべき一切の製品を謂ふ髮飾品、帶品、類は金屬、玉石、牙甲其外如何の材料を取り又はいかよの拵らへ方に在りとも總て本類に屬す

一同類其五に文房具とあるは文房諸品の備はりたるものを指す例へば硯、硯屏、墨床、筆架、文鎮の類を數種合せて一組となし或は懷中、根、管、旅用、硯管の如き又墨汁、墨紙、刀、手燭、小燭、呼鐘、筆床、文鎮等を以て一具とし或は之に時辰床、砂壺等を加ふるが如きは其材料の何たるを問はず皆本

類に入るべし尤も文房用のものといへども一組を成さざるものは其質に應じて定りたる部類に屬す例へば硯は本部第八類(動物、礦物の製品)に屬し銅製筆架は同第五類(金工)に屬する類の如し但し他人の出品と合せて一組となし又寄せ集めものを以て一具、一組となすことを得ず若し一人の出品にして書架、机、文庫、書籍宮などを併せてたのづから取合せて連絡あるもの、如きは

本類に出陳することを待

○第二部の出品は美術の巧妙を顯すものに限る且つ本部第一類繪畫第五類書を除くの外は皆第一部と關係多き物品なるを以て其次第を考へ之を分別すべし若し劣りたる品又は美術の妙を重とせざる物、他の製作に模倣し自分の工夫考案なきものは本會規則第十條に據り其出品を許さず、されども所屬を變更して外の部類に出品するを許すこともあるべし

一 第一部第一類(繪畫)ハ内外各派の水彩畫、油繪、鉛筆畫、機繪、漆繪等の類とす

一 繪畫は其用材の何たるを問はず、若し此制限に超るものは本會規則第二十二條に據り豫て通知をなすべし且つ繪畫は額面、屏風、歩障と一掛幅用のものは假に額面と一或は柵貼のまゝ、其四方を貼飾すべし但し額面には重量相當に丈夫なる縁等を打つけ自在に陳列するを得る様に拵らへ又柵貼は背後の光線の畫面に透き通ることを防ぐが爲め裏貼を黒くすべし

一 第二部第二類(彫刻)は金屬、木、石、牙、甲、陶、玻璃、漆、其外用材、用具又は用途の何たるを問はず單に美術彫刻品として見るべき一切のもの及蠟型、蠟型鑄象等の精妙品とす但し其高さ十八尺横十四尺地横二坪を超ゆべからず若し額面の彫刻物を出すべきは繪畫の項に準ず

一 第二部第三類(造家、造園の圖案及雕形)は建家の内外部庭園の大小等其全體若しくは一部分に限らず美術上造家、造園の圖案及雕形、起繪圖類とす其寸法は本部第二類に準じ圖案、額面、折貼又は

假貼となすべし

一 第二部第四類(美術工業)は以上三項の外に於て殊に美術の精妙なる巧技を實用品に應用せるものとす

一同類其一に漆器とあるは時繪、螺鈿、堆朱及漆塗の器物類とす

一同類其二に金工とあるは金屬の起起、起陷各種の象眼、鐫物及色金、交金製の器物類とす

一同類其三に陶磁、玻璃、七寶類とあるは畫樣及形狀、施釉、配色等の精妙なる器物類とす

一同類其四に織物、繡物類とあるは絹、綿、毛等各種の織出、畫紋、刺繡の畫紋、染畫の類とす

一同類其五に家具とあるは指物、挽物、列物、籠籠及書架、几、卓、椅子、化粧臺、座屏並に飲食器の類にして家具の用を主として精妙なる粧飾を加へたるものとす

一同類其六に各種の美術工業とあるは木雜嵌、芝山雜嵌、寄木細工、繪華紋紙、其外前項に入らざる精妙を主とせし諸品とす

一 第二部第五類(版、寫眞及書)は用料の何たるを問はず一切の版、篆刻、寫眞、寫眞版及書を出陳するものとす

一同類其一に木版、石版、金屬版、篆刻類とあるは精妙なる版及篆刻を指すものにして且つ版の精妙なるを示すに足るべき印刷物も亦此類に出陳することを得常に用ゆる印形類は第一部第十二類に屬し其印材は第一部第八類に屬す但し印鈕彫刻の精妙を示すものは本部第二類に屬すべきも

のどす

一同類其二に寫眞及寫眞版とあるは特に精妙なる寫眞、寫眞版を指すものにて阿膠版及其印刷畫も此に出陳することを得べしといへども理化學のみの作用に成るものは第一部第十四類に屬す一同類其三に書とあるは書體の和漢及用料に論なく總て觀賞に堪へべき筆蹟とす但し其寸法は本部第一類繪畫に準す

○第三部第一類(穀菜及各種の植物)其九に藥料とあるは植物の製煉を経ざる藥料を指す動物産の藥料は本部第二類其九に屬す

一第三部第二類(家畜家禽蟲類及動物の産物)其七に羊毛、牛毛、兔毛、とあるは織物の用料のみならず椅子包用又は筆に用ゆる毛をも含むものなり

一獸鳥肉、蔬菜、果實等の罐詰、粕漬、麹漬、其外陸産物の貯藏品は本部第三類に屬し水産物の貯藏品は第四部第一類(食品)に屬す

一第三部第七類(木竹用材其他の産物)其一に家屋、船體、橋梁、鐵道、電信、其他機械、器具等の用材とあるは皆板類をも含むものなり

一同類其五に樹木の種子及苗木とあるは森林栽培用のみならず道路街上の並木用をも含むものなり

一第三部第十類(園藝)に屬する植物は農林部内の食用、工用を主とするものに異なり其主眼とする所は粧飾、觀賞の點に在りゆへに花の美なるもの香の佳きもの葉の麗はきもの果實の愛玩すべきもの(其外藩籬及土止に用ゆるもの、類とす

すへきもの姿態の秀雅なるもの品種の新奇なるもの(新に發見せしもの並に舶來種を播き作りたるもの)其外藩籬及土止に用ゆるもの、類とす

一同類に屬する水草類は會場に於て別段沼池の設けなきゆへ適宜の器物に植えて出品すべし

一生産物にあらざる藩籬用の材料は本部第十類其四(園用の裝點及造作)に屬す

一同類其四に屬する椅子、榻、及其六に屬する剪抜用、栽植用の器具とは總て園用に供し又は休憩に充て庭園の草を刈り樹を剪り庭土を鏝し灌漑に用ゆるもの、類を謂ふ

一寒地又は暖地、其外高山などの産にして別段に注意を要する庭樹、盆栽等は其手摺方を記して其品と共に差出すべし

一園藝用に供し又は盆長を添へき砂礫或は庭石の如きは總て木類其四に屬す

○第四部第三類(漁具、漁業の裝置)中漁具の如き其形大なるものは成るべく離形又は圖式となすべし或は漁業の有様を示さんが爲めに實に稱はざるの人物、舟楫などを出す如きは徒勞なることゆへ是等のものは成り丈け省くべし又第五類の魚類、刺製、摸造等に於て製し方に困るものは風乾にして出すとも妨げなし

○第五部第三類(商工業の方法施設)に屬する工業の方法、施設とは工事の進歩を計り其事を整理し若くは其勞力者を支配する等の仕方仕組を謂ふことにて工業に關する經濟上の有様制度などに係れり但し其技術に涉れる方法順序などは第一部に屬す

一 同類に屬する會社の業務は農 商工業 鑛山漁業等に繋り其組織及目的種々なるも要するに様式を以て組織する會社は其業務の何たるに拘らず總て本類に屬すべし又組合中營利を目的とするも然らざるとの區別を論ぜず共に本類に屬す

○第六部の出品は玉石金屬の掘採 製鍊の手續方法及製造物の材料となるべき原料其外一切の坑産物に限り加工既成品は第一部及第二部に屬す

一 第六部第一類(礦物類石類)其三に建築及彫刻石材とあるは其質並に効用を示すを以て足れりとする故に成るべく其適用の大きさのものを出し徒らに大きなるものを出すべからず

一 同類其五に石膏石灰各種の漆灰及其原材人造石、諸種の壁土及其塗標本類とあるは總て工業用のものを主としれども其薬用品をも併せて此に出陳することを得

○第七部の出品は其所用の何たるを問はず動力を發生し又は其力に藉り自ら働きを爲し人力に代るべきものとす但し舟車なども此部に入るものとす手用の小具は皆用具となし共用せる所に隨ひ各部に分屬す

第三 出品数量制限

○出品の種類につき其一個人の出陳すべき分量及箇數は左に記載するものを以て制限とし其餘は

之に準ず尤も僅少の數量にては其性質効用及業務の實況を示すに足らざるもの或は僅少の品にして制限の數量を出し難きものは此制限を超へ或は減ずるとも妨む

第一部 工業

一 化學製品及藥劑は適宜

一 油脂及蠟の類は凡し一升又は二二斤

一 石礫香油香料類は適宜

一 繪具染料の類は適宜

一 陶磁銅漆、玻璃七寶、木竹類の製品、身體粧飾品、攜帶裝飾品、玩弄品の如きは毎品一箇物は三箇まで對ものは二對まで、組ものは二組、二揃まで

一 織物、組物、編物、皮革及紙類は品毎に一端一箇一帖より三端、三箇、三帖まで匹もの把ものは二匹、二把まで、一巻一締ものは二巻、二締まで但し紙類にして捆の荷造方を示すべきものは一捆を限る

第二部 美術

一 繪畫及書は其種類を問はず一人一枚より三枚まで他の美術品其外は第一部出品數量に準ず

第三部 農業山林及園藝

一 穀類は各一升

第四 出品荷造及附箋

○出品外箱等に貼附すべき符合用紙は本會事務局に於て調製の上送るべきに因り荷造前に其入用

丈の枚數を地方廳へ申出で置くべし

一魚介其外のもの酒浸となり出品するもの類は運搬中硝子壺を用うべからず瓶もすれば破損

して出品物を傷ぶの恐れあり故に其用ゆる器物を擇び其口を堅く閉ぢ塞ぐこと肝要なり能く注

意すべし

一出品附札の用紙は本會事務局より下渡すべし就ては此に書き入れべき品名番號其外とも目錄に

照らし相違の廉なき様注意すべし

第五 出品目錄解説書及説明書

○出品目錄ハ陳列又は審査の節品柄番號姓名其他總て照合せになるべき基本なるゆへ間違なく

完全に調製すべし若し部類の區別或は品質物品に誤りあるときは陳列又は審査の節とも種々の

差支へを生じ混雜を來すの恐れあり依て目錄は能く其部類に引き合し誤りなきことを務むべし

又各自の出品目錄は類毎に一番より番號を起し順次に記入し出品附札に記したる番號と違ひな

き様注意すべし

一第二部出品目錄並解説書は本會規則第十條に據り出品願書及現品を本會事務局に出し(物品は二

月十五日までに發送し願書は其前に地方廳を経由す)其出品の許可を得たるものは目錄並解説書を作り規則第九條に掲げ

一期限(口録は二十三年二月三十一日)までに地方廳ヲ發せらるべき様豫て注意の上差出すべし

一第七部の出品中には過大なる機械類もあり又汽力に依りて運轉するものよりからざるものがあるが

爲め部類の順序を追ひ區畫を立て難く便宜の處置を爲すことあるべしといへども其出品目錄に

至りては之に拘らず部類目錄の順序に従ひて記載すべし

一出品解説書は本會規則第九條乙號書式に倣ひ之を記すべしといへども同類の物品を數品出陳す

るとき其產地、製造場其他書式の諸項皆同様なるものは品毎に解説を附けるに及ばず唯其品物

の名を列べて記し其末に書式の解説を記入すべし若し其中に用材及製法の異なるものあるときは

は只其異なる點のみを記すべし例へば素質の項に何號何品は何年の何石を用ひ製造法の項に

何號何品は何々の製法「開業沿革」の項に何號何品は何年何月製造を改良せし類是れなり尤も

其解説は各類各別たるべし且つ其解説書中の物名は出品目錄に符合せし號數を記すべきものと

す

一第一回第二回内國勸業博覽會、生絲繭茶共進會、綿糖共進會、米麥大豆茶烟草種山林共進會、

第一回第二回内國繪畫共進會、水産博覽會、製茶共進會、繭生絲織物陶漆器共進會を開設せし時

既に詳明なる解説書を出せしものは更に製造用料、用具及製造法の項を詳記するに及ばず何々

會の解説に詳かなる旨を記して可なり若し前諸會の解説と異なる事項にして例へば前諸會に開

業以後の事蹟を記したるものは其後の沿革を「沿革」の項に記すが如き類なり其餘も亦之に進す

一物品の種類に依り其解説書式中の項目は適宜に之を取り捨て又増し加ゆるとも妨げ且つ普通の用具製造法の如きは省き略すことを得

一本會規則乙號解説書式「産出高總計」の項に「産出高は花瓶に拘はらず各種の陶器産出を認むべし又織物等も此に同一」とあるは例へば出品は花瓶に止まるも尙此外に皿茶碗徳利等を製するものは陶器と磁器とを問はず其産出高を併せて記載し又織物製造所より縮緬のみを出品するときは産出高は縮緬に限らず羽二重、絲織等各種の絹織物をも合せ算ふべし又木綿は木綿織の種類、麻布は麻布の種類、交織は交織の種類とするが如く之を種別し其種類の異なる分は各別に産出高を記すものとす、農産物も亦同一く米は麥と分別し蔬菜、茶、桑等も各其種類に従ひ別に産出高を記すべし販賣高の項に於ても此例に準す

一第三部植物及其産物並に農具の解説書式「産地土質及段別」の項に記すべき段別の如きも亦前項の例に準し穀類、蔬菜、茶園、桑園、牧場及山林等各別に記すべし例へば粳米を出品するものにして糯米若くは陸稻をも作るときは其段別を合計して之を記すべし麥は麥の種類、豆は豆の種類と分別する類の如し

一動物及其産物並に獵具の解説書中「所長並効用」の項に熊並に鹿とあるは全く其毛皮のみを出し其効用を解説すべきものとす

一第五部第三類の出品は専ら書面又は圖式にて物品は参考の爲めに之を添ゆるに止まり他部の

如く其出品に對し直に優劣を判し難し他部は現物の出陳なるを以て一目の下に概ね其長否を識別し得べきも此類に屬するものは皆實物を見ざることをゆへ其結構完全なりとも實際之を施行したる事績に照し視されば得失を知ること能はざるものあり例へば會社の如き其組織整頓して缺けたる所なき様にても施行せる實況成績に不十分なることあれば假令其法は良きとするも其功を奏せず又は實績の觀るべきものありて其組織は却て事業の割合に整頓せざるものも或は之あるべし故に此類の出品は解説書に於て其實況成績等を精密に叙べ記すこと最も肝要なり且つ解説書は書式に掲げたる要項の外に於て尙ほ必要と認むる事柄は固より其項目を加ふるも妨げ

一第七部の機械に屬する出品解説書も亦本會規則第九條乙號書式に倣ひ成るべく明細に記すべし其第二項は材料の原質及構成の緊要部を示す所にして何れの箇所は何々金屬、何れの箇所は何々木製たるを細別し又重量は一機械の全體を記して佳し悉く各部を分け記すに及ばず又機械中新規に發明し或は改良し及專賣特許を受けたるもの、如きは特に之を詳記すべし一解説書式「審査要求の主眼」の項には出品主に於て其出品中の主眼得意とする所に對し審査を受ける爲めの設にして是れ即ち出品主の目的何れの所にあることを示さしめんが爲めなり又出品主に於て其製造人又は協賛人の爲めに特に褒賞を請はんと欲するものは其事由を「審査請求」の項に記すべし

一本會規則第二十七條に據り説明書を揭示するの要は例へば新規の工夫にて創製し又は何れの箇所を改良して何等の便を得又は何に依り販路を何程開きたりとの類にして出品主に於て主眼とする所を記載し之を現品に添へ出すべし其揭示説明書は成るべく簡明を主とし出品物の大小に應じて位置置置を考へ見苦しからざる様其説明書の長短又は紙の廣狹等をも注意すべし

一第六部礦山冶金術の出品は其成分等を詳かに記せし説明書を添ゆべし若し其掘採製煉の手續などを明記せざれば了解し難きものあるときは圖式圖解其他適宜に説明書類を添へ差出すべきものとす

一第七部機械の出品も亦前に同じく其運轉をなすと然らざるに拘らず其効用利益は人力に比らべ一日何程の差違あり又費用の計算は何程にして何某の發明に係り其發明は全體若くは幾部分なる等の事に至るまで簡明の説明書を添ゆべし又運轉せざる機械は運轉方法、圖式等を適宜に添へて差出すべし

○第三回内閣勸業博覽會告示第五號

本會規則第二十一條ニ據り賣店規則左ノ通相定ム

明治二十一年十二月三日

第三回内閣勸業博覽會副總裁伯爵井上馨

第三回内閣勸業博覽會賣店規則

- 第一條 賣店建築ノ地所ハ本會會場外ニ於テ區域ヲ定メ無稅ニテ貸與フヘシ
- 第二條 賣店ヲ設ケント欲スルモノハ所用ノ地坪家作等ヲ取調圖面ヲ添ヘテ明治二十一年十一月限り地方廳ヲ經テ事務局ヘ願出ヘシ

- 第三條 賣店ハ事務局ノ指圖ヲ受ケ見苦カラサル様建築スヘシ
- 第四條 建築其他賣店ニ係ル一切ノ費用ハ自辨タルヘシ
- 第五條 賣品ハ必ス出品ト同種ノ物ニ限ルヘシ
- 第六條 賣店ハ事務局ノ検査ヲ受クルニ非サレハ開店スルコトヲ得ス
- 第七條 賣品中烟草賣藥等販賣方成規アル物品ハ總テ其成規ニ隨フヘシ
- 第八條 賣品ハ一種類毎ニ其賣上數ト金高ヲ毎月曜日ニ事務局ヘ届出ヘシ
- 第九條 賣店ハ本會開場當日ヨリ開場後十五日迄開店ヲ許ス但閉店ノ後十五日限り取拂ヒ事務局ノ検査ヲ受ケテ跡地返納スヘシ

○陸軍省告示第十八號

省令第二十五號陸軍獸醫部講習生規則ニ據リ今般講習生五名東京府下ニ於テ召募ス志願ノ者ハ左ノ通講習生検査格例及志願者心得ニ則リ十二月二十日限り陸軍省總務局獸醫課ヘ願出ツヘシ

明治二十一年十二月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍獸醫部講習生入學検査格例及志願者心得

第一條 陸軍獸醫部講習生入學検査ヲ分テ二則トス

第一則 體格

第二則 學科

第一則ノ検査ハ年齢十八年以上三十五年以下ニシテ體質強健ノモノタルヘシ

但シ年齢ヲ算スルニハ其年ノ十二月ヲ以テ期トス

第二則ノ検査ハ左ノ科目トス

其一 理學
 其二 化學
 其三 動植物學
 其四 解剖學
 其五 生理學
 其六 藥物學
 其七 內外科
 其八 傳染病論

第二條 右ニ示ス外特ニ專門學及外國語學等ノ検査ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許可シ其成績ニ由リ若干ノ點數ヲ與フ

第三條 検査ノ順序ハ第一則合格ノ上第二則ニ及フ

第四條 検査科目中其一科ニ於テ點數合格セサル者ハ合總點數ニ於テ合格スト雖モ採用セス但第二條ノ検査ニ係ル得點ハ此限ニアラス

第五條 志願者ハ第一號書式ノ願書ニ履歷書並ニ獸醫開業免狀寫ヲ添ヘ直チニ陸軍省總務局獸醫課ニ差出スヘシ

第六條 検査場開設ノ月日ハ總務局獸醫課ヨリ直チニ本人ニ達スヘシ

第七條 検査中病氣又ハ事故等ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メニ時日ヲ逡延シ又ハ更ニ検査場ヲ開クコトナシ

第八條 第二條ノ検査ヲ請フ者ハ其科目ヲ別紙ニ記載シテ差出スヘシ

第九條 講習生入學ノ節ハ誓文帖ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム

第十條 願書及誓文等ノ書式左ノ如シ

第一號書式 用紙美濃白紙以下之ニ同シ

獸醫講習生入學願

今般陸軍獸醫講習生志願ニ付御検査ノ上御採用被下度別紙履歷書並ニ獸醫開業免狀寫相添此段奉願候也

某儀

府(縣)何族(平民)願業

戶主ニアラサレハ何某子弟等

本人 姓 名 印

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)年號月日

陸軍省總務局獸醫課長官姓名殿

履歷書式

書式ニ示ス外履歷ニ係ル者アルトキハ悉ク記載スヘシ

履歷書

府(縣)何族(平民)願業

戶主ニアラサレハ何某子弟等

姓 名

年號月日生 年號月何年何箇月

何年種痘(天然痘)

一祖父母 何某存(亡)

一父母(養父母) 同 同

此他兄弟姉妹等在籍ノ者ハ皆之ニ準シテ記載スヘシ

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學校(何塾)ニ入り教師某ニ就テ何學修業

一何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究ノ爲メ何國ヲ云 外國ニ在留

一何年月日何學校(何塾)ニ於テ何學卒業何年月日右證ヲ受ク

- 一 何年月日發商務省何號就職證明書受ク
 - 一 何年月日任何官(租何等出仕)免本官(出仕被免)何(府)何(縣)等
 - 一 何年月日何職被申付月給(何職被免)何(府)何(縣)等
 - 一 何年月日何ニ依テ賞典何々下賜ル
 - 一 何年月日何ノ科ニ依リ何罰被申付
- 右之通相違無之候也

第二號書式證券印紙貼用

獸醫部講習生入學證書

本人 姓 名 印

某儀

今般陸軍出身志願ニ付獸醫部講習生被申付候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕萬一入學中學術不勉強又ハ品行不正等ヨリ退學ヲ命セラル候節ハ退學ノ日ヨリ三十日以内ニ入學中官給ノ費用一切辦付可仕若シ本人上納難致節ハ身元引受人ニ於テ相納可申且其他本人身上之債ハ何事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可申依テ引受人並證書如此候也

何國何郡(區)何町(村)産
東京府何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

府(縣)何族(平民)

年號月日生

東京府何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

身元引受人 姓 名 印

同

同

陸軍省總務局獸醫課長官姓名職

前書之趣調査候處相違無之候也

東京府區(戶)長

姓 名 印

誓文

陸軍出身志願ニ付今般獸醫部講習生入學奉願候節御許容相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且入學中ハ家事故障ハ勿論假令ヒ病氣ト雖モ私ニ退學ヲ請願致シ候儀ハ決シテ不仕候依テ誓文如件

年號月日

獸醫部講習生

姓 名 印

○大藏省告示第五百十號

静岡縣下濱松第二十八國立銀行明治二十二年一月一日ヨリ同縣下静岡第三十五國立銀行へ合併營業ヲ許可シ第二十八國立銀行ヨリ發行セシ紙幣ハ従前ノ通り通用セシメ候條聊無疑念授受スヘシ

明治二十一年十二月六日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第五百十一號

静岡第三十五國立銀行ノ儀明治二十二年一月一日ヲ以テ左ノ二箇所ニ支店ヲ設置ス

静岡縣下濱松傳馬町十番地 東京府下日本橋區兜町五番地

明治二十一年十二月六日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第五百十二號

金祿公債證書 百圓 丙字號 自八五八〇番 至八五八〇番 參枚

右ハ北海道廳下石狩國札幌區寄留鹿兒島縣士族上野源兵衛所有ノ處本年十一月十九日自宅ニ於テ盜難ニ罹レリ

起業公債證書無記名 百圓 第貳號

自第七參參番至第七參五番 第七四六〇番

四枚

右ハ岡山縣下備中國窪屋郡倉敷村平民井上清太郎所有ノ處本年十一月二十三日盜難ニ罹レリ前書ノ通届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若其所在ヲ聞見スルモノハ直ニ所在地方廳へ届出ヘシ

大藏大臣伯爵松方正義

○逓信省告示第二百號

本月十六日ヨリ石狩國石狩郡石狩郵便局ヲ石狩郵便電信局トシ共事務ヲ取扱ハシム但當分ノ内歐文電報歐字及亞刺比亞數字ヲ記入シタル和文電報ハ取扱ハス

逓信大臣子爵榎本武揚

○大藏省告示第五百三十三號

金祿公債證書 參百圓 丙拾號 八七三四番 壹枚

但明治二十一年十一月當籤

同 百圓 丙拾號 五九九九番 壹枚

但明治二十一年四月當籤

同 五拾圓 丙拾號 六九九六番 壹枚

但明治二十一年九月當籤

右ハ石川縣士族進藤良五郎所有ノ處同縣下金澤區下松原町一番地宮崎忠太郎へ預ケ中忠太郎居處不分明隨テ證書ノ所在ヲ失ス

大藏大臣伯爵松方正義

前書ノ通届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若其所在ヲ聞見スルモノハ直ニ所在地方廳へ届出ヘシ

○逓信省告示第二百一號

安藝國安藝郡矢野郵便局本月十五日限相廢ス

明治二十一年十二月十一日

逓信大臣子爵榎本武揚

○逓信省告示第二百二號

今般北海道渡島國松前郡白神崎燈臺ニ於テ一箇ノ霧笛機械ヲ設ケ霧雪或ハ冥濛ナル天候ニハ一分時毎ニ之ヲ吹鳴ス其吹鳴ノ時間ハ四秒ニシテ靜穩ナル天候ニハ其聲響ハ凡四海里ノ距離ニ達ス該燈臺ニハ別ニ小形霧笛一箇ヲ備ヘ霧笛機械ニ毀損等アリテ吹鳴シ能ハサルトキ代用シ五分時ヲ隔テ每十分時ノ間一分時毎ニ一回ツ、之ヲ吹鳴ス

逓信大臣子爵榎本武揚

明治二十一年十二月十一日

○司法省告示第二十五號

代官出願人試驗ノ儀自今毎年九月ヲ以テ執行ス

明治二十一年十二月十二日

司法大臣伯爵山田顯義

○逓信省告示第二百三號

左ノ通郵便局名ヲ改稱ス

明治二十一年十二月十二日

逓信大臣子爵榎本武揚

國 郡 舊 稱

改 稱

武藏國北豐島郡 下板橋郵便局

板橋郵便局

相模國足柄下郡 底倉郵便局

宮ノ下郵便局

相模國足柄上郡 松田總領郵便局

松田郵便局

相模國足柄上郡	川村山北郵便局	山北郵便局
甲斐國北都留郡	大原郵便局	猿橋郵便局
甲斐國南都留郡	福地郵便局	吉田郵便局
甲斐國南巨摩郡	睦合村南部郵便局	南部郵便局
甲斐國西八代郡	築村井出郵便局	井出郵便局
甲斐國南巨摩郡	三里村早川郵便局	早川郵便局
甲斐國南巨摩郡	富河村萬澤郵便局	萬澤郵便局
甲斐國東山梨郡	日川村一町田中郵便局	一町田中郵便局
甲斐國南都留郡	秋山村濱澤郵便局	秋山郵便局
甲斐國南都留郡	桂村小沼郵便局	小沼郵便局
甲斐國西八代郡	富里村常葉郵便局	常葉郵便局
甲斐國西八代郡	大河内村大島郵便局	大島郵便局
甲斐國西八代郡	九一色村古關郵便局	九一色郵便局
甲斐國北都留郡	富濱郵便局	鳥澤郵便局
甲斐國北都留郡	甲東郵便局	野田尻郵便局
甲斐國中巨摩郡	明穗郵便局	小笠原郵便局
甲斐國中巨摩郡	菅原郵便局	壹ヶ原郵便局
甲斐國中巨摩郡	宮本郵便局	御嶽郵便局
遠江國周智郡	堀ノ内村犬居郵便局	犬居郵便局
遠江國豐田郡	大井村西渡郵便局	西渡郵便局

遠江國豐田郡	浦川村町組郵便局	浦川郵便局
遠江國豐田郡	熊村市場郵便局	熊村郵便局
上野國碓氷郡	西上磯部郵便局	磯部郵便局
下野國上都賀郡	日光町郵便局	日光郵便局
下野國那須郡	寺子村小島郵便局	小島郵便局
上總國望陀郡	久留里市場町郵便局	久留里郵便局
上總國夷隅郡	中魚落郷郵便局	大原郵便局
上總國長柄郡	一宮本郷郵便局	一ノ宮郵便局
上總國市原郡	姉ヶ崎郵便局	姉崎郵便局
上總國周准郡	貞元郵便局	釜神郵便局
下總國印旛郡	八街村實住郵便局	實住郵便局
下總國下埴生郡	駒井野村三里塚郵便局	三里塚郵便局
下總國香取郡	久賀村本三倉郵便局	本三倉郵便局
下總國海上郡	銚子荒野郵便局	銚子郵便局
安房國平郡	本郷郵便局	保田郵便局
安房國朝夷郡	南朝夷郵便局	地倉郵便局
安房國長狹郡	仲郵便局	花輪郵便局
常陸國西茨城郡	岩間下郷郵便局	岩間郵便局
常陸國西茨城郡	羽黒西小埜郵便局	羽黒郵便局
常陸國真壁郡	下妻町郵便局	下妻郵便局

- | | | |
|---------|------------|---------|
| 常陸國鹿島郡 | 東下郵便局 | 波崎郵便局 |
| 信濃國東筑摩郡 | 宗賀村洗馬郵便局 | 洗馬郵便局 |
| 信濃國西筑摩郡 | 香妻村妻籠郵便局 | 妻籠郵便局 |
| 信濃國西筑摩郡 | 神坂村馬籠郵便局 | 馬籠郵便局 |
| 信濃國西筑摩郡 | 三岳村黒澤郵便局 | 黒澤郵便局 |
| 信濃國上伊那郡 | 伊那村伊那部郵便局 | 伊那郵便局 |
| 信濃國上伊那郡 | 中箕輪村松島郵便局 | 松島郵便局 |
| 信濃國上伊那郡 | 西高遠町高遠郵便局 | 高遠郵便局 |
| 信濃國下伊那郡 | 和田郵便局 | 遠山和田郵便局 |
| 信濃國下伊那郡 | 久堅村小林郵便局 | 小林郵便局 |
| 信濃國下伊那郡 | 富艸村栗野郵便局 | 栗野郵便局 |
| 信濃國下伊那郡 | 日開村新野郵便局 | 新野郵便局 |
| 信濃國南安曇郡 | 安曇郵便局 | 島々郵便局 |
| 信濃國南安曇郡 | 豊科村成相新田郵便局 | 豊科郵便局 |
| 信濃國諏訪郡 | 落合村葛木郵便局 | 葛木郵便局 |
| 信濃國上水内郡 | 七二會村笹平郵便局 | 笹平郵便局 |
| 信濃國下水内郡 | 北信村森郵便局 | 森郵便局 |
| 信濃國北安曇郡 | 美馬村青具郵便局 | 青具郵便局 |
| 信濃國北安曇郡 | 北小谷村來馬郵便局 | 來馬郵便局 |
| 信濃國下高井郡 | 穂高村中村郵便局 | 中村郵便局 |

信濃國下高井郡 平穩村湯田中郵便局
 紀伊國西牟婁郡 江住浦郵便局

湯田中郵便局
 江住郵便局

○内務省告示第十六號

岐阜縣下美濃國厚見郡美國町二番地藤井順太郎ノ發行スル愛狂餘誌第九號ハ治安ニ妨害アルモノト認メ發賣頒布ヲ禁止ス

明治二十一年十二月十三日

内務大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第五百五十四號

起業公債證書無記名 百圓 第四號 第五四五番 壹枚
 右ハ京都府下上京區挽木町平民賢木榮次郎所有ノ處所在不明ノ旨届出ニヨリ本年七月大藏省告示第九十一號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル處今般自宅ニ於テ發見ノ旨届出ニ付自今共停止ヲ解ク

明治二十一年十二月十三日

大藏大臣伯爵松方正義

○文部省告示第十一號

明治十九年十一月十一日 文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第一條第三區德島縣ノ下ニ香川縣ノ三字ヲ加フ

明治二十一年十二月十三日

文部大臣子爵森 有禮

○逓信省告示第二百四號

越前國丹生郡西田中村ニ郵便受取所ヲ置キ西田中村郵便受取所ト稱シ本月十六日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

明治二十一年十二月十三日

○遞信省告示第二百五號

遞信大臣子爵榎本武揚

東京商船學校規則第二章第六條第七條及函館商船學校規則第二章第六條但書ヲ左ノ通改正ス
明治二十一年十二月十四日
但砲術ノ一科ハ砲術練習艦ニ於テ教授ス
遞信大臣子爵榎本武揚

○遞信省告示第二百六號

本年十一月中西洋形船へ左ノ通信號符字ヲ點附ス
明治二十一年十二月十四日

遞信大臣子爵榎本武揚

西洋形船

信號符字	免狀番號	船名	種類	定置場	船主氏名
HGQN	1097	榮松丸 Yasho Maru	帆	伊豆國海良	渡邊喜兵衛
HGQP	1098	明通丸 Meitsu Maru	帆	渡島國函館	太刀川善吉
HGQR	1099	館山丸 Tatemura Maru	汽	東	京大東 森 徹
HGQS	1100	永添丸 Etsu Maru	汽	大	阪井上 仁兵衛
HGQT	1101	金城丸 Kinjo Maru	汽	同	共 榮 社
HGQV	1102	快滑丸 Kwaiho Maru	汽	同	大阪海陸會社
HGQW	1103	相生丸 Aioi Maru	汽	同	共 榮 社
HGRB	1104	彌彦丸 Yahiho Maru	汽	東	京日本郵船會社
HGRC	1105	神戸丸 Kobe Maru	汽	同	同

○大藏省告示第五百五十五號

一紙幣百六拾七萬八千貳拾九圓五拾錢也

右ハ銀貨ト交換支消セシ紙幣五拾錢以下損傷紙幣補助銀貨ト交換ノ分及紙幣ト交換セシ損傷紙幣等ノ合計ニシテ本月十日ヨリ十三日迄印刷局構内ニ於テ會計検査院官吏立會燒棄セリ
明治二十一年十二月十五日
大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第五百五十六號

起業公債證書無記名 五拾圓 第參號 第八七四參番 壹枚

右ハ愛知縣下碧海郡野田村土族佐藤金治所有ニシテ豫テ實父佐藤八郎へ預ケ置タル處八郎儀本月五日野田村ヨリ同縣下西加茂郡西宮口村ニ至ル途中ニ於テ遺失
前書ノ通届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若其所在ヲ聞見スルモノハ直ニ所在地方廳へ届出ヘシ
明治二十一年十二月十七日
大藏大臣伯爵松方正義

○宮内省告示第七號

宮城工事裝飾等ノ都合ニヨリ來二十二年一月十一日御移轉ノ旨仰出タサル

明治二十一年十二月十八日

宮内大臣子爵土方久元

○大藏省告示第五百五十七號

起業公債證書無記名 百圓 第四號 第貳貳參貳番 壹枚

右ハ大阪府下寄留滋賀縣下近江國神崎郡山本村平民小泉清六所有ニシテ所在不分明ノ旨發ニ届出ニ付本年九月大藏省告示第二百二十四號ヲ以テ證書ノ取引ヲ停止シタル處今般本人ヨリ該番號誤謬ノ趣届出ニヨリ其停止ヲ解ク

明治二十一年十二月十八日

○大藏省告示第五百五十八號

起業公債證書無記名 百圓 第四號 第貳參貳番 壹枚

右ハ大阪府下寄留滋賀縣下近江國神崎郡山本村平民小泉清六所有ノ處同府下東區備後町三丁目小泉清次郎ニ對シ訴訟提起中該證書同區安土町二丁目小泉寬二郎保管ノ處同人及ヒ清次郎共失踪シ證書ノ所在不分明

前書ノ通今般届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若其所在ヲ開見スルモノハ直ニ所在地方廳へ届出ヘシ

明治二十一年十二月十八日

○司法省告示第二十六號

熊本始審裁判所管内熊本縣肥後國天草郡志梯村地所質入公證簿明治九年分一册舊志梯登記所ニ於テ保存中紛失セシヲ以テ同村地所ニ付同年中質入ノ公證ヲ受ケタル者ハ明治二十一年一月十日限リ更ニ天草治安裁判所ニ登記ヲ願出可シ

但右期限内ハ紛失セシニ依リ更ニ登記スヘキモノ、外志梯村地所ノ登記ヲ停止ス

明治二十一年十二月十八日

○大藏省告示第五百五十九號

高松第百十四國立銀行ノ儀明治二十二年一月四日ヲ以テ香川縣下那珂郡丸龜鹽飽町七十番戶ニ支店ヲ設置ス

明治二十一年十二月十九日

○宮内省告示第八號

大藏大臣伯爵松方正義

來明治二十一年新年式左ノ通定メラル

明治二十一年十二月二十日

宮内大臣子爵土方久元

明治二十一年

新年式

一日

午前五時

四方拜

同七時

晴御膳

同九時三十分

親王同妃並宮内省勅任官以上同夫人同省奏任官於内廷拜賀

同十時

同

皇太后宮へ拜賀

同時

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官爵香間祇候同夫人等拜賀

同十時三十分

准勅任履外國人同夫人同上

同時

大勳位親任官公爵從一位勳一等勅任官爵香間祇候同夫人等

同十一時

皇太后宮へ拜賀

同時

文武奏任三等以上ノ輩拜賀

同時

青山御所へ參賀

午十二時

同

各廳准奏任ノ輩宮内省へ參賀

午後二時
同二時三十分
同三時三十分
同時
時刻各處ニ於テ定ムルニ於
二日
午前七時
同十時
同十一時
時刻於地方廳ニ定ムルニ於
三日
午前七時

各國公使同夫人等祝賀
侯伯子男爵及非役從四位以上同夫人等拜賀
非役勳三等以上ノ輩同上
神佛各宗派管長同上
同
青山御所へ參賀
勳三等以上外國人拜賀
准奏任雇外國人並勳六等以上外國人同上
判任官並准判任ノ輩各廳へ參賀
晴御膳
文武奏任四等以下並無等奏任官拜賀
神職奏任同上
非役從六位以上同勳六等以上ノ輩同上
舊門跡寺院住職ノ輩同上
同
青山御所へ參賀
非役正七位以下同勳七等以下ノ輩所在地方廳へ參賀
晴御膳

同十時
四日
午前九時
五日
午前十一時
八日
午前十時

元始祭
賢所皇靈神殿等御親祭
政始
先奏 神宮ノ事
新年宴會
親王大勳位親任官公爵勅任官游香間祇候及各國公使等參内
在京奏任官ハ各廳
在京有爵者及有位華族ハ爵位局
陸軍始

○大藏省告示第百六十號
一主稅局租稅監査印章 照合用三字朱印 第一七〇七號 壹枚
長崎縣下西彼杵郡役所備置ノ分
一同 同 第一六七五號 壹枚
同縣下同郡長崎村戶長役場備置ノ分
一同 同 第一六七七號 壹枚
同縣下同郡伊王島村戶長役場備置ノ分

同	同縣下同郡村松村戸長役場備置ノ分	第一六七八號	壹枚
同	同	第一六八二號	壹枚
同	同縣下同郡爲石村戸長役場備置ノ分	第一六八三號	壹枚
同	同縣下同郡川内村戸長役場備置ノ分	第一六八四號	壹枚
同	同縣下同郡雪浦村戸長役場備置ノ分	第一六九一號	壹枚
同	同縣下同郡三重村戸長役場備置ノ分	第一六九二號	壹枚
同	同縣下同郡浦上山里村戸長役場備置ノ分	第一六九六號	壹枚
同	同縣下同郡瀬戸村戸長役場備置ノ分	第一六九八號	壹枚
同	同縣下同郡土井首村戸長役場備置ノ分	第一七〇三號	壹枚
同	同縣下同郡伊木力村戸長役場備置ノ分	第一七二二號	壹枚
同	同縣下同郡東彼杵郡川棚村戸長役場備置ノ分		

同	同	第一七二八號	壹枚
同	同縣下同郡早岐村戸長役場備置ノ分	第一七二九號	壹枚
同	同縣下同郡日字村戸長役場備置ノ分	第一七三〇號	壹枚
同	同縣下同郡佐世保村戸長役場備置ノ分	第一七三一號	壹枚
同	同縣下同郡崎針尾村戸長役場備置ノ分	第一七二七號	壹枚
同	同縣下同郡折尾瀬村戸長役場備置ノ分	第一七八〇號	壹枚
同	同縣下同郡北松浦郡平戸町戸長役場備置ノ分	第一七八三號	壹枚
同	同縣下同郡佐々村外一村戸長役場備置ノ分	第一七八六號	壹枚
同	同縣下同郡御厨村外二村戸長役場備置ノ分	第一五三三二號	壹枚
同	同縣下同郡紐差村外一村戸長役場備置ノ分	第一五三三四號	壹枚
同	同縣下同郡高野村外一村戸長役場備置ノ分		

- 同 第一五三三五號 壹枚
同縣下同郡古田村外一村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五二八八號 壹枚
同縣下同郡南松浦郡樺島村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五二九〇號 壹枚
同縣下同郡若松村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五二九二號 壹枚
同縣下同郡青方村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五二九三號 壹枚
同縣下同郡魚目村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五二九七號 壹枚
同縣下同郡石田郡役所備置ノ分
- 同 第一五三〇三號 壹枚
同縣下同郡中野郷村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五三一號 壹枚
同縣下同郡小茂田村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五三二二號 壹枚
同縣下同郡鷓知村戸長役場備置ノ分
- 同 第一五二五九號 壹枚
同縣下同郡島原警察署小濱分署備置ノ分

- 同 第一五二六〇號 壹枚
同縣下同郡神代分署備置ノ分
 - 同 第一五二六一號 壹枚
同縣下同署東有家分署備置ノ分
 - 同 第一五二七〇號 壹枚
同縣下同郡江警察署備置ノ分
- 右紛失ノ旨長崎縣ヨリ届出候條發見ノ節ハ該地方廳へ送致スヘシ該廳ニ於テハ其旨當省へ届出ヘ

明治二十一年十二月二十日

大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第百六十一號

起業公債證書無記名 五拾圓 第壹號 第七貳貳番 壹枚

右ハ岡山縣下備中國窪屋郡倉敷村平民井上清太郎所有ノ處本年十一月二十三日盜難ニ罹レリ前書ノ通届出ニ付自今其取引ヲ停止ス若其所在ヲ聞見スルモノハ直ニ所在地方廳へ届出ヘシ

明治二十一年十二月二十日

大藏大臣伯爵松方正義

○遞信省告示第百二十七號

巴理締結里斯本改正萬國郵便聯合條約實施細目規則第四條貨幣比例表第一欄英領殖民地ノ部第一類ヘ「ヂブラルタル」及「マルタ」ヲ追加ス

明治二十一年十二月二十日

遞信大臣子爵榎本武揚

○遞信省告示第百二十八號

明治十七年三月佛蘭西國巴理府ニ於テ締結シタル萬國海底電信線保護條約ヲ英國殖民地加拿太テ
ールヌーブ、喜望峯、那多兒、新南珈斯、太斯馬尼、西濠斯太利、新西蘭度ニ適施ス

○逕信省告示第二百九號
明治二十一年十二月二十日
逕信大臣子爵榎本武揚

○逕信省告示第二百九號
來ル二十一年一月四日ヨリ左ノ郵便局ニ於テ郵便貯金事務ヲ取扱ハシム
逕信大臣子爵榎本武揚

明治二十一年十二月二十日
逕信大臣子爵榎本武揚

○逕信省告示第二百十號
石狩國札幌郡江別郵便局 渡島國上磯郡木古内郵便局
逕信大臣子爵榎本武揚

○逕信省告示第二百一十一號
磐城國磐前郡上三坂郵便局郵便貯金事務來ル十二月三十一日限り廢止ス
逕信大臣子爵榎本武揚

○逕信省告示第二百一十一號
明治二十一年十二月二十日
逕信大臣子爵榎本武揚

○逕信省告示第二百一十一號
磐城國行方郡草野郵便局ニ郵便貯金事務ヲ開設シ來ル二十一年一月四日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム
逕信大臣子爵榎本武揚

○陸軍省告示第十九號
明治二十一年十二月二十日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省告示第十九號
陸軍省告示第十九號
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省告示第十九號
陸軍省告示第十九號
陸軍大臣伯爵大山 巖

○大藏省告示第六十二號
證書額面貳萬八千八百圓
大藏大臣伯爵松方正義

内

六分利付金祿公債證書額面千圓
七分利付金祿公債證書額面貳萬七千八百圓
右ハ二十年三十大藏省告示第二十九號ニ據リ本年十一月中日本銀行ニ於テ整理公債證書ト引換タリ
明治二十一年十二月二十四日
大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第六十三號
二十一年發行
整理公債證書額面貳萬八千八百圓
大藏省告示第二十九號
ニ據リ引換ノ分
右ハ本年十一月中債主ノ請求セシモノニ對シ發行セリ
大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第六十四號
起業公債證書無記名 百圓 第貳號 自第七叁叁叁番 參枚
同 五拾圓 第壹號 至第七叁叁五番 壹枚
第七貳貳貳番 壹枚

右ハ岡山縣下備中國窪屋郡倉敷村平民井上清太郎所有ノ處盜難ニ罹リタル旨届出ニ付本年十二月大
藏省告示第五十二號及第六十一號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル内發見ノ旨届出ニ付自今共停止
ヲ解ク
大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第六十五號
本年十一月勅令第七十三號同大藏省令第十五號ニ據リ諸公債條例ノ改正ニ付テハ本年十二月三十
一日以前ニ紛失消滅ニ係リタル無記名起業公債中山道鐵道公債金札引換無記名公債ノ證書若クハ

利札ノ取扱ハ來ル二十年一月一日以降整理公債條例ニ據ルモノトス
但代證書若クハ利子交付ノ時期ハ其紛失消滅ニ係リタル届出ノ月ヨリ起算ス
明治二十一年十二月二十六日
大藏大臣伯爵松方正義

○遞信省告示第二百十二號

自今左ノ郵便電信局及郵便局ニ於テ本邦香港間ノ郵便爲替事務ヲ取扱フ

明治二十一年十二月二十六日

遞信大臣子爵榎本武揚

- 長門國赤間關郵便電信局
- 越後國新潟郵便電信局
- 常陸國東茨城郡水戸郵便電信局
- 伊勢國安濃郡津郵便電信局
- 美濃國厚見郡岐阜郵便電信局
- 下野國河内郡宇都宮郵便電信局
- 羽前國南村山郡山形郵便電信局
- 陸奥國東津輕郡青森郵便電信局
- 越後國中頸城郡高田郵便電信局
- 土佐國土佐郡高知郵便電信局
- 石狩國札幌郵便電信局
- 武藏國北足立郡浦和郵便局
- 武藏國南多摩郡八王子郵便局
- 肥後國熊本郵便電信局
- 尾張國名古屋郵便電信局
- 伊勢國三重郡四日市郵便電信局
- 近江國坂田郡長濱郵便電信局
- 上野國東群馬郡前橋郵便電信局
- 岩代國信夫郡福島郵便電信局
- 羽後國南秋田郡秋田郵便電信局
- 越中國上野川郡富山郵便電信局
- 紀伊國和歌山郵便電信局
- 日向國宮崎郡宮崎郵便電信局
- 根室國根室郡根室郵便電信局
- 武藏國大里郡熊ヶ谷郵便局
- 武藏國橋本郡神奈川郵便局

- 下總國千葉郡千葉郵便局
- 相模國高坐郡藤澤郵便局
- 相模國三浦郡横須賀郵便局
- 駿河國有渡郡静岡郵便局
- 上野國山田郡桐生郵便局
- 下野國下都賀郡栃木郵便局
- 下野國下都賀郡小山郵便局
- 下野國那須郡大田原郵便局
- 下野國芳賀郡真岡郵便局
- 下野國上都賀郡鹿沼郵便局
- 山城國紀伊郡伏見郵便局
- 大和國添上郡奈良郵便局
- 和泉國南郡岸和田郵便電信局
- 但馬國城崎郡豐岡郵便局
- 三河國渥美郡豐橋郵便局
- 尾張國愛知郡熱田郵便局
- 伊勢國度會郡山田郵便局
- 飛騨國大野郡高山郵便局
- 薩摩國鹿兒島郡鹿兒島郵便局
- 琉球國首里郵便局
- 常陸國新治郡土浦郵便局
- 相模國足柄下郡小田原郵便局
- 甲斐國西山梨郡甲府郵便局
- 遠江國敷智郡濱松郵便局
- 上野國西群馬郡高崎郵便局
- 下野國安蘇郡佐野郵便局
- 下野國鹽谷郡喜連川郵便局
- 下野國那須郡蘆野郵便局
- 下野國那須郡黒羽郵便局
- 下野國足利郡足利郵便局
- 大和國添下郡郡山郵便局
- 和泉國堺郵便局
- 近江國滋賀郡大津郵便局
- 播磨國飾東郡姫路郵便局
- 三河國額田郡岡崎郵便局
- 伊勢國桑名郡桑名郵便局
- 美濃國安八郡大垣郵便局
- 肥後國八代郡八代郵便局
- 琉球國那覇郵便局
- 阿波國名東郡德島郵便局

- 讚岐國香川郡高松郵便局
- 讚岐國多度郡多度津郵便局
- 伊豫國温泉郡松山郵便局
- 筑前國博多郵便局
- 豐前國全救郡小倉郵便局
- 豐後國大分郡大分郵便局
- 美作國西北條郡津山郵便局
- 備中國小田郡笠岡郵便局
- 備後國御調郡尾道郵便局
- 安藝國廣島郵便局
- 出雲國意宇郡松江郵便局
- 越前國足羽郡福井郵便局
- 越中國射水郡高岡郵便局
- 信濃國東筑摩郡松本郵便局
- 越後國東蒲原郡津川郵便局
- 越後國北蒲原郡新發田郵便局
- 羽前國南置賜郡米澤郵便局
- 羽後國飽海郡酒田郵便局
- 磐城國西白河郡白河郵便局
- 磐城國宇多郡中村郵便局
- 讚岐國那珂郡丸龜郵便局
- 伊豫國北宇和郡宇和島郵便局
- 周防國吉敷郡山口郵便局
- 筑後國御井郡久留米郵便局
- 豐前國下毛郡中津郵便局
- 肥前國佐賀郡佐賀郵便局
- 備前國岡山郵便局
- 備中國淺口郡玉島郵便局
- 備後國深津郡福山郵便局
- 因幡國邑美郡鳥取郵便局
- 石見國那賀郡濱田郵便局
- 加賀國金澤郵便局
- 信濃國小縣郡上田郵便局
- 信濃國上水内郡長野郵便局
- 越後國古志郡長岡郵便局
- 佐渡國雜太郡相川郵便局
- 羽前國西田川郡鶴岡郵便局
- 陸中國南岩手郡盛岡郵便局
- 磐城國磐前郡平野郵便局
- 磐城國田村郡三春郵便局

- 陸前國志田郡古川郵便局
- 陸前國登米郡登米郵便局
- 後志國小樽郡小樽郵便局
- 石狩國空知郡市來知郵便局
- 岩代國北會津郡若松郵便局
- 岩代國耶麻郡喜多方郵便局
- 岩代國安達郡二本松郵便局
- 陸前國杜鹿郡石巻郵便局
- 陸前國仙臺郵便局
- 石狩國樺戸郡月形郵便局
- 岩代國岩瀬郡須賀川郵便局
- 岩代國安積郡郡山郵便局
- 岩代國伊達郡梁川郵便局
- 小笠原島郵便局

○大藏省告示第六十六號

明治十三年五月甲第七十一號當省布達中手數料トアルヲ製造費ト改ム

明治二十一年十二月二十七日

大藏大臣伯耆松方正義

(參照) 明治十三年五月大藏省甲第七十一號布達

金貨公債證券ノ内五拾圓貳拾五圓拾圓等ノ證券多分所持持居候者ハ枚數相高ニ不便利ノ趣ニ相聞候ニ付今般右三種ノ證券ニ限リ所持高集メテ五百圓ニ滿ツル分ハ五百圓證券ト交換並許候條志願ノ者ハ明細書へ本證券相添管轄廳へ可願出尤手數料トシテ五百圓證券壹枚ニ付金拾壹錢宛上納可致此旨布達候事

但本文布達候ニ付テハ管轄廳於テ取扱方ハ明治九年七月當省甲第拾五號布達ノ通可相心得事

○大藏省告示第六十七號

起業公債證書無記名 百圓 第五號 第壹七八番番 第參〇八四番番 貳枚

右ハ大阪府下寄留滋賀縣下近江國神崎郡山本村平民小泉清六所有ノ分所在不明ノ旨届出ニ由リ本年九月大藏省告示第二百二十四號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル處今般三重縣下ニ於テ發見ノ趣届出ニ付自今其停止ヲ解ク

明治二十一年十二月二十七日

大藏大臣伯耆松方正義

○大藏省告示第六十八號

橫濱第二國立銀行發行洋銀券引換期限ノ備明治二十二年六月三十日迄延期ス
明治二十一年十二月二十七日 大藏大臣伯爵松方正義

○逕信省告示第二百十三號

今般南亞米利加亞兒然丁共和國萬國電信條約ニ加入ス
明治二十一年十二月二十七日 逕信大臣子爵榎本武揚

○大藏省告示第六十九號

金祿公債證書 百圓 丙字號 自八五八〇番 至八五八〇番 三枚
右ハ北海道廳下石狩國札幌區寄留鹿兒島縣土族上野源兵衛所有ノ分盜難ニ罹リタル旨届出ニ付本月大藏省告示第五百二十二號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル處今般發見ノ旨届出ニ付自今其停止ヲ解ク
明治二十一年十二月二十八日 大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第七十號

金祿公債證書 三百圓 丙波號 參貳壹〇番 貳枚 大阪府平兵衛
同 同 丙み號 七四九八番 貳枚 廣岡久右衛門所有
同 同 丙み號 四九〇貳番 壹枚 同人
同 百圓 丙る號 五八四六番 壹枚 同上
右證書紛失ノ旨届出ニ由リ十九年十二月大藏省告示第十八號ヲ以テ其取引ヲ停止シタル處今般發見ノ旨届出ニ付自今其停止ヲ解ク
明治二十一年十二月二十八日 大藏大臣伯爵松方正義

○大藏省告示第七十一號

起業公債證書無記名 百圓 第三號 四七九五番 壹枚
右ハ新潟縣下新潟區西大畑町士族田中充所有ノ分遺失ノ旨届出ニ由リ本年十一月大藏省告示第四百十七號ヲ以其取引ヲ停止シタル處今般發見ノ旨届出ニ付自今其停止ヲ解ク
明治二十一年十二月二十八日 大藏大臣伯爵松方正義

○逕信省告示第二百十四號

相摸國藤澤及同國國府津鐵道停車場電信取扱所ニ於テ來明治二十二年一月一日ヨリ公衆ノ通信ヲ開始ス
但左ノ電報ハ當分發著共之ヲ取扱ハス
明治二十一年十二月二十八日 逕信大臣子爵榎本武揚

一 返信料前納電報

一 尋問電報

一 別使配達電報

一 萬國電信條約書ニ據リ取扱フ電報

○逕信省告示第二百十五號

來明治二十二年一月一日ヨリ東京電信局熱海電信局間ニ當分ノ内電話通信ヲ開ク
但電話通信手續左ノ通相定ム
明治二十一年十二月二十九日 逕信大臣子爵榎本武揚

- 第一條 電話通信ヲ爲サント欲スルモノハ電信局ヘ其相手ヲ呼出コトヲ請求シ又ハ豫メ電信若クハ他ノ方法ニ依リ相互ニ日時ヲ期シ電信局ニ至リ對話スヘシ
- 第二條 電話料ハ五分時間以内ヲ金拾五錢トス五分時間以内ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ増課ス但電話通信料ハ電話者ノ一方ヨリ徵收スルモノトス
- 第三條 電話相手ノ呼出ヲ請求スルトキハ手數料トシテ九町以内ハ金五錢ヲ課シ一里以内ヲ金拾錢トス一里以内ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ増課ス
- 第四條 電話料及手數料ハ郵便切手ヲ以テ納付スルモノトス
- 第五條 電話時間ハ電話ヲ始メタルトキヨリ計算スルモノトス

法令全書

何指令

○徵兵服役期日ノ件(石川縣)何 明治二十年十一月二日

第一條 客年十一月勅令第七十三號ヲ以テ徵兵令中改正同令第三十六條但書於年四月十日ヲ十一月二十日ト更正相成候ニ就テハ明治十四年徵兵適齡者ノ如キハ來二十一年四月二十日ニテ滿七箇年期經過ノ者ニ候得共同年十二月一日ニ到ルニ非サレハ常備七年期ヲ經過シタル者トスヘカラサルニ候哉

第二條 前條ノ如ク徵兵令改正ノ上ハ本年第一次徵兵則令第十七條該當ノ者ハ本年十一月三十日迄ニ徵集ノ命ナキトキハ第二豫備徵兵ヘ編入相成ルヘキ哉ニ候哉或ハ來二十一年四月十九日迄ハ臨時徵集ノ命アルヘキモノトシ同年四月二十日ニ到リ第二豫備徵兵ニ編入相成ルヘキ哉ニ候哉

第三條 前條ノ如ク徵兵令中改正ノ上ハ令第三十二條中七箇年又ハ六箇年ハ改正前ニ係リタル者ト雖トモ毎年十二月一日ヲ以テ分界トシ可然候或ハ客年十一月勅令第三十一號ニ依據シ毎年四月二十日ヲ以テ分界トシ可然候

(陸軍省)指令 明治二十年十二月二十八日
同ノ趣左ノ通知得ヘシ
第一條 十四年徵兵適齡者ハ二十一年十二月一日ニ至リ常備七年期ヲ經過シタルモノトス
第二條 第三條前段同ノ趣

○歳入科目訂正方ノ件(司法省會計局)照會 明治二十年十二月二十三日
出納閉鎖後其年度ノ歳入科目並發見シタル場合有之トキハ過年度歳入課納下戻ヲ請求シ而シテ貴省御所管經費拂戻及缺損金ヨリ受入其發見セシ年度ノ歳入相當科目ニ編入納付スヘキ哉ニ候又課納下戻等ノ手續ハ要セス其科目並發見シタル場合ハ如何取計可然
然
追テ十九年度中ノ歳入ニシテ甲月ニ屬スル分ヲ誤テ乙月ニ組入報告シタル等ノ如キヲ出納閉鎖後發見シタル場合ハ如何取計可然
ナ

(大蔵省主計局)回答 明治二十一年一月七日
明治二十一年一月 指令 陸軍省 大蔵省

右科目訂正ノ義ハ金庫出納閉鎖後ニ付訂正難相成候間其整理ノ義務者大臣ヨリ報告大臣ハ報告相成度又十九年度歳入ニシテ甲月金庫へ納入ノ分誤テ乙月ノ歳入ニ組入報告セシモノハ金庫出納閉鎖後ト雖モ歳入訂正報告相成議ニ有之候

○露絲業組合規約ノ件(新潟縣) 明治二十年十二月二十日

客歲八月御省令第九號露絲業検査規則第九條ニ病海ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用ニ於テハ百分ノ十五以下ト規定有之候處露絲業組合ニ於テ原種ハ百分ノ四若クハ三以下或ハ無雜製絲用ニ於テハ百分ノ十若クハ五以下等右第九條ノ範圍内ニ於テ規約ヲ以テ之カ程度ヲ定メ認可願出ルトキハ認可ヲ與ヘ差支無之哉

(農務省)指令 明治二十一年一月九日

何ノ露絲種(微粒子病海)歩合ハ組合規約中ニ掲ケシメサル義ト心得ヘシ

○捕鳥及銃獵禁止ノ件(栃木縣) 明治二十年十二月二十四日

縣下安蘇郡越前村ニ一ノ官有沼アリ之ヲ越名沼ト稱ス此沼中ニハ往時ヨリ鳥類ノ類栖息セリ故ニ該村民ハ捕鳥及採藻ノ收益ヲ以テ捕口ノ資ト做セシモノ許多ナリ尤モ此捕鳥ノ一事ニ至リテハ夫々慣例アリテ安リニ濫獲スル能ハサルノ定メナリ然ルニ維新后職並ニ捕鳥ノ行ハレ砲聲濺發諸鳥安息スルヲ得スシテ竟ニ一羽ヲ止メサルノ不幸ニ遇ヒ爲メニ從來ノ慣例無効ニ歸スルニ至リ其影響該村民生計ニ苦シムノ状況有之候因テ其捕鳥業ヲ回復セシメ爲メ舊來ノ慣例ヲ斟酌シ一ノ規約ヲ設ケ本年ヨリ向フ三箇年間一切ノ捕鳥及將來銃獵禁止ノ義別紙寫ノ通願出候該地ハ現時捕魚採藻ノ爲メ該村民拜借地ニ係リ且他ニ隣害ヲ與フル等ノ事實無之加之將來取リ該村民ノ利益ノミナラス地方一般ノ幸福トモ相成候義ト認取候右ハ願意ヲ採納シ夫々禁止方法相設ケ不苦候義(別紙略ス)

(農務省)指令 明治二十一年一月十四日

何ノ通

○茶業組合設置及職員ノ件(靜岡縣) 明治二十一年一月十一日(電報)

茶業組合ノ設置會議所職員ノ數ハ創設ノ際ニ限リ當廳ヨリ指定スルモ若シカラスナ

(農務省)指令 明治二十一年一月十三日(電報)

茶業組合ノ設置ハ指定スル限リニアラス議員ノ數ハ此度限リ舊組合ノ規約ニテ定メタル數ヲ假リ用フヘシ

○寄留地ニ於テ徵集ニ應スル者取扱方ノ件(滋賀縣) 明治二十一年一月十二日

第一條 寄留地ニ於テ徵集ニ應スル者取扱方ニ付客年甲十二號ノ趣モ有之候露絲業令第七條及第十六條ニ當リ除役ニ因

スル者モ該訓令第二項ノモノト同シク取扱可然哉

第二條 徵集猶豫又ハ除役令第七條ニ因スル異動届ハ寄留地戸長ニ爲スヘキモノナルヲ以テ寄留地府縣ヨリ該届書ヲ原籍府縣ニ送致シ原籍ニ於テ戸籍ニ照較シ差違ナキノ報知ヲ得テ寄留地府縣ノ名簿ヲ削除シ可然哉

第三條 前兩條ニ當ル者ハ雙方府縣ノ徵兵要開鎖前ニ係ルトキハ徵兵表(舊稱)ニ掲載シ其事由ヲ備考ニ掲載致シ可然哉

第四條 訓令第十二號第一項ニ依然云々トアルハ一日モ間斷ナク同地ニ寄留スル者ニ限キラレタル義ニ候義又ハ同府縣内甲乙町村

移轉スルモノト雖モ一日モ間斷ナク同府縣内ニ寄留スルモノハ第一項ニ據リ取扱可然哉

(陸軍省)指令 明治二十一年一月二十三日

何ノ趣左ノ通心得ヘシ

第一條 第二條例ノ通

第三條 原籍府縣ノ徵兵表ニ記シ寄留地府縣ノ徵兵表ニ記スルニ及ハス

但原籍府縣ノ徵兵要開鎖後ニ係ルトキハ該府縣ヨリ領置ハ通願スヘシ

第四條 後段例ノ通

○所得届誤記ノ件(鹿兒島縣)同令 明治二十一年一月十九日
 郡長ニ於テ所得税法施行細則第十五條ノ違フ爲シタル後納稅者ヨリ同税法範圍外ノ金額ヲ納ムルハ個人官金及馬車稅等算入届出置タル旨ヲ以テ發シ届書中扣除ノ義申出タル者有之右ハ諸手當ノ名稱ニテ既ニ委員會ニ於テ議決セシモノナレトモ申立ノ事實相違ナキトキハ郡長ハ直チニ右違金額更正取計可然議ニ候哉

(大藏省主税局)回答 明治二十一年一月二十八日
 税法第十八條若クハ十九條ニ據ルノ外訂正ノ違ナシ

○所得届誤記ノ件(大阪府)同令 明治二十一年一月二十四日
 所得税法第十七條ニヨリ納稅者ニ所得稅等總金額ヲ達シタル後納稅者ニ於テ發シ届出ニ誤謬アリテ該總金額ニ原額アルヲ發見シ引直方ヲ申出ルモノアリ右ハ調査委員會ニ相當ト見認メ議決セシモノニ付第十八條ニ據リ郡區長ノ意見アルモノノ外ハ第十九條ノ期限内外ニ拘ハラズ總テ受理セサル儀ニ候哉

(大藏省主税局)回答 明治二十一年一月二十八日
 所得届誤リノ者ハ税法第十九條ニ據ルヲ得ヘシ

○所得届出高誤謬發見ノ際取扱方ノ件(福島縣)同令 明治二十一年一月二十一日
 所得稅調査委員會議決ノ未該税法施行細則第十五條ニヨリ等級稅金額等未達ノ後當初ノ届書金額ニ誤謬アリテ訂正方ヲ本人ヨリ郡長ヘ申出事實相違ナキモノ又ハ寺院等ニテ無形人ノ所得ヲ届出此儘調査委員會ニ於テ議定シタルヲ發見シ右處分方郡長ヨリ申出タルトキハ假令議定後ト雖トモ止ムヲ得サル儀ニ付更正又ハ取消ノ權留届不苦哉

(大藏省)指令 明治二十一年一月二十七日
 税法第十八條第二十條ニ據ルノ外訂正不相成

○茶業組合會議所設置方ノ件(神奈川県)同令 明治二十一年一月十四日
 昨年十二月御省令第四號ヲ以テ茶業組合規則被定候ニ付テハ官下各郡區ニ組合ヲ設ケ便宜ノ地ニ聯合會議所可設客ニ有之候處官下横濱區ノ如キハ各郡ト全ク其營業ノ性質種類ヲ異ニスルヲ以テ到底正制ヲ區別セサレハ整理難致候ニ付茲ニ繼則御發布相成候節モ經伺ノ上郡區各別ニ取締所設置爲致候儀ニ有之候依テ今回モ右ニ準シ該會議所郡區各別ニ爲致候置度候條御差支ノ儀無之候ハ、御關係相成度但各組合設置ノ上一應協議可爲致見込ニ有之候

(農商務省) 指令 明治二十一年一月二十八日

何ノ趣旨トシテ

○納額告知書押印ノ件(東京府)照會 明治二十一年一月二十日
農商務省主務官(借債賦取立方)青森縣ヨリ委託ニ付納額告知書押印ノ際ニ取付農務省主官ノ印捺捺候而己ニテハ當該管理ノ分ト出
指シ不都合ニ付右等ノ如キ場合ニ於テ某省主官何處委託ノ印ヲ捺捺シ區分候様致度候得共御差支無之哉
(大藏省主務官) 回答 明治二十一年二月二日

○茶業組合規則ノ件(中央茶業組合本部) 何 明治二十一年一月三十一日
昨明治二十年省令第四號ヲ以テ頒布相成候茶業組合規則ニ據リ各地方ニ於テ茶業組合設置可致順序相違ヒ候處該項中疑義
有之候趣ニテ各地方茶業取締所其他ヨリ當本部へ問合有之候ニ付左ノ件々奉伺候
第一項 製茶家ニテ製造中使役スル雇人ハ茶業組合規則第一條ノ茶業者範圍外ト心得可然哉
第二項 茶業者小數ナルトキハ三四郡若クハ一府縣合併シテ一組合トナルモ差支ナキ哉ト心得可然哉
第三項 組合又ハ聯合會議及中央會議ノ決議ニ據リ組合ノ名義ヲ以テ茶ヲ試製シ又ハ製茶ヲ試賣スルハ第十條ノ範圍外ト心得可然
哉
第四項 規則第十七條ハ議事ノ都合ニ依リ會議ニ於テ組長ノ出席ヲ必要トナス場合ニ限ル哉ト心得可然哉
第五項 同第二十條及第二十三條ハ議事ノ如何ニ拘ハラズ事務員ハ常ニ其會議ノ議員タルヲ得ル哉ト心得可然哉
第六項 組長ハ聯合會議及中央會議ノ議員ニ聯合會議所ノ事務員ハ中央會議ノ議員ニ選舉セラル、ヲ得ル哉ト心得可然哉
第七項 規則第四條ニ據リ販賣者ノミヲ以テ組織セシ組合又ハ產額僅少ニシテ賣買取引ノ盛ナル聯合會議所部内ハ其取引額ヲ以
テ產額ニ準シ規則第二十七條ニ據リ應分議員ノ數ヲ定ムル哉ト心得可然哉
第八項 粗惡不正茶取締ノ方法ハ組合規約ニ於テ之ヲ定ムルモ、ハキ義ニ候得共當業者ノ便宜ニ依リ聯合會議又ハ中央會議ニ於テ之ヲ設
ケルモ差支ナキ哉ト心得可然哉
(農商務省) 指令 明治二十一年二月一日

第一項 第三項第六項第七項及第八項何ノ趣

第二項 一府縣下ヲ通シテ一組合トナスハ同業者ニ於テ適宜之ヲ定ムルモ、ハキ義ニアラズ
第四項 規則第十七條ハ會議ニ於テ組長ノ出席ヲ要シ又ハ組長ニ於テ其部内組合ノ事ニ關シ會議ニ列シテ意見ヲ述フヘキ必要アル
場合ニ限リタルモノニシテ其方法及費用負擔ノ割合ハ總テ聯合會議所及中央會議所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第五項 第四項ノ趣
○茶業組合規則ノ件(埼玉縣) 何 明治二十一年一月二十七日
客歲十二月省令第四號達茶業組合規則中疑義ノ際々左ニ
第一項 第十七條ニ組長ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議及中央會議ニ列スルヲ得ルトアルハ撰選ノ有無ヲ問ハズ業ヨリ議員トナリ
合會議及中央會議ニ列スルヲ得ヘキ義ニシテ定員外ト見做シ可然哉將タ撰選權ヲ有スルニ止ル哉ニ候哉
第二項 第二十條聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得ルトアルハ等シク前項ノ如ク見做シ可然哉
第三項 第二十六條聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ撰定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議議員之ヲ撰定スヘシトアリ右ハ中央會議
員撰選權ヲシテ獨リ聯合會議議員ニ與ヘ候義ニシテ撰選權ハ一被撰選權ハ一被撰選權ハ一被撰選權ハ一被撰選權ニ候哉
第四項 本月十七日官報第一三六二號附則何ニ對シ會議所議員ノ數ハ此度限リ舊組合ノ規約ニテ定メタル數ヲ假リ用フヘシト御
指令アリ右ハ單ニ會議所トアル上ハ聯合中央兩會議議員共ニ舊組合規約ヲ假用スヘキハ勿論ニ候得共中央會議議員ノ數ニ至テハ
他ニ據ルヘキノ道ナキヲ以テ止ヲ得共舊組合規約ニ定メタル數ヲ用フルモ聯合會議議員ノ數ハ適宜本縣ニ於テ相定不苦哉
(農商務省) 指令 明治二十一年二月四日

○茶業組合規則ノ件(千葉縣) 照會 明治二十一年二月二日

第一項 會議ニ於テ組長ノ出席ヲ要シ又ハ組長ニ於テ其部内組合ノ事ニ關シ會議ニ列シテ其意見ヲ述フヘキ必要アル場合ニ限リタ
ルモノニシテ議員定員外トス
第二項 前項ノ趣
第三項 組合員ハ一被議員ノ被撰選權ヲ有ス
第四項 聯合會議議員ノ數モ舊規約ニ據ルヘシ
○茶業組合規則ノ件(千葉縣) 照會 明治二十一年二月二日
明治二十一年二月 指令 農商務省

一 第十一條ニ違反シタル者アルトキハ第三十六條ニ據リ罰セラル、コトシテハ規約中ニ違約處分ヲ要セサル様思考セラルトモ規約事項中違約處分ノ目アル上ハ不正不實ヲ製造スルカ費用負擔ノ義務ヲ怠リタル者等アルトキ之レカ違約處分ヲ爲シ其處分ニ服シタルトキハ規約ヲ遵守シタル者トシ處分ニ服セザルトキ初メテ罰金ニ處テ之ル、ノ運ヒニ至ルモノト思考セラル果シテ然ル義ニ候哉

一 第十六條組長ハ紛議ヲ仲裁シテ云々トアリテ第三十三條事項中紛議ヲ仲裁スルノ方法無之第三十四條事項中ニ明記アリ然ルニ組長ニ於テ仲裁スル以上ハ組合規約中ヘモ其方法ヲ明記セシムヘキヤ將タ會議所規約ニ掲クル所ノ方法ニヨリ仲裁セシメ會議所ハ仲裁セザル義ニ候哉

一 第十八條事務員トハ即チ役員ノ名稱ナリヤ果シテ然ラハ若干名ノ内其長ヲ互擧セシムルヲ得ヘキヤ將タ權利ノ同一ナル者數名ヲ匿クコトナレバ或ハ正副頭取等ノ名義ヲ付スル義ナラヤ

一 組合員ノ投票ハ從前取締所ヨリ交付セシム自今ハ各組合ヨリ交付シ懸離ノ檢印ヲ要セザルコトト四考候得共果シテ然ルヤ組合ノ希望ニ依テハ檢印シテ差支無之哉

一 組合及聯合會議所ノ兩者共ニ規約事項中違約處分ノ方法アリ弊ヘハ租運不正ヲ矯正スル方法等ニ就キ兩者共同ノ違約處分法ヲ掲ケ若シ組合員中違約者アリテ之ヲ處分スルニ組合ニ於テスルモ會議所ニ於テスルモ差支無之哉又ハ同一ニ處分スヘキ事項ヲ掲ケヘキ旨ニハ無之候哉

(農商務省農務局) 回答 明治二十一年二月七日
一 規則第十一條ニ違反セル者ハ罰金ニ處シ尙規約中違約金ヲ徴收スルノ項ニ觸レタル者ハ規約ニ據リ處分セラル、ノ義ニ候
一 同第十六條ニ據リ組長ハ紛議ヲ仲裁スルノ權ヲ有シ仲裁ノ方法ハ第三十四條ニ據リ聯合會議所ノ規約ニ掲ケ會議所ハ仲裁セザル義ニ候
一 同第十八條事務員ハ役員ノ名稱ニシテ罰金取等ノ名ヲ付セザル義ニ候
一 組合員ノ投票ハ其希望ニ據リ懸離ニテ檢印スルモ差支無之候
一 組合及聯合會議所ノ兩者共ニ規約事項中違約處分ノ方法ヲ掲クルノ必要アルハ勿論ノ義ニシテ一方ニ掲ケザルモノハ一方ニ掲ケシメザル義ニ有之候

○茶業組合規則ノ件(靜岡縣) 明治二十一年二月七日
客年十二月御指令第四號ヲ以テ發布相成候茶業組合規則第三十六條中第十一條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處

何ノ件ハ前段見解ノ通り
○茶業組合規則ノ件(三重縣) 明治二十一年二月十六日(電報)
茶業組合規則第十一條ニ據リ罰セラル、者ハ規約ニ定メタル違約者處分方ヲ拒ム者ニ限リ限ナレカ
(農商務省) 指令 明治二十一年二月二十日(電報)
何ノ件ハ違約處分ヲ拒ムト否トニ拘ハラズ罰セラル、儀ト心得ヘシ

○寄留者届出ノ件(石川縣) 明治二十一年二月六日
他府縣ヘ出寄留中本籍移動スルトキハ寄留所ハ轉セザルモ本籍異動ノ爲メ更ニ本人ヨリ寄留届ヲ爲サシムヘキ儀ニ候哉將本人ヨリハ寄留地戸長ヘ本籍異動セシノミノ届ヲ爲サシメ移動地戸長ヘハ本人ヨリ更ニ寄留届ヲ爲サシメ前住地戸長ヨリ送籍ノ際更ニ受理セシ出寄留届書ヲ引續キ移動地戸長ニ於テハ其引續書ニ依リ出寄留簿ヘ登記シ尙引續ニ依リ取扱タル事項ヲ記載セシメ出寄留ノ取扱ヲ終了爲致可然義ニ候哉

(内務省) 指令 明治二十一年二月二十一日
後段何ノ通

○車税規則取扱心得書ノ件(兵庫縣) 明治二十一年二月九日
第一條 客年十一月大藏省第六二五三號訓示車税規則取扱心得書第九項ニ車類ヲ變更シ税金ニ増差ヲ生シタルトキハ該期ヨリ其増差ニ係ル金額ヲ徴收スヘキ筋ニ相成居之ヲ例スルニ二月某日人力車一八乘ヲ二人乗トシ荷積馬車ヲ馬車一匹立ニ爲スモノ、如キハ既ニ原車ニ對シテハ稼額ノ部分ニ於テ税金徴收済ナルヲ以テ更ニ増差ニ係ル五十錢ヲ追徴スヘキ筋ニ可有之付テハ税表調理ニ於ケル追徴ノ税金ハ隨時收入ノ部ニ加ヘ備考ニ其事由ヲ詳記シ置可然哉

第二條 前條ニ反シ車類ヲ變更者ハ條籍シ税金ノ減額ヲ來タシタルトキハ該期ハ車籍帳帳ニ其事由ヲ記入スルニ止メ翌期ヨリ相當ノ税金ヲ徴收スヘキハ勿論付テハ税金調理ニ於テハ翌期ヘ稼額稅表備考面ヘ其事由ヲ記シ置クヘキ哉

明治二十一年二月 指令 農商務省 内務省 大藏省

九

明治二十一年二月 指令 内務省 大蔵省

第三條 車類ヲ修繕シ税金ニ差異ナキモノハ更ニ檢印ヲ要セサルモ之ヲ變更シタルトキ又ハ修繕シ税金ニ差異ヲ生シタルトキハ更ニ檢印ヲ請ハシムルハ勿論其變更車ニシテ税金ノ差異ナキモノトイヘトモ車籍帳ニ其事由ヲ記シ變更ノ迹ヲ明ニシ稅務調理ニ於テモ同上ノ心得ヲ以テスヘキ歟

(大蔵省)指令 明治二十一年二月二十一日

但シ第一條稅表ノ備考ハ菓子酒稅ノ例ニ準シ記載スヘシ第二條第三條ハ備考ヲ記スニ及ハス

○拾得從軍記章處分ノ件(福岡縣) 明治二十一年一月二十一日

明治七年從軍從軍記章尙明治十八年五月中遺失セシ者有之得者ニ於テ届出タルニ付直チニ成規ノ通リ手摺ヲ爲シ且ソ所屬營所ヘモ照會取調タレトモ北遺失者更ニ不相分就テハ該記章ハ之レヲ公賣ニ付スルモ經カナラサル様思料被致候仍テ該記章ハ陸軍省ヘ進達致シ可然歟

(内務省)指令 明治二十一年二月二十一日

何ノ趣置失者分明ナラサル從軍記章ハ賞勳局ヘ納付スヘシ
但費用及報勞金等支給ヲ要スル場合ニ於テハ賞勳局ヘ申出ツヘシ

○未納稅追徴方ノ件(宮崎縣稅務部) 明治二十一年二月二十三日

納稅期滿ニ際シ本人旅行又ハ失踪等ニテ財産ノ所在不明公賣處分ナシ能ハサル分ハ所在認知ノ簡稅金徵收方各府縣ヘ照會致シ來リ候處右稅金徵收シタルトキハ現金ノ同付ヲ受ケ所屬郡長ヘ交付シ金庫ヘ納付セシムヘキ哉又ハ十九年三月大蔵省令第四號歲入取扱順序第十六條第十七條第二項歲入ノ例ニ準シ徵收シタル府縣ニ於テ納付ノ手續ヲ了シ該府縣ノ報告ヲ得歲入報告書ヲ製シ御省ヘ進達スヘキ筋ニ候處且十九年大蔵省訓令第三十三號第五條ニ據レハ未納稅帳ニ記載シタル納稅者他管ヘ移住送達ノ簡不納ニ係ル爲スヘキ條ト存候果シテ然ラハ單身他管ヘ寄留シ再營業ヲ爲スカ如キモ是亦前陳同様引續キヲ爲シ其引續キヲ受ケタル管轄ニ於テ決算整理候處ニ候哉

(大蔵省主稅局計算課) 明治二十一年二月二十七日

第一節後段御見込ノ通リ第二節御見込ノ通リ第三節第一節後段ノ通リ御承知相成度

○海員雇入止證書用紙拂下代金收入豫算ノ件(三重縣) 明治二十一年二月十七日

本月十日會乙第一三九五號ヲ以テ二十一年度以降海員雇入止證書用紙拂下代金取扱方御通知其第三項二十一年度收入豫算高ノ内當應ノ分爲心得御通知ノ趣承了右ハ實者ヨリ夫々御仕障ノ上大蔵省ヘ御通報濟ト心得當認ヨリ別段追加豫算不及差出候處該年度ノ歲入豫算既ニ進達濟ノ今日ニ付テハ取扱上都合有之候條否至急御回報有之度

(逓信省會計局) 明治二十一年二月二十三日

右ハ當省豫算ニ編入有之ニ付追テ該年度豫算令送相成候上更ニ豫算高可及御引續者ニ候條右様御了知相成度

○所得稅臨時取調掛ノ件(兵庫縣) 明治二十一年二月二十四日

所得稅法施行細則第十六條ニヨリ設置候縣下神戶區所得稅臨時取調掛ノ條ハ來ル二十一年度ニ在テモ依然繼續可致ハ當然ト存候付テハ之レカ手當ノ條ハ同年度内國稅徵稅費ノ内ヘ被差加候答ト相心得可然歟

(大蔵省主稅局) 明治二十一年三月一日

右ハ總テ御申越ノ通ニテ可然被存候

○所得稅納人轉居セシ者處分ノ件(新潟縣) 明治二十一年二月二十二日

所得稅ヲ納ムルモノノ納期ニ至リ(例ハ三月一日)甲郡區ヨリ乙郡區ヘ轉居シタルトキ甲郡區役所ニ於テハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル後ニ付假令本人轉居先ニ納稅致度旨申出ルモ取扱上不都合ノ條ナキニアラサルニ付甲郡區役所ニ於テ徵稅可公致候ト存候條共發貳ニ涉リ候ニ付一應及御問合候

(大蔵省主稅局) 明治二十一年三月一日

右ハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル者ニ限リ御見込ノ通リ御取扱可然ト被存候

○單身寄留地應徵者身分取扱ノ件(東京縣) 明治二十一年二月九日

徵兵令第三十七條ノ寄留地應徵ニシテ補充當選ノ者該役滿期第一預備徵兵ニ移ル後本籍ヘ復歸若クハ他ニ寄留換ヲナセハ兵籍ハ本人ノ請願ニ依リ移轉無差支旨或ル縣(御指令)ノ趣モ有之候ニ候處該條ノ應徵者中ニハ單身寄留モ可有之一般兵籍ノ扱方ニ據ルトキハ單身寄留ニ在テハ兵籍轉換セサル制規ナルニ獨リ寄留地應徵者ニ限リ許可候テハ彼是權獨リ欠キ候處ニ被考候因テ令第三十七條ノ寄留地應徵者中單身寄留者ニ限リ補充員ノ役滿レハ本人請願ト否ニ係ラス總テ其籍ヲ本籍地ヘ移轉候條取扱致度

(陸軍省)指令 明治二十一年三月一日

明治二十一年三月 指令 逓信省 大蔵省 陸軍省

申請ノ通

○收稅官吏筆算料支給方ノ件(秋田縣)照會 明治二十一年三月一日
收稅官吏給與規則第六條ニ依リ筆算料ハ從來一箇月分ヲ、月俸決定日ヲ以テ支給致候處本部ノ如キハ平素共出張巡回員過半ニシテ其時々渡方差支ノ場合有之是等ノ爲メ徒ニ手数を要シ候處支給日ハ規則明文アラサレハ縣限リ指定スルハ敢テ差支無之ト認候條二十一年度ヨリハ一箇年ヲ四期ニ分テ三月分ツ、取與支給スルモ御差支無之哉

(大蔵省主稅局)回答 明治二十一年三月十六日
御見込ノ通

○徵兵令疑義ノ件(福島縣)伺 明治二十一年三月九日

第一條 徵兵令第三十七條ニ據リ寄留地ニ於テ徵集ニ應スルモノ、中徵集額三屬スル者取扱方各年御會訓令甲第十二號ヲ以テ御達相成候處其第一項中依然寄留地ニアレトキハ徵集額分濟迄寄留地府縣ノ管理ニ屬ストハ一箇年度限リ指シタル儀ニ候處將又延ヒテ七箇年間ニ及ホシ則チ常備年期中寄留地府縣ノ管理ニ屬スル儀ニ候處
第二條 前後後段見解ノ通りトセハ七箇年依然寄留地ニ在リテ徵集ニ應セントスルトキハ其都度徵兵令第三十七條ノ手續ヲ爲サシ
第三條 第一條後段見解ノ通りトセハ七箇年中身上最勤等ヲ生シ候節ハ寄留地管理ノ局長ハ届出サシムル儀ニ候處
(陸軍省)指令 明治二十一年三月十七日
伺ノ趣左ノ通心得ヘシ
第一條後段伺ノ通
第二條第三條伺ノ通

○陸軍省本部陸軍部測量局修養生ノ件(御阿蘇縣)照會 明治二十一年三月十九日
明治二十年御會訓令第五號陸軍部測量局修養生ハ徵兵令第十八條第四項ニ含有セル儀ト相心得可然哉
(陸軍省總務局)回答 明治二十一年三月二十六日
御見解ノ通

○開墾土地検査方ノ件(兵庫縣)伺 明治二十一年二月十七日

土地検査方ノ議ハ定期臨時ノ二期ニ分リ實地検査ヲ送ケ而シテ十八年御會訓令第四十九號邊ノ進達願限ニヨリ届申可致等ノ其趣昨検査ニ關スル新規開墾ノ議ハ地租調査後地租條例ノ御趣旨人民ニ貫徹シタル結果ト置候處動議ノ爲メ邊圍増殖トニヨリ近來之カ類出ヲ爲スモノ殊ニ増加シ而シテ之カ検査方請求スル願ハ急劇ニシテ恰モ酒樽油ノ造石検査願ト一般ノ感ヲ顯セリ要スルニ開墾ノ事タル十箇年ノ季節ト作付ノ時季トヲ慮リ之ヲ爲スモノナルカ故ニ開墾ノ時季ヲ過リ又ハ計可前開墾者手シ地租條例ニ照ル、ヲ恐レ受檢ノ急ヲ欲スルニ外ナラス如此事實ナルヲ以テ出願後速ニ検査ヲ爲サ、レハ再三急ヲ促シ來リ猶豫シ能ハサル情況ナリシ然ト雖トモ限リアル検査員ト限リアル費用ナルヲ以テ毎ニ人民ノ願望請求ニ應スル能ハス自然開墾ノ時季ヲ過ラシメ候節開墾者ト實ニ少シトモ夫レ如斯ニシテ止マサルハ將來或ハ無願開墾ノ犯則者ヲ養成スルノ弊ナキヲ保スヘカラス深ク憂フル所ニ有之候抑モ開墾出願ノ最モ多キ季節ハ本縣ニ於テハ十月ヨリ翌年四月迄ノ間ニシテ此季節ニ於テハ造酒盛時ノ際ナルヲ以テ外部ニ在テハ土地検査ニ從事スヘキ餘理無之内部ニ於テモ事務最モ繁劇ノ季節ニ有之加之費用ニ限リアルヲ以テ隨時検査員ヲ増加セシムル能ハス爲メニ人民ノ請求ニ應スル能ハサルモノナリトス因テ按スルニ開墾ノ急ヲ要スルモノニ限リ先以テ開墾者手ノ議ヲ特許シ他日實地検査ノ上級下年季ヲ査定スルモノトセハ實際不都合無之ノミナラス却テ官民トモ便利ヲ得ルコト請フ計ナラサル儀ト相見込候處昨ハ前限検査事務繁劇且開墾急ヲ要スル場合ニ限リ特ニ検査以前開墾者手ノ議特許致度尤モ級下年季査定方ノ議ハ一層注意爲候條特ニ御見込ノ通御趣旨相成度
(大蔵省)指令 明治二十一年三月十二日
伺ノ趣短年期ヲ要スル種類ニシテ着手以後ト雖トモ年期査定無差支モノハ申出ノ通取計咨シカラス
但着手後逾クモ三箇月以内ニ検査セシムル儀

内閣法制局裁定

裁定書

右縣知事ト縣會トノ間ニ於テ明治十九年勅令第四十三號福島縣下越後國東海郡管轄等ニ因テ生シタル地方稅支辨ノ件ニ付權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如シ
新潟縣知事 篠崎 五郎
新潟縣會議長 山口 禮三郎

明治二十一年三月 大蔵省 指令 内閣法制局裁定

縣會ノ具狀

府縣會規則第六條ニ據リ明治十九年度地方稅收出納算ノ報告書ヲ受ケ之ヲ調査セシニ同年五月勅令第四十三號ヲ以テ福島縣管轄ノ内務縣管轄ニ屬セラレシ越後國東蒲原郡ニ係ル地方稅收出納算ノ別紙添付書ノ如ク支辨シアルニ付本會ハ之ヲ不當ナリトシ其内引ヲ求メタルニ縣知事代理人ハ當時福島縣ヨリ引繼ノ際地方稅收出納算ノ如キハ該縣收入豫算額ノ内引繼前ノ實費ヲ扣除シ其殘額ヲ收入豫算額ニ割合以テ該郡所屬ノ殘額ヲ定メ之ヲ引受タルモノニシテ即チ雜收入ニ編入セシ金六千五百五拾六圓四拾四圓ハ是ナリ其支出豫算ノ如キハ別ニ引繼モ無之ニ付直ニ本會カ議決シ置タル豫算金額内ヨリ支辨セリ且越後上ノ變動ニ出タルモノナレハ逆常規則ヲ以テ律スヘキモノニ非サルカ故ニ内務大臣ノ邊ニ依テ之ヲ所置シタリト答辯セリ是ニ於テ權限ヲ爭ヒ御裁定ヲ乞フニ至レリ

縣知事代理人ハ單ニ其收入豫算ノ殘額ヲ引受ケ之ヲ雜收入ニ編入シタルモノナレハ其必要ノ費目ニ關ヒ直ニ本會カ議決シ置タル豫算金額内ヨリ支辨スル固ヨリ當然ナリト云フト雖モ其所置議決豫算ノ如キハ該郡カ未タ當縣管轄ニ屬セラレサル前一區十七郡ニ於テ當ニ爲スヘキ事業ニ對シ限メ設ケ置タルモノニシテ他ノ用途ニ應スヘキモノニアラサレハ直ニ之ヲ以テ該郡ノ經費ニ充テシハ本會ノ議決ヲ破リタルモノトス

縣知事代理人ハ越後上ノ變動ニ出タルモノナレハ通常規則ヲ以テ律スヘキモノニアラサルカ故ニ内務大臣ノ邊ニ依テ所置シタルモノナレハ相當ノ所爲ナリト云フト雖モ抑府縣會ノ權限タル規則第一條ニ明示セル如ク北經費ノ豫算及ヒ徵收方法ヲ請定スルハ固ヨリ其所ナリ假リニ該年度中ハ暫ク福島縣會ニ於テ議決セシ儘施行スルモノトスルモ其徵收ハ或ハ可ナラン經費ノ如キニ至テハ何ノ依リ所アリテ之ヲ支出セシヤ既ニ該縣會ノ議決ヲ知ラス又本會ノ議ニ付セズ要スルニ縣知事ハ該會ヲ蔑視シ越後上ノ變動ヲ爲シタルモノナリト信ス

前條々ニ於テ陳辯シタルカ如ク縣知事ハ本會ノ議決ヲ破リ猶又當ニ議スヘキノ權利ヲ奪ヒタルハ法律ノ範圍外ニ出テ越後上ノ所置ヲ爲シタルモノナリト信ス

縣知事ノ答辯

今般縣會ニ於テ縣知事ト權限ヲ爭フトノ故ヲ以テ之カ裁定ヲ仰ケノ具狀書ヲ呈出セリ縣會ハ條項ヲ四箇ニ別チ云々スレトモ今其要領ヲ尋ケレハ明治十九年度地方稅收出納算ノ報告書中ニ十九年五月勅令第四十三號ヲ以テ福島縣管轄ノ内務縣管轄ニ屬セラレシ東蒲原郡ニ係ル地方稅收出納算ヲ支辨シアルハ不當ナリ又新海縣會カ議決シ置タル豫算ノ如キハ該郡未タ本縣管轄ニ屬セラレサル前一區十七郡ニ於テ當ニ爲スヘキ事業ニ對シ限メ設ケ置タルモノニシテ他ノ用途ニ應スヘキモノニアラサレハ直ニ之ヲ以テ該郡ノ經費ニ充テ

ノ經費ニ充テシハ新海縣會ノ議決ヲ破リタリ又假リニ該年度中ハ暫ク福島縣會ニ於テ議決セシ儘施行スルモノトスルモ其徵收ハ可ナラン經費ノ如キニ至リテハ何ノ據リトコロアリテ之ヲ支出セシヤ該縣會ノ議決ヲ知ラス又新海縣會ノ議ニ付セズ縣知事ハ該會ヲ蔑視シタルモノナリト云フニ外ナラス要スルニ縣知事ハ新海縣會ノ議決ヲ破リ猶又當ニ議スヘキノ權利ヲ奪ヒタルハ法律ノ範圍外ニ出テ越後上ノ變動ヲ爲シタルモノナリト謂フニ在リ

抑東蒲原郡十九年度ニ屬スル地方稅收出納算ハ其支出豫算ハ福島縣會ノ議定ニヨリ福島縣ニ於テ施行シ來リタル儘ヲ繼續シ收入豫算ハ其豫算額内ヨリ引繼前日迄ノ支出實費ヲ扣除シ其殘額ヲ既在各郡ノ徵收金額ニ割合以テ該郡ニ屬スル金額ヲ定メ之ヲ引受タルモノナレハ收支豫算金額ノ符合セサルハ勢ヒ免レサル所ニシテ又分割上如斯ナサハルヲ得サルモノナリ然レトモ該郡ニ屬スル支出金ハ先ツ雜收入トシテ引繼ヲ受ケタル金額ヨリ支辨シ其不足ハ特ニ之ヲ豫備費ヨリ支出シ本縣各費目ノ豫算金額内ヨリ支辨シタルニアラス且ツ預算報告書ニ於テモ明確セシカ如ク本縣既定ノ豫算額ヲ變更シ置タルニアラス支出相當ノ費目ニ就キ繼續完結セシモノナレハ繼續ヲ僞フタルモノトモコトナシト信ス

又不足ニ係ル或千貳百貳拾圓七拾五錢四厘ヲ豫備費ヨリ支出シタルハ(當置委員ハ當問セシニ本件ニ在リテハ可否ヲ論セス當問ヲ返付スルニ議決セリ)臨時地方官事務ノ變動ニ因リ生シタル事件ノ費途ニ付地方稅規則第三條末項附註ヲ適用シ施行セシモノニシテ當縣會ノ議決ヲ破リタルニアラス又經費云々ノ如キハ前條ノ通一且福島縣會ノ議定ヲ經タルモノナレハ再ヒ之ヲ議サシムルノ必要ナキノミ決シテ該會ヲ蔑視シタルニアラス

以上陳辯ノ如ク法律ニ照シ又勅令第四十三號ニ照シタル内務大臣ノ訓令ニ依リ處置シタルモノナレハ決シテ議決ヲ破リ議會ヲ蔑視シ越後上ノ變動ヲ爲シタルモノニアラスト確信ス

審明

本件縣知事ト縣會ト權限ヲ爭フノ要點ハ明治十九年勅令第四十三號ヲ以テ福島縣管轄下東蒲原郡ヲ新海縣ニ屬セラレシニ當リ縣知事カ該郡ニ係ル地方稅收出納算ヲ直ニ新海縣會ノ議定シ置キタル豫算金額内ヨリ支辨シタルハ不當ノ處置ナルヲ否ニ在リ依テ審按スルニ縣會ハ縣知事代理人ノ說明ニ當時福島縣ヨリ引繼タル收入豫算ノ殘額ハ之ヲ雜收入ニ編入シ其支出豫算ハ別ニ引繼モ無之ニ付直ニ新海縣會カ議決シ置タル豫算金額内ヨリ支辨セリト云フニ對シ其所置豫算金額ハ該郡カ未タ當縣管轄ニ屬セラレサル前一區十七郡ニ於テ當ニ爲スヘキ事業ニ對シ限メ設ケ置タルモノナレハ縣知事カ直ニ之ヲ以テ該郡ノ經費ニ充テシハ本會ノ議決ヲ破リタルモノナリ既ニ福島縣會ノ議決ヲ知ラス又本會ノ議ニ付セズ縣知事ハ越後上ノ變動ヲ爲シタルモノナリト謂フ然レニ縣知事ハ東蒲原郡ニ屬スル支出豫算ハ福島縣會ノ議定ニ依リ該縣ニ於テ施行シ來リタル儘ヲ繼續シ其支出金ハ先ツ雜收入トシテ引繼ヲ受ケタル金額ヨリ

支辨シ其不足ハ本縣ノ豫備費ヨリ支出シ各費目ノ豫算金額内ヨリ支辨シタルニアラス且其經費ハ一旦福島縣會ノ議定ヲ經タルモノナレハ再ヒ之ヲ議セシムルノ必要ナシト答辯セリ要スルニ縣知事ノ答辯スル所ト當初代理人カ說明スル所ト其事實ヲ異ニスルヲ以テ本件爭論ノ因テ起ル所ノ十九年度地方稅額報告書ヲ見ルニ縣知事ハ福島縣ヨリ引續タル東瀨原郡ニ關スル金額ハ豫算額ニ入リシ其經費ハ新瀉縣會ノ議定シタル各費目ノ豫算金額内ニ於テ東瀨原郡ニ係ル支出實費ヲ掲ケ決算ヲナシタルモノナレハ之ヲ新瀉縣會カ議定シ置タル各費目豫算金額内ヨリ支辨セリト謂ハサルヲ得テ抑府縣管轄分合ノ際ニ當リ特定ノ法律ナキ場合ニ於テハ其地方稅收支ニ係ル事件ハ府縣會規則及地方稅規則ノ範圍内ニ於テ施行スヘキモノトス故ニ甲府縣會ノ議決ヲ經ルカ又ハ乙府縣ヨリ受クル所ノ收入金ヲ以テ之ヲ甲府縣ノ經費ニ合シ之ヲ支出スルニ乙府縣會議決ノ豫算ニ據リ若シ其經費ニ不足ヲ生ズルキハ甲府縣ノ豫備費ヨリ支出スルヲ當然トス然レニ本件縣知事カ東瀨原郡ニ係ル經費ヲ支出スルニ新瀉縣會ノ議決ヲ經ス福島縣會ノ議決ニ據ラズシテ其經費ヲ支出シタルハ法律ノ範圍外ニ出テタル處置ナリトス

右ノ理由ニ依リ縣知事カ直ニ新瀉縣ノ地方稅豫算金額内ヨリ東瀨原郡ノ經費ヲ支出シタルハ不當ノ處置ナリトス
明治二十一年二月二十八日

- 審理委員長 井上 毅
- 審理委員 法制局長官 馬屋原 彰
- 審理委員 法制局參事官 平田 東助
- 審理委員 法制局參事官 男谷 忠友
- 審理委員 法制局參事官 廣瀨 進一
- 審理委員 法制局參事官 中根 重一
- 審理委員 法制局參事官 大島 邦太郎

裁定書

右縣知事ト縣會トノ間ニ於テ明治十九年度信濃川堤防改築増工費ノ件ニ付法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭ヒ府縣會規則第九條ニ依リ裁定ヲ仰クノ要領左ノ如ク

縣會ノ具狀

明治二十年通常縣會ニ於テ明治十九年度地方稅收支豫算報告書ヲ受ケ之ヲ審査スルニ信濃川堤防改築費豫算金額拾貳萬八千八百四拾四圓拾八錢四厘地方稅一、二、九、八、三、六、六、九、四、兩、河、村、出、額、一、五、八、六、〇、五、一、五、ハ第一工區ヨリ第三工區ニ至ル工費ニ充テタル處ノ經費ナリ然レニ該年度實費々額精算ハ金拾萬貳千貳百三拾五圓五拾九錢ヲ以テ工區内ノ工費ヲ完了シ殘金貳萬八百貳拾六圓六拾九錢ノ剩餘ヲ生ジタリ而シテ縣知事ハ其殘餘金ノ内ヲ以テ流石堤新田堤境地ヨリ萬代橋ニ至ル延長三百貳拾五間ノ舊堤防ハ脆弱ナリト認メ増工費ヲ要シ豫算委員ニ諮問シ金五千圓四拾貳圓九拾六錢壹厘ヲ支出シ其餘ノ殘金ハ二十年へ繰越シタリ本會ニ於テ該増工費ハ細細事業中ノ工區内ニアラス從テ縣會ハ未タ之カ經費ノ議決ヲ爲サ、ルノ工費ヲ縣知事ハ如何ナル理由ヲ以テ豫算委員ニ諮問シ施行シタルヤ質問シタルニ縣知事代理人ハ日増工費ハ細細事業中ニアラス雖モ必要不得止モノト認メ、リ日府縣會ハ經費ノ豫算ヲ議決シ得ルモ事業ノ伸縮ハ府縣知事ノ權内ナリ故ニ第一工區内ノモノト見做シ施行シタリト答辯セ、リ依テ本會ハ縣知事ノ處置ヲ不當トシ其理由ヲ具陳シ御裁定ヲ仰ク左ノ如ク

第一明治十九年度信濃川堤防改築費豫算金ハ第一工區ヨリ第三工區ニ至ル延長三千七百拾七圓三分ノ工費ヨリ成リ立チタルモノニシテ該三箇工區ノ工費ヲ完了シタル上ハ其殘餘金ハ翌々年度ニ繰越スヘキモノナルニ縣知事ハ濫リニ縣會カ未タ會テ議定セザル工費ヲ施行シ越權ノ處置ヲナシタリ本會カ明治十九年度ニ議決シタル豫算金額ハ前記三箇工區(延長三千七百拾七圓三分)ノ工費ニシテ他ノ工區外ノ工費ヲ施行シ得ヘカラサルハ府縣會規則第一條ニ依テ明ナリ何トナレハ同條ノ經費トハ同ト事業ニ對シ必要ナルモノニシテ事業以外ニ經費アルヘキノ謂ナク又事業ハ地方ノ狀況ニ應ジテ地方議會ノ見ル處ヲ以テ緩急其宜キヲ制セサルヘカラサルモノニシテ地方議會カ地方稅收支豫算ヲ議決スルノ權利ヲ享有シタル骨髄ナリ假リニ一歩ヲ譲リ縣知事カ事業ノ伸縮ヲ便宜ニスルノ權アリトスルモ縣會ノ議決ヲ經タル事業ニ於テ其方法順序ヲ便宜ニスルノ權タルニ過キサルナリ苟モ府縣會規則ノアラン限リハ未タ縣會ノ議決セサル事業ヲ便宜分スルノ權アルヲ問カサルナリ然レニ縣知事ハ豫算ニ過剩金アルノ故ヲ以テ議會カ未タ會テ議決セサル經費ニ充用シタルハ府縣會規則第一條ヲ犯シ縣會ノ議決ヲ蹂躪シタルモノト云ハスシテ何ソヤ

第二縣知事ハ該工費ヲ以テ第一工區内ノモノト認メタルモ亦其見解ヲ誤リタルモノト謂フヘシ該増工費ハ決シテ第一工區内ノモノニアラス亦該議決シタル細細事業中ノ工區内ニモアラサルナリ蓋シ工區ナルモノハ空想無源ノモノニアラスシテ甲所ヨリ乙所ニ至ル其間(若干間數ナレ)一定不動ノ區域ヲ保ツノ名稱ナリ若シ此區域間數外ニ工費アリトスレバ其ハ別工區ニ屬スヘキモノニシテ第一工區ニアラサルハ明カナリ果シテ然ラハ縣知事ハ縣會ニ當然議決セシムヘキ事項ヲ議定セシメヌシテ之ヲ常置委員ニ諮問シ支出シタルハ府縣會規則第一條ニ背キ法律ノ見解ヲ誤リタルモノト謂フヘシ

縣知事ノ答辭

縣會ハ明治十九年度地方稅收出納算報書中信濃川堤防改築費ノ内第一工區ニ於テ長三百二十五間ヲ當初ノ目録見ヨリ伸長シ之ニ對スル金五千五百四拾貳圓九拾六錢壹厘ヲ支出シ其餘ノ發金ハ二十年へ繰越シタルヲ以テ府縣會規則第一條ニ當キ經費ノ議決ヲナサハル工率ヲ施行シタルモノトナシ裁定ヲ乞フノ具狀書ニ對シ答辭ヲ爲ス左ノ如シ

抑信濃川堤防改築工事ヲ計畫スルニ方リ古志郡長岡以下中浦原郡流作場新田ニ至ル迄延長四萬八千六百五拾間八分ノ堤防ヲ改築スルヲ必要ナリトナシ是ニ對スル經費金四百拾壹萬四千貳百拾貳圓貳拾陸錢九厘(外金貳拾萬六千八百八拾六圓六拾九錢三厘ハ關涉町村費)ヲ明治十九年九月臨時縣會ニ於テ可決シタリ然レトモ此巨額ノ費用ハ固ヨリ一時ニ徵收シ得可サルヲ以テ明治十九年度ヨリ同三十一年度マテ向フ十三箇年ヲ以テ工事ヲ竣功スルモノトナシ毎年度經費徵收ノ區分ヲ立ル爲メ假リニ改築全區ヲ別テ四十五工區トナシタリト雖モ此工區ナルモノハ固ヨリ議決ノ大體ニ關セサルモノニシテ決シテ一定不動ノモノニアラス工費豫算ノ總計ヲ十三年ニ分算假定シタルモノニ過キサルヲ以テ實地施行ニ際シテハ其工區ノ間數ヲ増減伸縮スルハ勿論有キ其年度ノ豫算額内ニ在リテ臨時工率ノ伸縮ヲナスハ固ヨリ理事者ノ職權ナリトス故ニ其工區ニ於テ若干間ヲ縮少スレハ又一方ニ於テナハ若干間ヲ伸長スル等ハ施工上爲サハル可ヲサルモノニシテ固ヨリ議決ノ範圍内ニ在リテ派助スルモノナリ況ンテ理事者ハ當初臨時縣會ニ議案ヲ發スルニ當リ附スルニ信濃川堤防改築計畫書ナルモノヲ以テ實地起工ノ際ニ至レハ河狀ノ變ニ應ジ應機更正スルコトアル可キ旨ヲ明示シ置タルニ於テオヤ

以上陳述スルカ如クナルヲ以テ信濃川堤防改築事業中十九年度豫算金額内ヲ以テ同年度ノ工區ヲ伸長シタルハ決シテ府縣會規則第一條ニ當キタルモノニアラサルモノト認議ス

審明

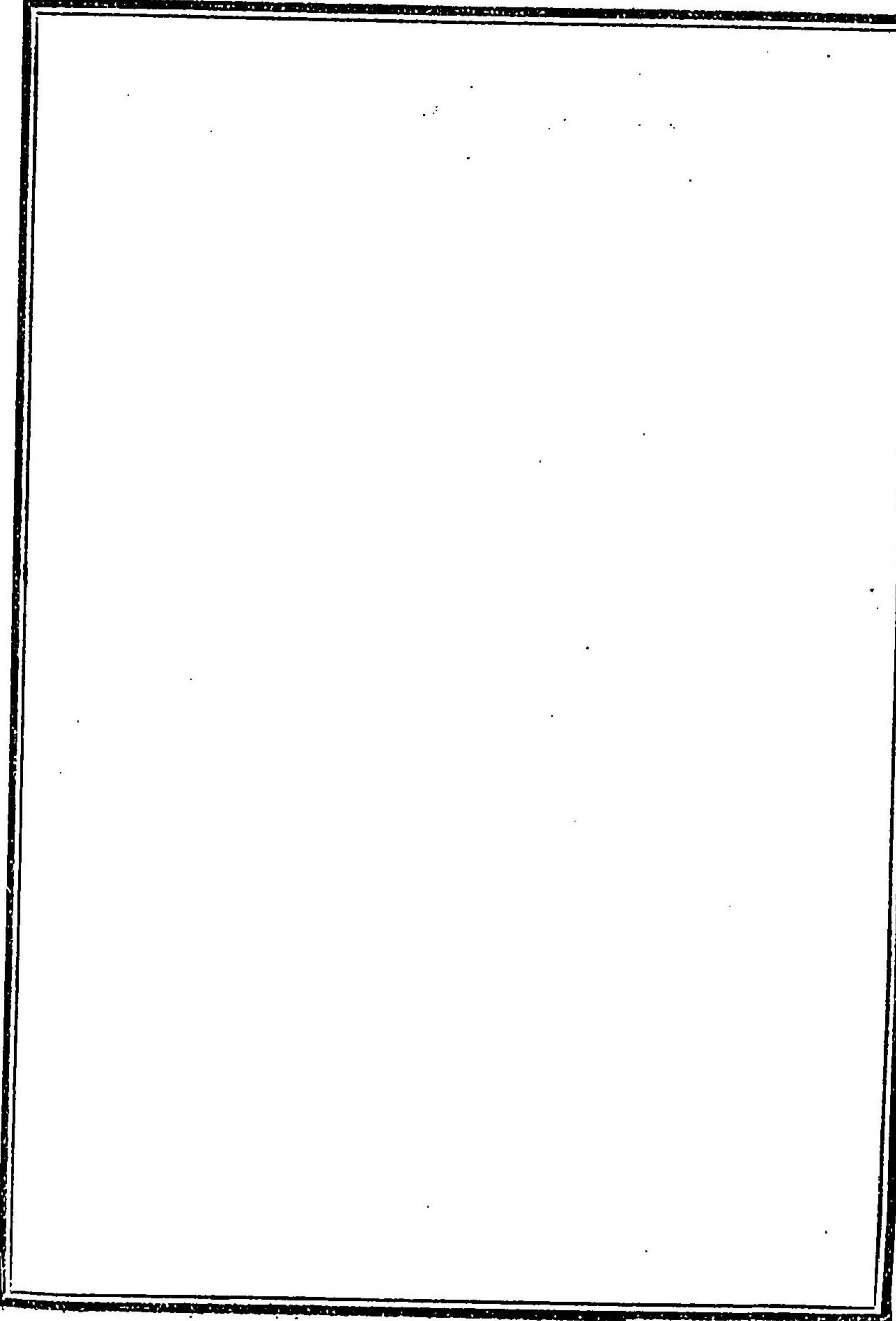
本件縣知事ト縣會ト法律ノ見解ヲ異ニシ權限ヲ爭フノ要點ハ縣知事カ信濃川堤防改築ニ付流作場新田堤防延長ヨリ萬代橋ニ至ル舊堤防ノ工事ヲ必要トシ縣會ノ議決ヲ經テ審議委員ニ諮問シテ之ヲ施行シ明治十九年度信濃川堤防改築費豫算額内ヲ以テ其費用ヲ支出シタルハ其當ヲ得タルヤ否ニアリ依テ審議委員ニ信濃川堤防改築ノ工費ハ明治十九年度臨時縣會ニ於テ議決スル所ニ係リ地方稅規則第四條第二項ニ據リ十三箇年ヲ期シテ支辨スルモノトシ其工區ハ古志郡長岡以下中浦原郡流作場新田ニ至ル延長四萬八千六百五拾間八分ヲ分テ四十五工區トシ其工費ノ豫算ヲ金四百拾壹萬四千貳百拾貳圓貳拾陸錢九厘ト定メタルモノニシテ即チ十九年度ニ係ル工費金拾貳萬八千八百四拾四圓九錢四厘ハ縣會カ第一工區ヨリ第三工區ニ至ル工事ニ對シ議決シタルモノナリ而テ縣知事ハ此工區ナルモノハ經費ノ區分ヲ立ル爲メ假リニ定ムル所ニシテ固ヨリ議決ノ大體ニ關セサルモノナレハ實地施行ニ際シテ應機更正スルモノト認議ス

判決

右ノ理由ニ依リ縣知事カ縣會ノ議決ヲ經シテ流作場新田ヨリ萬代橋ニ至ル増工事ヲ起シ十九年度信濃川堤防改築費豫算額内ヲ以テ其費用ヲ支出シタルハ不當ノ處置ナリトス

明治二十一年二月二十八日

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 管理委員長 | 法制局長官 | 井上 毅 |
| 管理委員 | 法制局參事官 | 馬屋原 彰 |
| 管理委員 | 法制局參事官 | 平田 東助 |
| 管理委員 | 法制局參事官 | 男谷 忠友 |
| 管理委員 | 法制局參事官 | 廣瀨 進一 |
| 管理委員 | 法制局參事官 | 中根 重一 |
| 管理委員 | 法制局參事官 | 大島 邦太郎 |



○菓子税則取扱方ノ件(秋田縣)訓令 明治二十一年四月五日

菓子税則取扱方訓示アリ其二項検査員ノ意見トハ製造人各自ニ就テノ事カ又四項検査員ノ報告書トアルハ意見ノ相違ナルヲ御覽アレ

(大蔵省主税局)回答 明治二十一年四月五日

○菓子税則取扱方要領ノ件(神奈川縣)照會 明治二十一年四月六日
菓子税則改正相成候ニ付取扱方要領大蔵大臣ヨリ訓令有之候處其第四項ニ租税検査員ノ報告書云々ト有之右報告書トハ同第二項ニ
ヨリ郡區長カ検査員ニ意見ヲ聽キタル場合之ニ對シ検査員ノ覽上ケ見込額ヲ各營業者ノ届出高ニ比照シ其意見アルモノヲ報告スル
儀ニ可有之儀又同第六項ノ精神ハ検査員ハ常ニ一般營業者ノ分限並ニ其不正ヲ巡視シ内正業者ニ對シテハ寬待ノ検査ヲ與ヘ不正
業ニ向テハ嚴密ノ検査ヲナスト云フ意趣將テ正業者ニハ検査ヲナス單ニ不正業者ノミニニ検査ヲナス儀ニテ然ラハ税則第十
五條ノ検査ハ不正業者ニ向テ施行スルニ止マル儀ニ可有之乎隨テ前項報告書ハ隨時隨地セシ不正業者中意見アルモノハミニ就テ之
ヲ報告スル儀ト心得可然乎

(大蔵省主税局)回答 明治二十一年四月十日

要領第四項報告書トハ第二項郡區長ヨリ意見ヲ聽キタルトキ報告スルモノニ非ラス又不正業者ニ關スル意見ノミニヲ報告スルモノニ
モ無之都テ検査員ニ於テ正業者不正業者ノ別ナク税額調査上必要ト認メタル事狀アルトキハ何時モ報告スヘキ義ニ有之又第六項位
置ハ不正業者ノミニ止ムルト云フノ精神ニハ無之正業者ト雖モ必要ト認ムル場合ニ於テハ何時モ隨檢スルハ勿論ニ有之員不正業者
ト同ク頻繁隨檢シテ彼レカ營業ノ煩ヲ爲ス等ノ弊ナキヲ期スルノ精神ニ有之候

○租税検査員旅費支給方ノ件(埼玉縣)訓令 明治二十一年三月二十九日

租税検査監督員巡回旅費支給方ノ義ハ内國旅費規則ニ照據シ現地巡視アルトキハ三割増日當及汽車車馬賃等支給致シ來リ候處近來
諸費節約ノ折柄ニ付現地巡視日當額ト普通日當並ニ車馬賃額ト對照シ其多キ方ヲ以テ支給額ニ相定候ハ、幾分ノ減少可相成ニ付來
四月一日ヨリ施行致度

(大蔵省)指令 明治二十一年四月十日

伺ノ趣開居候租税検査監督員ノ巡回旅費ハ現地巡視日當額ト其日ノ普通日當並車馬賃額トヲ對照シ其多キ一方ヲ支給スヘシ

○當該公債証書利子拂渡方ノ件(日本銀行)訓令 明治二十一年四月六日

本月抽籤ヲ以御償還可相成七分金該公債三百万圓ニ對スル十箇月間利子金ノ儀ハ該元金償還ノ際同時ニ可拂渡ハ勿論ノ處本月ニ至

明治二十一年四月 指令 六號省

候テハ各所管廳於テ來五月渡該公債利金拂渡報告編製ニ從事可致ニ付抽籤執行ノ日取ニヨリテハ自然報告後ニ涉リ候哉モ豫計
其ノ上管廳於テ更正報告差越候様相成候テハ獨リ煩雜ヲ極メ候ノミナラス債主於テモ難分ノ手數ヲ要シ候様立至リ候間右附屬利金
ノ内昨二十年七月ヨリ十二月迄三保六個月間利金ノ分ニ限リ昨二十年四月抽籤執行ノ節同事ノ何ニ對シ第二九二五號ヲ以御指
令ノ通同様來五月ニ於テ定期ノ支拂ヲ爲シ爾後元金拂渡ノ際ハ當一月ヨリ四月迄四箇月間端數利子拂渡ノ儀ニ御允許被下度
(大蔵省)指令 明治二十一年四月十一日

○菓子税則取扱心得及取扱要領中疑義ノ件(長野縣)伺 明治二十一年四月七日
本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子税則御改正相成續テ三月三十日付ヲ以テ本年七月以後該税則取扱方要領御訓達相成候處左ノ各項疑
義ニ涉リ候間相伺候

第一項 菓子税則第十四條御改正ニ付テハ同則取扱心得第十三項ハ消滅ノ儀ナルカ果シテ然ラハ税額調査ノ材料ナキニヨリ便宜
照合ヲ以テ相定メ可然歟

第二項 御訓達第二項ハ各營業人ヨリ届出タルモノヲ調査ノ上不相當ナキモノト認ルモ製造高賣上高納税額一人別表ヲ製シ租稅檢
査員ニ廻付シ當否ノ如何ヲ聽クノ精神ナルヤ

第三項 同第三項ハ一月一回カ又ハ二箇月ニ一回カ郡區長ニ於テ臨時検査ヲ爲シ豫想ヲ定メ置キ尙稅額ヲ調査スル前必ス郡區長各
營業者ニ就キ觀察スルノ儀ナルカ將タ稅額調査ノ際ニ方リ觀察スルノ儀ナルヤ又ハ同第四項ニ時宜ニ應ジ收稅長ニ協同シテ實地
ノ検査ヲ求ムルコトアルヘシトアルヲ以テ見レハ郡區長ハ實地ノ検査ヲナサス唯營業者各自ヨリ届出ト前期ノ製造高賣上高納
ヲ参照シ尙爾後營業上ノ盛衰ヲ商榷シテ當否ヲ調査スルニ止ル儀ナルヤ

第四項 同第四項ニ郡區長ハ租稅檢査員ノ報告書ヲ参照シ云々トアルハ同第二項郡區長ヨリ租稅檢査員ノ異見ヲ聽ク爲メ廻付スル
一人別表ニ對シ檢査員ヨリ報達セシ報告書ヲ参照シ當否ヲ考察スルノ儀ナルヤ

(大蔵省)指令 明治二十一年四月十四日
伺ノ趣第一項ハ申出ノ通第二項以下ハ令般主稅局長ヨリ收稅長ヘ廻付シタル菓子税則取扱方要領問答ニテ了解スヘシ

○土地分割賣入地公賣處分ノ件(靜岡縣)伺 明治二十一年一月二十一日
登記法第七條第九項ニ依リ一筆ノ地所ヲ區別シテ賣入トナシタルモノ價主若クハ持主ニ於テ其一分ニ價ル地租ヲ不納スルトキハ之
レヲ區分セシムル公賣シ可然歟

(大蔵省)指令 明治二十一年四月十六日

伺ノ趣賣入地ト殘地ト地租ノ區分ニ對シ各自徵稅傳令書ヲ發セシメ若シ其一方不納スル場合ニ於テハ刑罰公賣處分ノ手續ヲナスヘシ
但賣入ノ際該筆區分ノ實況ヲ記入セル繪圖ヲ製シ其步數及日地價地租ノ相當三分配シ戶長ノ承認ヲ受置カシムヘシ

○歳入第二整理簿中備考欄増設並ニ歳入報告書式ノ件(德島縣)照會 明治二十一年四月十日
本年三月二十八日御省訓令第十三號ヲ以歳入歳出計算規程中御改正ニ依リ甲第十一第二部歳入月額整理簿廢止尙省令第二號
ニテ歳入歳出納規則書式中第十八號及第二十號甲乙書式御改正相成候處整理上左ノ廉々疑義ニ涉候ニ付及御問合候

一 月額整理簿廢止後ニ付テハ金庫ノ歳入月額ヲ區分スルニハ第二整理簿中摘要ト借方金額トノ區畫間ニ備考ノ一欄ヲ設ケ何月分
トシ整理シ可然哉將々自今ハ金庫歳入月ノ區分ヲ要セス懸懸記帳ノ月ヲ以テ何月分ノ歳入トシ整理スヘク疑義ニ候哉

一 前項後段ノ通整理スヘキ哉ニ候得ハ客年六月御省訓令第四十一號同第四十六號金庫歳入金毎月報告表ニ照合ノ上送付ノ儀ハ自然
消滅ニ屬スル疑義ニ候哉

一 歳入報告書改正書式ニハ下展額ノ一欄ヲ設ケ有之就テハ客年二月御省令第二號ヲ以テ改正歳入取扱順序第六條ニ據リ既納金支拂濟
報告ハ殆モ重複ニ屬スルヲ以テ之レヲ要セサル疑義ニ候哉將々從前ノ通り會計主務官於テ仕拂切符發行セシ都度報告スヘク疑義ニ候哉

(大蔵省)主計局 照會 明治二十一年四月二十三日

一 第一項第二項歳入報告書ハ從前ノ通り金庫毎月報告表ヲ添ヘ送付可相成哉ニ付第一部歳入ニ在テハ徵稅額第一整理簿、第二部歳
入ニ在テハ徵稅額整理簿ニ於テ各其摘要欄内(物ニ屬スルモノ)實收ノ月日ヲ記載シ金庫納濟ノ月分ヲ以テ整理相成度

一 第三項ハ後段御中越ノ通り

○歳入報告書式ノ件(福井縣)照會 明治二十一年四月十一日
今同大蔵省令第二號同訓令第十二號但書ニ該書式御頒布相成候ニ付テハ解釋上疑義ニ涉ル廉有之則左記ノ件ハ差向郡長ヘ訓示ノ
部合モ有之疑ニ付至急御明示有之度

一 第一部歳入報告書ノ附記ニ第十八號第二十號甲書式ヲ合シテ云々トアル以上ハ別段令達ナキモノト雖モ歳入歳出納規則第六
十七條ハ自ラ消滅ニ歸シタル疑義ナル哉

二 同報告書中歳年度歳入ハ專ラ未納歳入ニ登記シアル未納額ノ追徴ニシテ該報告見等ニテ既往ヘ溯リ追徴ノ分ハ限外ナリト解釋シ
可然哉

三 同書中未納額トハ賦稅額ニ對スル歳入未納額ナルハ明了ナリト雖モ時ニ徵收額ノ内過誤納アリテ賦稅額ニ對シテ未納額ト見ル事計
明治二十一年四月 指令 大蔵省

算上却テ過額トナルトキハ如何整理スヘキヤ又假令ハ甲部後所ノ報告ニハ未納額金十圓ナルモ乙部ハ過額納アル爲メ金一圓既收過トナル場合ニ於テ其過未納ヲ差引金九圓トナスカ如キハ允當ヲ得サル様存候

四「歳入報告書追加」ニ表記スヘキ年月ハ徵稅令書ヲ發シ若クハ税金徵收シタル現年月ヲ記述スル様ナルヤ又ハ豫定納額ノ年月ハ其額アリテ二十年三月二日付ノ改定シテ記述スヘキ様ナル様

五訂正表申「増」ト「歳入報告書追加」ノ金額ハ概シテ音「ハ」等シク増額ナラン然ルモ「追加報告書」ト「訂正表」ノ「増」トヲ要セザルルハ如何ノ成立チヲ押「判然其區別ヲナスヘキ哉」二ノ適用ヲ御垂示アリテ

六訂正表中ノ摘要ニ「目」ヲ要セザルヤ果シテ然ラハ其金額ハ「項」ノ合計額ヲ指ル様ナル様

七前項第二ニ限外ナリト解釋スル既往「溯」リ追徵ノ分ハ如何整理スヘキ哉

八前月未納超過及徵稅額ノ内不納處分ノ上官損ニ際シタルトキハ該金額ハ如何整理スヘキ哉

(大藏省主計局)回答 明治二十一年四月二十四日

第一項 御見解ノ通

第二項 誤認發見等ニテ既往「溯」リ追徵ノ分モ過年度收入トシテ御取扱可相成候ニ有之候

第三項 前段過額ノ分ハ未納額ノ欄内「未書」ス可キ様ニ有之候後段乙部ニ於テ徵收過云々ハ事實有ル可ラサルコトト存候尤モ乙部ニ於テ前段ノ如キ未書トスヘキモノアルニ依リ起リタル徵收過ニ有之候ハ、甲部未納ト差引相成ル可ク候

第四項 徵稅額ノ追加ハ徵稅令書ヲ發布シタル現年月ヲ記述シ徵收額ノ追加ハ税金收入ノ現年月ヲ記述可相成候

第五項 訂正表中ノ増ハ報告ノ誤謬ニ出テシモノニシテ追加表ノ増ハ全ク報告誤ニ係ル分ヲ指シタル様ニ有之候

第六項 訂正表中ノ摘要ニハ該項目共記載相成候

第七項 第二項ニテ御了知可相成候

第八項 徵稅額訂正表ヲ以テ減額可相成候ニ候

○所得稅不納者處分方ノ件(兵庫縣) 明治二十一年四月十日

所得稅不納者處分方ノ儀去月十七日付ヲ以テ内訓ノ旨モ有之候處他ノ負債ノ爲メ身代去リ處分ニ際會スルトキハ該税金ハ先取ノ附アリテモトシテ郡區長ヨリ裁判官ヘ照會シ財産總額代價ノ内ヨリ請求可然候

(大藏省指令) 明治二十一年四月二十六日

所得稅不納處分ノ件ハ何ノ通り裁判所ヘ請求ス可シ

○府縣費目ノ件(山口縣) 明治二十一年四月六日

本年三月御省訓令第七號ヲ以テ府縣費目相定メラレ候處其費目自中總費雜費ノ節掃除費ハ縣廳内及其門前等一切ノ掃除費額入スヘキ儀ト相考候處右掃除ニ要スル人夫賃等モ包含スル儀ニ有之候

(内務省)指令 明治二十一年五月一日

伺ノ趣ハ公費ニ係ルモノニ限リ該費「編入」スル儀ト心得ヘシ

○改正煙草稅則證約狀保證人ノ件(東京府) 明治二十一年五月七日

證約者相當ノ保證人ヲ得サル場合ニ於テ之ニ代ルニ公債證書等ノ抵當ヲ差出シテ保證人ニ代ヘンコトヲ情願スルトキハ之ヲ認許スルモ妨ケナキヤ

(大藏省)指令 明治二十一年五月十一日

申出ノ通

○刑罰計算方ノ件(兵庫假留監) 明治二十一年二月十四日

大阪鎮西總路營所歩兵第十聯隊第二大隊第一中隊

二等卒 杉本 由松

右ノ者陸軍刑法處斷ノ者ニテ明治十二年一月二十五日犯罪ニ依リ除隊ノ上准流五年ニ處セラレ役限内逃走シ再ヒ犯罪シタルニ依リ同十四年六月二十八日掃部二日更ニ准流五年ト拘役四年ニ處セラレ尙逃走中ノ日數及ヒ取調中收禁セシ日數二百十七日間ヲ償役セシムル旨渡アリ右刑罰計算方ハ普通刑法處斷ノ者ニ準シ再犯音渡ノ日即十四年六月二十八日ヨリ起算シ前刑服役日數及ヒ取調中收禁セシ日數ヲ後刑ニ算入シ且償役等ハナサシメテ可然候

(内務省)指令 明治二十一年二月二十八日

伺ノ通

○職員兵員名簿調製方ノ件(青森縣) 明治二十一年五月十七日

陸軍召集條例第四十八條ニ據リ備置クヘキ名簿ハ同例第十一様式ニ據リ調製スヘキ儀ニ可有之候得共郡役所以下ニ備フル處釋ハ便宜ノ爲メ鐵線營所ニ至ル里程並ニ旅費額等記入調製爲致差支有之問敷候

明治二十一年五月 指令 内務省 大藏省 陸軍省

(陸軍省)指令 明治二十一年五月二十三日 伺ノ通

○歳出報告書ト支拂案内書差引表ト照合ノ件(岡山縣)伺 明治二十一年五月十一日
去ル三月御省訓令第十號ヲ以四月以降差出スヘキ歳出報告書ノ儀、同庫金出納所ヨリ送付スル支拂案内書差引表添付可致旨被相達居候邊、同夫々送付有之候然ルニ同所事務順序ニ據リ第三部歳出大藏省主管經費又ハ内務省主管經費トノ主管應ヲ以テ區別有之候得共御省主管經費ノ内ニ於テモ農商務大臣承認ノ分モ有之内務省主管經費ノ内ニ於テモ府縣費地因徒費ノ區分有之報告書ハ何レモ各別ニ調製致候ニ付該表添付並支且案内書差引表高ト報告書高ト對査難致如何取計可然哉
(大藏省)指令 明治二十一年五月二十四日
伺ノ通左ノ通心傳ヘシ

一送付先ノ同一ナル歳出報告書各別冊ニ調製スルモノニシテ金庫支拂案内書差引表ハ一案ニ合算記載シアル場合ニ於テハ歳出報告書數冊ノ合計ヲ以テ照合シ差出スヘシ
一送付先ノ異ニスル歳出報告書即チ農商務省ト當省トニ關スル例ノ如キハ前段ノ如ク照合ノ上其一方へ支拂案内書差引表ヲ添付シ尙雙方ノ報告書ヘ寄發ノ爲シ其事由ヲ記載シ差出スヘシ

○豫備後備兵身上異動届出ノ件(滋賀縣)伺 明治二十一年五月二十一日
第一條 海軍豫備後備兵身上異動届出方ニ付今般實省令第六號ノ趣モ有之候處右ハ本人ノ異動ニ止マテス祖父母兄弟等入別表
中ニ記載ノモノ、身上ノ異動モ總テ届出シムル儀ト相心得可然哉
第二條 前條果シテ然ラハ各郡區役所ニ備置クヘキ豫備後備兵名簿ハ徵兵事務條例第六式即チ人別表ヲ以テ調製セシメ可然哉
(海軍省)指令 明治二十一年五月二十六日
書面ノ趣本人ノ異動ニ止マレ候ト心得ヘシ

○徵兵取扱方ノ件(鳥取縣)伺 明治二十一年五月十五日

徵兵令第三十七條ニ依リ他府縣ニ於テ徵集ニ應シ現役當額ノ者又ハ寄留中現役ヲ志願シタルモノ其豫備後備役ニ編入スヘキ時モ亦最初徴地ノ兵籍ニ編入スヘキ儀ニ候ヤ果シテ然ルトキハ其現役豫備後備役中原籍ニ復歸又ハ寄留中ノ兵籍ニ移トキ其兵籍ハ全戸寄留ノ者ハ新寄留地ヘ其他ハ原籍地ニ移サルヘキ筋ニ候哉
但本文果シテ後段ノ通ニ候得ハ其願届ノ手續ハ總テ尋常原籍ニ於テ徵集ニ應シタルモノト均シク取扱可然哉
(陸軍省)指令 明治二十一年六月二日
伺ノ通左ノ通心得ヘシ

- 一單身寄留ノ者除隊歸休現役滿期ノ節ハ總テ原籍地ノ兵籍ニ編入ス
- 一全戸寄留ノ者除隊歸休現役滿期ノ節ハ其身元所在地ノ兵籍ニ編入ス
- 一除隊歸休中及現役復職重傷卒ニシテ在郷ノ者全戸寄留中又ハ全戸原籍ニ復歸シタルトキハ其際新住地ニ移ス
- 一豫備後備役中ノ取扱ハ本年陸軍省令第十四號ニ依ル

○證券印紙賣捌ノ件(群馬縣)伺 明治二十一年六月六日

登記手数料ハ木月一日以降證券印紙ヲ以テ代納スヘキ事ト相成候ニ就テハ爾後登記請願者ハ其都度必ス證券印紙賣捌所ニ就キ該印紙購求セサル可ラス然レニ既往ノ實況ニヨレハ請願者未タ登記ノ法ニ慣レシ其名刺ニ記載シタル登記料金額往々不足スル等ノ儀有之候ニ付登記官吏ハ先ツ以テ之レカ調査ヲ送ケ其不足スルモノハ其都度増加ナサシメ登記所ニ出張スル國庫金出納所ニ現金ヲ納メ其納付符ヲ登記所ニ納ムルヲ認メタル上該事件ノ登記ニ着手スルモノ、如シ故ニ爾後ト雖モ名刺ニ貼用シタル印紙額面ノ過不足スル等ハ往々可有之勢モ請願者ハ再三印紙賣捌所ニ往復スルノ煩ナキ能ハス隨テ官吏ノ不便不勤候ト存候間當該登記所ニ於テ兼支ナキ以上ハ證券印紙賣捌人ニ限リ登記所人員控所ニ出張シ其費用ノ印紙賣捌カシムルノ特令ヲ仰キ度右ハモシ公然差許サ、ルトキハ需用者ノ不便ナルノミナラス印紙賣捌人其他ノモノ常ニ人民控所ニ出入シ窃カニ該印紙ヲ賣却又ハ貸與スル等ノ弊ヲ醸スニ至ルヘク取締上却テ苦慮難在候儀ニ付敬ロ公許相成候様致度
(大藏省)指令 明治二十一年六月九日
伺ノ趣同届

○徵兵抽籤施行ノ件(靜岡縣)開合 明治二十一年五月二十八日(電報)
地獄ハ府縣徵兵限リ施行ニ付管内豊橋大隊區ニ關スル箇所ヘハ徵兵器ヲ設ケサルヤ

明治二十一年六月 指令 陸軍省 大藏省

(陸軍省總務局) 回答 明治二十一年五月三十日(電報)

御見込ノ通

○徵兵原抽籤施行ノ件(靜岡縣) 明治二十一年六月七日

明治二十一年五月二十八日管内豐橋大隊區ニ屬スル箇所ニハ徵兵署ヲ設ケサル故ノ旨電報ヲ以テ及御開合候處同月三十日付ヲ以テ徵兵署設置ノ件見込ノ通り御回答ニ就テハ左記ノ取極ニ生シ更ニ及御開合候

第一項 客月二十六日御通牒ニ依リハ抽籤ノ儀ハ府縣徵兵區限リ施行スヘキ儀ニ付豐橋大隊區ニ屬スル箇所ニ雖トモ靜岡大隊區ニ屬スル箇所ト合セ各兵種一貫ノ番號ヲ附スル儀ニ候哉又ハ大隊區毎各別ニ抽籤スヘキ儀ニ候哉

第二項 前項前段見解ノ通り候得ハ徵兵事務條例第十七條式力至第二十一條式力兩大隊區ノ區別ヲ爲スニ不及哉

(陸軍省總務局) 回答 明治二十一年六月十一日(電報)

一項ハ前段御見込ノ通り御開合候

○煙草製造人證狀保羅ノ件(長野縣) 稟申 明治二十一年六月八日

貸者告示第五十八號第三項證約狀ノ保羅人ヲ得サル場合ニ於テハ公債證書國立銀行ノ預リ金券國立銀行又ハ政府ニ於テ利益ヲ保羅スル會社ノ株券ヲ抵當トシテ差出シ特ニ證約ヲ爲ストキハ保羅人ヲ設クルノ手續ヲ省カシムルコトヲ得ル旨第一〇七號ヲ以テ御訓示相成タリ然ルニ本縣下ノ煙草製造人ハ多ク山間僻地ニ占居シ其村落中所得稅ヲ納ムル資産ヲ有スルモノハ僅々タル少數額ニシテ之ヲ其郡内ニ求ムルモ相當ノ保羅人ヲ得ルハ頗ル困難ナリトス又御訓示ノ證券ノ如キハ僻地ノ製造人ニ於テ所持スルモノハ絶無ナルノ有様ニ有之右等萬不得已ト視認ムルモノニ限リ地券證ヲ抵當トシ登記ノ手續ヲ經テ差出シ證約ヲ爲スコトヲ願出ルトキハ御訓示ノ證券ニ準シ取扱ヒ可然哉

(大藏省) 指令 明治二十一年六月十一日

伺ノ趣御届ク

○寄留地限徵者ノ件(群馬縣) 伺 明治二十一年五月二十八日

他ノ府縣ニ寄留シ其地ニ於テ徵集ニ應ゼント欲スルトキハ徵兵令第三十七條ニヨリ三月十五日迄ニ出願許可ヲ得ヘキノ處發ニ寄留地官立學校生徒ニシテ徵兵適齡ノ當時徵集預トナリ後年ノ三月十六日後該學校ヲ退校シ更ニ同地ノ他ノ學校生徒トナリ其年徵集ニ可應者本籍還歸且在校修學中ノ故ヲ以テ寄留地ニ於テ應徵致度旨出願ノ者アリ右ハ其事柄三月十六日後ニ生シタル者ニ付假令期

限經過スルモ同令第三十七條ニ準シ取扱候様致度

(陸軍省) 指令 明治二十一年六月十三日

寄留地限徵者ノ件ハ伺ノ通

○寺院所有地ヲ境内附屬地ニ使用ノ件(群馬縣) 伺 明治二十一年四月二十六日

上野國西群馬郡高崎九藏町

第四十七番

民有宅地百九十二坪六合三勺ノ内

一坪數百八十三坪一合八勺

第四十九番

同百七十三坪ノ内

一同七十六坪五合五勺

外

坪數三百九坪七合三勺

現 境 内

右正法寺境内ノ區域屈曲堂宇建設ニ際シ差支候ニ付該寺持地ヲ分割シ境内附屬地ニ使用致度官署長添書ノ上出願實地取調候處

右ハ發ニ境内外區畫査定ノ節舊境内中人民常住ノ家屋敷在在之候處ヨリ現境内區域ノ形狀並ニ法用必需ノ如何ヲ不問上地セシヨリ斯ク不正ノ境内ト相成方今ニ至リ差支候儀ニテ事實無止次第ニ候條出願ノ加ク民有地第一種ノマ、境内附屬ト定メ可然哉且又尙來本願同一在來地種ノマ、境内附屬地ト爲シ度旨出願セシ社寺有之候節ハ實際不得止箇所ニ限リ縣限リ處分ノ上報告候様取調可然哉

(内務省) 指令 明治二十一年五月十五日

伺ノ通

○兵事ニ關スル縣令報告ノ件(和歌山縣) 伺 明治二十一年五月二十九日

兵事ニ關スル縣令ハ從來縣條例ニ據リ發布ノ都度主管鎮營ヘ報告シ來リ候處今般條例廢セラルレ師團旅團ノ兩司令部ヲ置カレ候ニ付テハ別ニ條例中其明文ハ無之候ヘトモ從前ノ例ニ依リ師團司令部ヘ報告取計フヘキ儀ニ候哉又ハ師團兩司令部ヘ報告致シ可然哉

明治二十一年六月 指令 内務省 陸軍省

(陸軍省)指令 明治二十一年六月十六日
伺ノ趣別段報告ニ及ハス

○徴兵令ニ關スル件(三重縣)照會 明治二十一年六月二十日
徴兵令第三十七條ニ掲グル期限後ハ其事務ノ如何ヲ問ハス總テ難許可限ト存候處本月十六日官報ニ群馬縣ヨリ伺ニ對シ御省御指令
登載セリ右ハ特リ官立學校生徒ニ限ラス其事務ノ期限後ニ生シタルモハ假令ハ舊令ニヨリ免役猶豫ニ屬スル者並ニ新令ニヨリ猶
豫ニ屬セシ者ニシテ三月十五日以後其資格ヲ失ヒ徵集ニ可照ノ處其姓名欄トナル以前ヨリ他ノ府縣ニ寄留シ土地遠隔其他ノ事故ニ
テ本籍(復歸)難キ時ノ類ハ令第三十七條ニ準シ出願スルトキハ許可シ不苦哉
(陸軍省)回答 明治二十一年六月二十六日
寄留地ニ於テ其年徵集ニ照セシメ得ヘキモノハ御意見ノ通

○歳入決算報告書ノ件(京都府)照會 明治二十一年六月二十日

歳入決算報告書様式今般御省第三十二號御訓令相成候處御製上疑義有之左ニ御問合候
一歳入豫算増減表中原額トハ御我定額ニシテ爾後數回増減報告セシモノアルモ勅令若クハ法律ニヨリ増減セシモノナクハ増
減欄内ニ掲出及ハストセハ原額ト現額ト同數ヲ記入シ前記説明ノ位置ニハ何等記入不致候テ可然哉
一歳入決算報告表中收入確定額トハ徵稅令書等ヲ發セシモノト有之然ルニ既納額未納額ヲ合セ以テ該確定額ニ符合セシムルモノト
セハ確定額ハ勿論官損金ヲ控除シタルモノヲ掲載シ可然哉
一前項ノ通ニ候ハ、收入確定額ハ本年度過年度收入ノ區分ナクシテ稅非額トハ符合セサルモノアルモ差支無之候ニ候哉
一既納額ト決算額トハ符合スヘシトアリ若過誤納ニ係リ其下年度ニ屬シ單ニ實收ノ過ト相成候分ハ既納額及決算額トモ同數ヲ
記入シ置其事由ハ別段記載セサルモ差支無之候
一豫算現額ト既納額トノ差アルモノハ事由記載スヘキ例ニ有之其事由ハ勅令又ハ法律ニヨリ増減セサル即チ毎月豫算ニ對シ増減報
告セシモノ、總計ヲ掲グル義ニシテ假令ハ既納額ノ減少セシハ失踪ニヨリ未納額ニ於テ何則官損ニヨリ何則廢業者等ノ多キニヨ
リ何則減少アリト記スルノ類ニ候哉
一歳入決算報告書説明第一款何々第一項何々云々ト之レアリ右ハ第一項ノ合額ニ對シ豫算現額ト既納額ト對比シ其増減ノ事由ヲ陳
述スヘキ義ニシテ毎月ニ對シ記載セシ事由ヲ併セ再ヒ記載スヘキ義ニ有之候哉

一今般定メラレタル歳入決算報告書定期ニ據リテ差出スヘシトアリ右定期ハ何年何號ノ御達ニ依ルヘキ義ニ候哉
(大藏省主計局)回答 明治二十一年六月二十八日

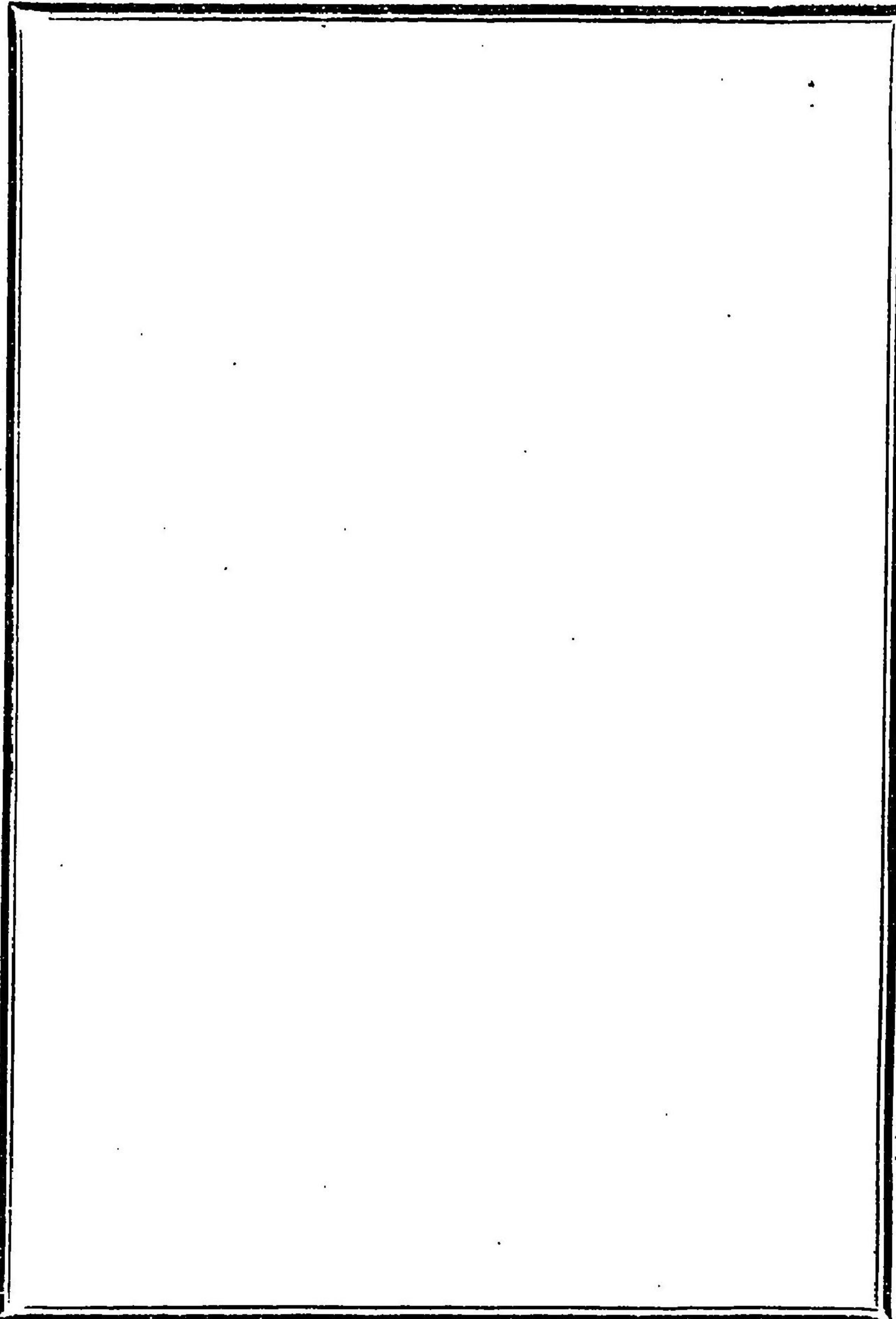
第一第二第三第五第六項ハ御見解ノ通リ

第四項 過誤納ニ係リ下年度ニ屬スル金額ハ收入確定額既納額及増ノ金額ニ併算シ事由中ニ其旨説明アルヘシ

第七項 二十年四月閣令第八號(五十七號)ノ旨趣ニ依ルヘキ義ナリ

○印紙賣捌ノ件(靜岡縣)伺 明治二十一年六月二十三日

本月十二日付官報第千四百八十四號ニ登載有之候靜岡縣伺印紙賣捌ノ件ニ對スル御指令ノ趣ニ依ルトキハ登記所ニ於テ差支ナ
キ以上ハ該印紙ニ限リ登記所人民控所ニ出張シ之ヲ賣捌カシムルヲ得候處登記事務治安裁判所ニ於テ取扱候場所ニ限リ訴訟用印紙
ヲモ併セテ賣捌カシメハ一層人民ノ便利トナルノミナラス該印紙ヲ密賣スルノ憂ナキニ至リ候儀ニ付御差支無之候ハ、御許可相成
度
(大藏省)指令 明治二十一年六月二十七日
伺ノ通



○烟草稅則第三項證約金ノ件(山口縣) 明治二十一年六月十三日

勅令第二十號改正烟草稅則第三條第三項ニ據レハ製造營業人ヨリ證約狀ヲ徵シ若シ稅則ニ觸レ其他證約ニ違背スル事アルトキハ其證約金ノ全部又ハ一部ヲ徵收可致管ニテ其徵收金ハ第二部歳入ニ編入スヘキ義御寄主務局ヨリ御送付ノ間答書中ニ相見候得共相當ノ科目無之何レハ編入可致義納又右ノ科料罰金ハ其性質類似ノモノニ付歳入歳出納規則第十六條ニ可屬モノト相心得可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年六月二十九日
伺ノ趣ハ雜收入ノ款以價金ノ項證約金ノ目ヲ以整理スヘシ但該金徵收方ハ申出ノ通

○千住製織所ニ關スル件(農商務省)内議 明治二十一年六月二十一日

當省所轄千住製織所貴省(移管)儀目今閣議ニ提出中ノ場從來當省ハ牧羊業保護ノ爲メ各府縣下ニ産スル羊毛ハ製織所需用ノ原料ニ買上來候ニ付該所ハ省御所管ニ確定ノ末モ從前ノ通御施行相成度然ラサレハ是迄折所獎勵ヲ加ヘ漸ク成立候牧羊業モ一朝衰廢ニ歸スルノ外無之著産上關係不尠候ニ付豫メ此段及御内議候也

(陸軍省)回答 明治二十一年六月二十七日
右ハ製織ノ原料内地ニ繁殖致候ハ希望致候ニ付無論從前ノ通爲取計候條尙牧羊業御獎勵相成度

○添出品目録ノ件(栃木縣)照會 明治二十一年六月十六日

第三回内國勸業博覽會規則第三條ノ添出品ハ本出品ニ準シ規則第九條ニ依リ出願許可ヲ與ヘ甲號書式ノ目録ヲ賣局ニ差出スヘキ筋ニ可有之哉或ハ本出品ノ許可ヲ得タルモノハ隨意ニ出陳ヲ得候儀ニ可有之哉

(第三回内國勸業博覽會事務局)回答 明治二十一年六月十九日

添出品ハ別段目録差出ニ不及本出品ノ目録中其出品名ノ次へ添出品何々ト記載候儀ナリ

○大隊區司令部條例及在郷兵守則ニ關スル件(三重縣)照會 明治二十一年六月三十日

今般大隊區司令部條例及在郷兵守則等發布相成候ニ付テハ後備軍司令部條例ハ自ラ消滅ニ屬シタルモノト心得可然乎果タシテ然ラハ在郷兵ノ諸願書式等ハ縣限リ適宜相定可然乎尙發後備軍司令部條例第二十五條ニ依リ兵員ヲ採用セントスル共合ニ在テモ何等明文モ無之ニ付直ニ採用シ不著哉

(陸軍省)回答 明治二十一年七月六日

明治二十一年七月 指令 大藏省 陸軍省 第三回内國勸業博覽會事務局

願届式ノ儀ハ御意見ノ通ニテ可然共其採用ノ儀ハ道々何分發達候儀從前ノ例ニ依リ本人所管ノ範圍内全部ハ願會ノ上採用候儀ト御承知有之度

○備置儲蓄金ニ係ル寄附金ノ件(愛知縣)伺 明治二十一年六月二十二日
備置儲蓄金ニ係ル救助費中へ寄附金額出候モノ有之候時ハ願意ヲ許可シ儲蓄金收入科目中雜收ノ次ニ寄附金ノ目ヲ設ケ寄附者ノ指定シタル費途ニ充テ支辨致度

(大藏省)指令 明治二十一年七月六日(内務省連帶)
伺ノ通

○豫算費追加ノ件(群馬縣)願會 明治二十一年七月十日

本月六日付坤第四七六九號ヲ以テ豫算費追加並油稅則改正ニ付二十一年度歳入豫算ニ増減ヲ生スヘキ分ハ豫算追加書可差出御申越ノ趣了承右増額ノ分ハ追加書調製シ得ヘキモ減額ニ至テハ追加ト云フヲ得ス如斯キハ何レノ書式ニ準據調製スヘキヤ

(大藏省)指令 明治二十一年七月十三日
右ハ豫算表及明細表ノ書式ニ據リ其増額ハ豫算ニ減額ハ未決ニ記載スヘキ義ト御承知有之度

○整理海軍公債證書書替方ノ件(日本銀行)伺 明治二十一年七月七日

整理海軍兩公債証書ヲ官廳或ハ銀行會社學校等ニ於テ所有ノトキ其主管者又ハ領取社長等ノ名義ヲ以テ交付シ其名義者變更ノ場合ニ於テハ其證書面ハ提置海軍公債証書耳名義更正ノ備考年七月十五日付ヲ以テ相伺候處同二十八日付總テ名義書替ヘキ旨御指令ノ趣承仕候得共書替ニ要スル手續耳ナラズ實際銀行會社等ノ不便モ不少候間先キニ伺出ノ通名義者變更ノトキハ其旨爲申出證書面ハ提置海軍公債証書更正取計候御許可被下度候

但丁年未滿ノ所有者ニシテ其後見人名義ノ分變更ノ場合ト雖モ本文ノ通取計度候
(大藏省)指令 明治二十一年七月十二日
伺ノ通

○整理海軍公債證書未了年者所有ノ件(日本銀行)伺 明治二十一年七月三日

整理海軍兩公債證書記名方ノ儀未了年ノ戶主名義ニ書換證書ハ部テ其後見人記名タルヘキハ勿論ニ候得共戶主ニアラサル未了年者ノ名義ニ書換ノ儀請求有之候節ハ該請求書ハ連署及ヒ證書ヘ記名印鑑數本方共如何相心得可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年七月十一日
伺ノ趣財產管理人ヲ定メ戶主未了年者ニ於ケル後見人同様ノ取扱ヲ爲サシムル儀ト心得ヘシ

○燈油諸味ニ課税ノ件(鹿児島縣)願會 明治二十一年七月二日(電報)

二番三番諸味ニ課税スヘキヤ
(大藏省)指令 明治二十一年七月三日
二番三番諸味ハ課税ノ限ニアラス

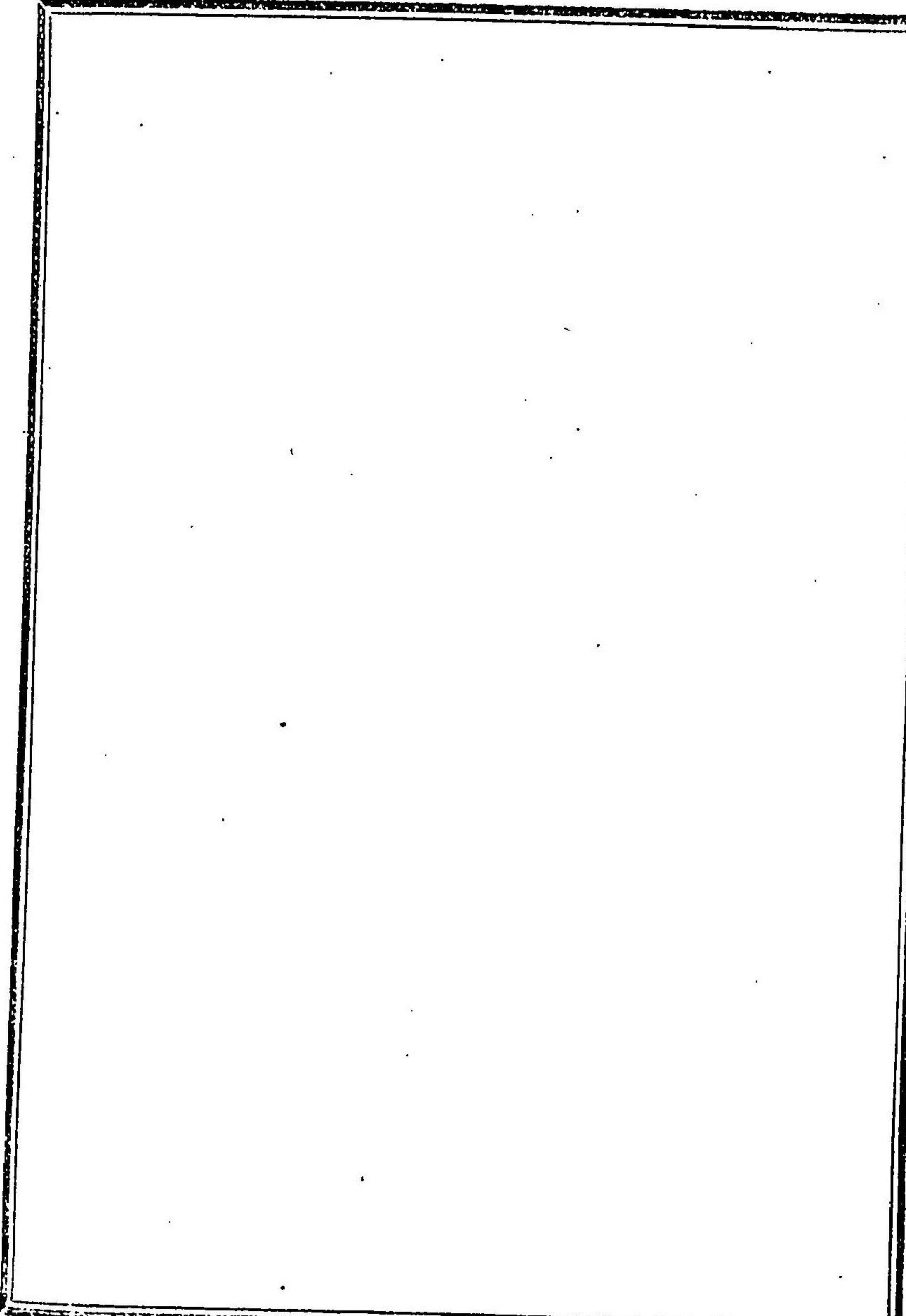
○徴兵検査時限起算方ノ件(富山縣)願會 明治二十一年七月二十四日

事務條例第五百三十三條第五百三十四條ノ検査時限起算方ハ適齡ノ翌年四月十日ヲ以テ第一ノ検査期ト相心得可然哉
(陸軍省)願會 明治二十一年七月二十七日(電報)
事務條例第五百三十三條第五百三十四條ノ検査時限ハ適齡年ノ翌年九月十六日ヨリ起算シ二十七歳トナル年ノ十一月二十日ニ終ルモノト御承知ア

○整理海軍公債證書交換ノ件(日本銀行)伺 明治二十一年七月二十三日

整理海軍兩公債證書募集及當該滿期償還元金代リ整理公債證書交付ノトキハ素ヨリ其證書種類ノ如キハ一様ニ雖シ雖シ種々候間部交付ノ種類ニ基キ區別相渡シ來リ候處往々證書交付後種々ノ事情ヲ以テ大額ノ公債證書ヲ小額ノ分ト御申出候儀又ハ交換亦ハ小額ノ大額ニ交換申出候向有之候得共證書交付後ノ儀ニ付拒絶取計尤不得止事情アルモノニ限リ本行所有ノ分ヲ以テ交換取計候儀モ有之然レトモ本行所有公債ト雖限リアル儀ニ付悉ク其望ニ應シ候次第ニ至リ候已ニ此提御省預金局所有整理公債額由五千圓券ヲ以テ圓券以下ノ公債ト交換協同官之儀得共本行所有ノ分ト雖五千圓券多數ニシテ何分其協同ニ應シ候間諸種ノ外無之然レトモハ實際買却上ニ於ケル不便ハ不少隨テ價格ニ及シ候儀モ可有之哉ニ被存就テハ本行所有公債ニシテ交換ナシ不能トキハ御製造費ハ支追テ本文御製造費支辨方ノ儀ハ交換請求人ヲシテ爲仕拂候積リニ御座候

(大藏省)指令 明治二十一年七月二十七日
伺ノ趣證書但徴收スヘキ製造費額ハ國債局ヨリ通知スヘシ



○船税規則ノ件(鹿児島縣) 明治二十一年七月十九日
 河海航行ノ用ニ供セズ單ニ庭前ノ泉水ニ注ヘ來客待遇又ハ兒童遊戯ニ供スル船ハ船税規則ノ支配ヲ受クヘキモノニ非サル旨司法大臣ノ内訓アリ右ハ税則ノ支配ヲ受ケサルモノトセハ其船ノ大小如何ニ拘ラス課税ハ勿論該則第十條免稅ノ烙印ヲモ受クヘキモノニ非サル儀ト心得然ルヘキヤ

(大藏省)指令 明治二十一年七月三十一日(電報)
 申出ノ通リ

○備荒儲蓄金支出科目疑義ノ件(福井縣) 明治二十一年六月二十五日
 客年十二月御省令第十五號ヲ以テ備荒儲蓄金取扱順序改正相成其出納科目ハ則チ款項目節ニ區分設定セラレ候處備荒儲蓄法第一條ニ據リ地租ノ補助貸與ヲ爲スヘキモノ、土地検査ノ爲メ出張官吏ニ於テ雇上ケタル押取板拵等ノ人足賃ハ救助費若クハ地租貸與ノ項ニ相當ノ目無之ニ付是等ハ儲蓄費備入料ヨリ支拂可然儀又ハ儲蓄費ノ備入料トハ其性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ救助費ノ内ヘ更ニ雜費ノ節ヲ設ケ支拂可然乎

(大藏省)指令 明治二十一年七月三十一日
 後段伺ノ通リ
 ○當籤證書報告表用紙ノ件(愛知縣)照會 明治二十一年七月二十六日
 本年七月二日御省令第三十九號ヲ以テ日本銀行ヘ送付スヘキ諸報告表用紙ノ儀自今美濃紙ヲ使用スヘキ旨付達候ニ付今般新調可致ニ付テハ第四號書式則當籤證書報告表ノ儀從前實行上ヲ以テハ債主一人毎ノ當籤證書枚數ノ儀多クハ一二葉乃至四五葉ニ過キサルニ依リ該全紙ノ三分二ハ餘白ニ相成リ無益ノ限リニ付自今新調ノ分ヨリ別紙離形ノ如ク美濃紙四ツ切相用度候(別紙略ス)
 追テ銀行會社等所有ニシテ若當籤證書枚數多ニテ一葉ニ列記シ離キ分ハ二葉或ハ三葉ニ記載登錄ニナシ都テ一葉ノ取扱ニ可致此段申添候也

(大藏省)回答 明治二十一年八月九日
 御來意ノ通御取計可然

○陸軍省訓令ニ關スル件(廣島縣)照會 明治二十一年七月二十六日
 今般甲第六號御省訓令ノ趣有之候處該志願兵トアルハ何種ノ志願兵ヲ指稱セザルナル儀ナルヲ疑義ヲ生シ候ニ付左項何分ノ御報

明治二十一年八月 指令 大藏省 陸軍省

有之度

一該御訓令志願兵トアルハ海軍志願兵徵募規則ニ係リ照募セシ者ヲ指稱セラレタル儀ナルヤ或ハ徵兵令中志願現役ニ服シタルモノモ含有スル儀ニ候哉

一該御訓令中豫備役者クハ後備役云々ト有之候處前項未段ノ通ニ候得ハ明治十九年五月甲第二十四號 徵兵令中志願現役ニ服シタルモノハ第一豫備員ニ編入セラレタルモノモ更ニ檢査ナス儀ニ候哉並ニ徵集檢査資格ニシテ志願現役ニ服シタルモノハ猶豫資格ヲ失シタルトキ更ニ檢査ヲナス儀ニ候哉

一該御訓令別註永久兵役ニ堪ヘサル云々ト有之候處永久兵役ニ堪ヘサルモノハ免役ノ際其所管ニ於テ證書ヲ本人ニ下付又ハ地方廳へ通報有之儀ニ候哉

一該御訓令以前ニ係ルモノハ其儘差置キ可然哉

(陸軍省) 回答 明治二十一年八月十日

右ハ徵兵令ニ依ラス他ノ規則ニ依リ召募セシ陸海軍志願兵ニ係ル扱方ヲ示サレタル儀ニシテ已ニ三ヶ年以上服役ノ者ハ再ヒ徵兵令ニ依リ徵集セサルノ主意ニ候

追テ訓令ノ分註ニ當ル者ハ傷疾疾病ノ爲メ恩給ヲ受クル者ト御承知可有之候也

○志願兵家族扶助金支給方ノ件(神奈川縣) 明治二十一年七月二十七日

今般者令第十號ヲ以テ海軍下士家族扶助金給與規則御改正相成候處其第一條ニ志願ニ依リ出身シタル下士卒現役中ハ扶助金トシテ其家族へ一箇年ニ金十圓ヲ給與スト有之右單ニ志願ニ依リ出身ト有之ニ付テハ徵兵令第十條及徵兵事務條例第九十五條ニ據リ志願シタル現役兵モ包含スル儀ト心得可然哉

(海軍省) 指令 明治二十一年八月二日

徵兵令及徵兵事務條例ニ據リ志願シタル現役兵ハ包含セサル儀ト心得ヘシ

○國稅ニ關スル諸禮札其他番地訂正方ノ件(岐阜縣) 上申 明治二十一年八月二日

戶籍編製方ニ關シテ去ル明治十九年内務省訓令第二十號ノ趣モ有之本縣ニ於テハ右訓令ニ基キ此節戶籍整理ニ着キシ舊來番地ト唱ヘシモノヲ廢シ代フルニ番戶ノ稱ヲ以テシ其番號ハ一町村ヲ一貫シ列戶ノ順序ニ從ヒ月毎ニ之ヲ付シ候次第就テハ此際從前ノ番地トハ盡ク異動ヲ生シ隨テ國稅ニ關スル諸禮札類其他標札等凡テ訂正ヲ要シ候得共既ニ市制町村制ノ發布モ有之其實施ニ方リ上申ノ趣聞登ク

明治二十一年八月十一日

テハ勢ヒ町村ノ廢股境界ノ分合等ニ依リ多少ノ變更ヲ生スヘキ見込モ有之復ヒ訂正ヲ加フルカ如キハ畢竟徒勞ニ屬シ頗ル官民ノ手數ヲ煩ハシ候儀ニ付市町村制實施ノ日ニ至リ此等ノ秩序整理完成候迄姑ク其訂正ヲ見合セ舊番地配賦ノ儘使用候モ格別支障ヲ來サハル様被存候間御差支ノ廉モ無之候ハ、特ニ御承認相成度

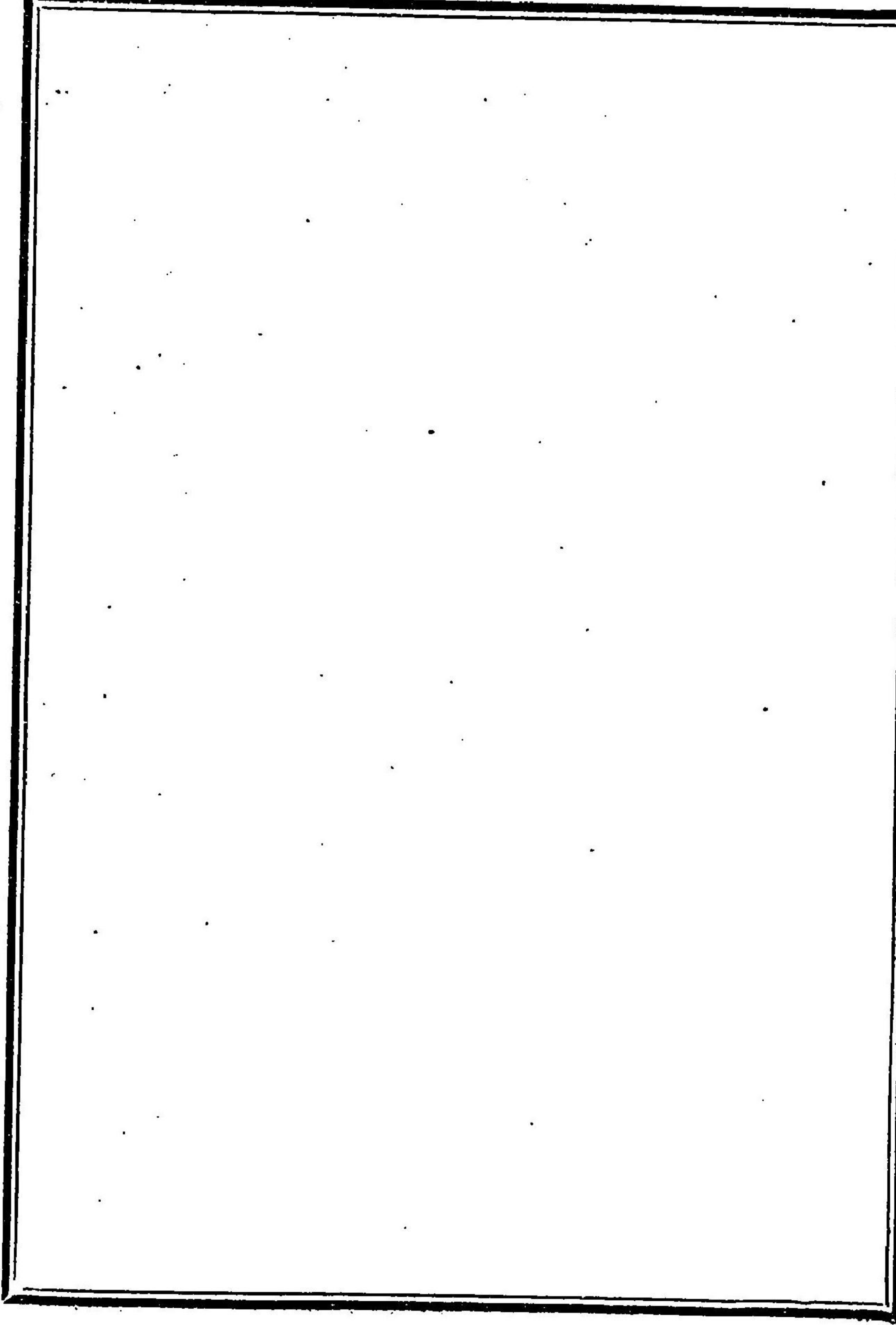
(大藏省) 指令 明治二十一年八月十一日

○徵兵徵否ノ件(滋賀縣) 何 明治二十一年七月十四日

月主死亡シ嗣子ナク其弟アルヲ聞キ他家ノ子弟ニテ其死跡ヲ相續スルモノハ令第二十二條第八項ニ據リ處分スヘキ旨明治十八年十二月二日附本縣何ニ對シ御指令ノ趣モ有之候處右弟ハ實養ノ區別無之儀ト相得心可然哉

(陸軍省) 指令 明治二十一年八月十五日

何ノ通



○船税規則ノ件(愛知縣) 明治二十一年八月二十四日

河海航行ノ用ニ供セス早ニ庭前ノ泉水ニ泛ヘ來客待遇又ハ兒童遊戯ニ供スル船ハ免稅ノ烙印ヲモ要セス全ク船税規則ノ範圍外ナル旨鹿児島縣へ御指令本月四日第五百三十號官報欄内ニ擧載有之候付テハ料理屋營業自己宅地内ノ泉水ニ小船ヲ泛ヘ...

(大藏省)指令 明治二十一年八月二十九日

何ノ趣内ノ池沼ニ泛ヘルモノハ貨錢ヲ受領スルト否ト問ハス船税規則ノ範圍外ト心得ヘシ

○葉烟草賣場ノ件(神奈川縣) 明治二十一年八月三十一日

本縣下烟草ノ産地ナル大住郡曾根村地方ノ製造人仲買人ニシテ許多ノ葉烟草ヲ賣買スルモノアリ然ルニ右等ノ營業者ハ居住營業場ノ狹隘ナルカ爲メ更ニ荷物ノ積卸等ニ便宜ナル箇所ニ其藏置場ヲ設ケ營業場ノ附屬ト致度官願出タルモノ有之右ハ烟草稅則ノ成文ニ據リ之ヲ見レハ各別ニ發賣證札ヲ受ケシムヘシト雖モ該藏置場ニ於テハ烟草ノ賣買取引等ヲ爲スニ非ス早ニ之ヲ發賣スルニ止ル...

(大藏省)指令 明治二十一年九月一日

何ノ趣特別ヲ以テ之ヲ應答シ

○備置儲蓄金支出科目增加ノ件(廣島縣) 明治二十一年八月二十五日

客年十二月大藏省令第十五號ヲ以テ備置儲蓄金支出科目設定相成候處縣下霜災ニ罹リタル者有之救助ヲ要シ候ニ付テハ右科目外ニ屬スルモノニ付明治二十年度ヨリ霜災救助ノ目ヲ設置致度

(大藏省)指令 明治二十一年九月七日

何ノ趣開屆ケ

但雪災救助ノ次ニ區クヘシ

○博覽會出品數量ノ件(山形縣) 明治二十一年九月八日

明治二十一年九月 指令 大藏省 第三國內國勸業博覽會事務局

來ル二十三年内閣勸業博覽會出品物一種ノ量目箇數ハ規則ニ定限不相見右ハ出品者ノ便宜ニ任セ不苦儀ト被存候得共衛生糸米粉等ノ類區々相成候テハ不都合ニ被存候間數量一定シ得ヘキモノハ可成一定算致度見込ニ有之候就テハ縣限リ適宜數量等相定メ可成候

(第三回内閣勸業博覽會事務局) 明治二十一年九月十三日

右ハ出品人心得ナルモノニ詳ニ擧げ不日告示候儀リニ付右ニテ御了知相成度

- 博覽會出品陳列場ノ件(福島縣) 照會 明治二十一年八月二十三日
- 一 出品ノ一區域ハ部ヘハ各部出品ノ容積ニ應シ第一類二類ト順次ニ地方委員ヘ劃定シ相成候儀ニ可有之候
- 一 縣廳出品ノ一區域ハ各部毎ニ劃定相成候ヘハ第一類及第七部ノ一箇中各類甲乙丙ト順次一同ニ陳列候儀ニ可有之候
- 一 出品賣約取扱ノ場所ハ別ニ設ケラルヘキ儀ニ候就テハ縣廳出品ノ一區域若クハ便宜ノ場所ニ於テ適宜取扱ケルノ都合ニ可有之候
- 一 懸懸出品ノ區域及ヒ各部首要ノ區域ハ縣名等ノ戸額若クハ庶業等ヲ掲ケルノ都合ニ可有之候
- 一 各部類ノ出品ニ應シ御支辨相成ルヘキ飾盤ハ其出品ノ形狀ニヨリ飾盤ノ高低若クハ階級ノ多寡潔淨等出品主又ハ委員ノ申立ニヨリ御取扱ケ可相成候ニ候
- 一 各部類ノ出品ニ應シ御支辨相成ルヘキ飾箱ハ其中仕切及ヒ階段ノ仕付向キ等出品主又ハ委員ノ申立ニヨリ右等ヲ御支辨可相成候又ハ出品主委員ニ於テ適宜取付ケ候儀ニ可有之候
- 一 部ヘハ第七部ノ何類ニ金銀寶玉ヲ出品スルモノアルトキハ飾盤ノ外取扱ヲ要スル爲メ鏡前付若クハ堅牢適宜ナル飾箱ヲ請求スルカ如キハ是又御取扱ケ可相成候ニ候
- 一 出品委託所或ハ出品物寄置所出品物解約等御取扱可相成候
- 一 委員又ハ出品人總代等ノ請所係所椅子卓新展臺器具及ヒ小使等夫々御用意可相成候儀又ハ右等ノ用意及ヒ費用支辨地方委員ノ便宜協議ニ任セラルヘキ儀ニ候
- (第三回内閣勸業博覽會事務局) 同答 明治二十一年九月十四日
- 第一項 出品ハ總テ類別ニ陳列スルヲ以テ各類共其類中ニ就キ出品ノ容積ニ應シテ劃定ノ答ニ候
- 第二項 官衙ノ出品ハ各部中別ニ一區域ヲ設ケ其區域中ニ於テ類別陳列ノ答ニ候
- 第三項 賣約所ハ適宜ノ場所ニ於テ區域ヲ設ケ各館内一所若クハ二三所ヲ設ケルノ見込ニ候
- 第四項 府縣名ヲ記シタル扁額旗章等ヲ掲ケルト否トハ地方委員ノ適宜ニ候得共一目シテ何府縣ノ出品タルコトヲ見易カラシムル標致度候

第五項 飾盤調製方云々ノ件ハ追テ何分ノ條可申進候
第六項 本局ヨリ貸與ノ飾箱ハ階段ヲ不設ケルモノヲ貸與相成候ニ付出品ノ形狀ニヨリ中仕切階段等取扱ケルハ出品主自辦ノ儀ト御承相成度候

第七項 本局ヨリ貸與ノ飾箱ハ總テ鏡前付附シ候得共特ニ各自ノ空ニハ懸懸候ニ付出品主ニ於テ尙相當ノ保護ヲ怠ラサル標致度候
第八項 委託引受所ハ不取收ル儀リ其他御申出ノ通リ
第九項 委員及出品人等ノ請所ニ要スル諸品及ヒ小使等ハ地方委員ニ於テ適宜協議處辨ノ儀ト御承相成度候

○印紙貼用ノ件(銀行集會所) 明治二十一年九月六日
當座印紙金及「コレスポンテンス」約定書ニ印紙貼用ノ儀ニ就テハ去ル十七年五月證券印紙規則公布相成候以來同前銀行中ニ於テ再三詳議有之候ハ該規則第二條第一類第三項ニ應シテ「コレスポンテンス」或ハ第二類第七項ナルヘシト論議不定ノ折柄十八年九月日本銀行ヨリ御名ヘ當座貸約約定書ハ其取引ノ極度金額ヲ豫約スル證書ニシテ殊ニ其金額ヲ授受スルハ印紙既濟ノ小切手ヲ以テ引出スモノニ付規則第二條第一類ニ據リ可成候又ハ云々又「コレスポンテンス」約定書ハ送金爲替代金取立及ヒ融通貸等各種取引金額ノ極度ヲ定ムルモ其約束ノ當時該金額ヲ取引スルニ無之所謂豫約ノ證書ナレハ規則第二條第一類ニ據リ印紙ヲ貼用シ而シテ實際取引ノ都度其

手形證書等ヘ相當印紙ヲ貼用シ可成候又ハ云々トノ例ニ對シ各項共前段申出之通リ御指令有之候趣承知候儀ヨリ當集會所同前銀行中過半地各地方銀行ニ至ルマテ大抵此御指令ヲ標榜ト致候儀實際ニ當リ往々差支相生候儀其一ニ例スレハ當座貸越約相成候根抵當不動産ナルトキハ登記法ニ據リ之方登記ヲ爲ササルヘカラス然ルニ登記官ノ見解ニヨリ或ハ一類ニテ相濟ムコトアリ或ハ第二類印紙ヲ要セラルルコトモ之アリ又頃日名古屋地方同業者ノ事情ヲ詳カニスルニ右實態「コレスポンテンス」共亦日本銀行ヘ御指令ノ御指目ヲ標榜トシテ取扱來リシ際其貸越根抵當品不動産ナルトキハ二類印紙ヲ貼用スルニ非サレハ登記官ニ於テ受理ナキヲ以テ此種ニ據リ第二類印紙ヲ貼用致候儀由ニ御座候儀又「コレスポンテンス」結約ニ依リ甲乙約定書ヲ交換スルニ當リ甲銀行ハ一類印紙即當座印紙ヲ貼用シテ之ヲ乙銀行ニ送付シ乙銀行ハ二類印紙即當座印紙ヲ貼用シテ之ヲ甲ニ送り變力ニ約定書ヲ落手ノ後印紙ノ見解ニ付往復ノ勞ヲ費スコト往々周知致候右ノ如ク官民共ニ其取扱區々相成候テハ取引上差支不致候ニ付其通從可仕一定ノ方向其御筋ヨリ銀行者一般ヘ御訓示標榜下候儀仕度

(大藏省) 指示 明治二十一年九月二十日
貸借スヘキ金高ヲ明記シタル證書ハ現金取引ノ如何ニ拘ハラズ證券印紙規則第二條第二類第七項ニ據リ相當印紙貼用スヘキモノト

○樟油稅則取成上様條ノ件(讀島縣) 明治二十一年九月十二日

第一項 樟油稅則施行細則第十一條及ヒ烟草稅則施行細則第二十六條ニ代替換期限ヲ定メラレタリ該期限ハ死亡代替ノミニ適用スヘキモノナルヲ然ラハ營業者戶籍上代替隱居ノ届ヲナスモ依然該營業ヲ繼續シ他日該隱居ヲ戶主(嗣子)ニ譲渡ス如キハ樟油稅則第七條烟草稅則第二十條ノ範圍外トシ書替下附可然説

第二項 烟草稅則施行細則第十一條ノ見本ハ毎種一箇ニ限ルカ如シ然ルニ管下ニ於テ毎月數回ノ市日ヲ定メアル市場ノ如キ閉市ノ日ヲ平常ノ寒郷俄然閉市極メ閉市立錐ノ地ナキニ至ル故ニ烟草小賣店ノ如キモ來客店頭ヲ埋ルノ有様ナレハ一箇ノ見本ヲ以テ數客ニ充テ難ク爲メニ商權ヲ失スルノ懸有之趣ニ相聞候右ハ各地各店ノ商況ニ從ヒ兼テ箇數ヲ届出シムル等適宜取締ヲ立テ毎種二箇以上ノ見本ヲ供ヘシムルモ不致

(大蔵省) 附令 明治二十一年九月二十日

第一項 ハ死亡生存ニ不拘樟油ハ細則第二十六條ノ代替ニ準シ之ヲ取扱フヘシ第二項ハ豫定セル閉市ノ日時ヲ限リ特別ヲ以テ之ヲ許ス

○所得稅法第二十三條疑義ノ件(宮城縣) 明治二十一年九月十四日

所得稅届出者中月俸額算一箇年三百圓ノ所得ヲ得ルトナセシモ納期前ニ於テ其年額二百圓ニ下レルモノアリ之ヲ稅法第二十三條ニ開ヒ未段ニ照セハ免稅スヘキモノ、如シト雖モ前段ニ據ンハ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルモノニアラサレハ申出ルヲ得サルニヨリ之ヲ免稅スヘカラストナストキハ十分ノ五以上ヲ減損シテ所得三百圓ヲ缺クモノニ對シ權衡ヲ失フノ甚キモノニ似タリ右ハ免稅範圍内ノモノト心得可然説

(大蔵省) 附令 明治二十一年九月二十日

所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタル場合ヲ除ク外ハ免稅申出ルヲ得ス

○所得稅法ニ關スル件(愛知縣政務長) 附令 明治二十一年九月十七日

所得稅法第二十三條ニ納期前ニ於テ十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ云々トアリ右ハ稅法上納期ハ九月トアルニ據リ則チ九月三十日迄ヲ指サ、レタルモノト信ス然ラハ假令九月ニ入ルモ未タ稅金上納セサル前ノ減損ハ第二十三條ニ據リ不致且官吏等ニシテ單ニ歸納ノミヲ以テ納入トナルモノハ營業者一時損失ト異ナリ減損ノ月ヨリ全ク所得ノ見込ナキモノニ付總金高ニ對シテ十分ノ五以上ノ減損ニアラサルモノ如キ類ハ第二十三條ニ據リ第一項ハ前後半年分トモ減損額ニ對シ納稅セシメ第二項ハ前後トモ免稅シ不

苦惱

第一 三十五圓月給ノモノ八月二日非營實初届出金高則チ本年確定高四百二十四ナリ非難ニ付減損額百十五圓十七錢八厘ヲ差引三百四十四トナルノ類

第二 二十六圓月給ノモノ九月十五日二十一圓月給ニ減額實初届出金高則チ本年確定高三百二十二圓ナリ減損ニ付減損額十七圓五十一錢ヲ差引二百九十四圓トナルノ類

(大蔵省主稅局) 附令 明治二十一年九月二十四日

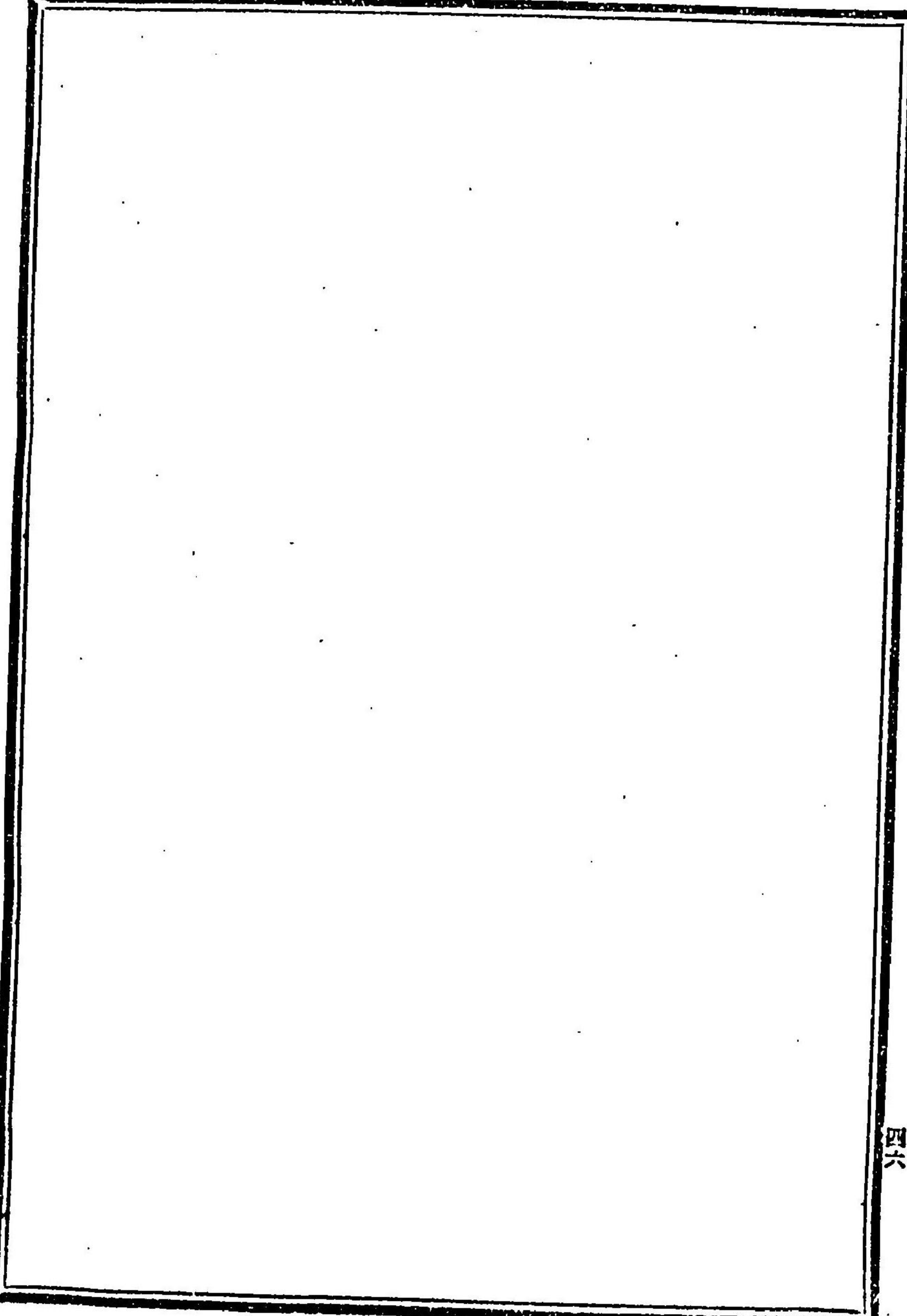
前段ハ御見込ノ通り後段實更云々ハ減免ノ限ニ準之ト存ス

○備産擔當金支出科目(讀島縣) 附令 明治二十一年九月十八日

客年十二月大蔵省令第十五號ヲ以テ備産擔當金支出科目設定相成候處讀島縣下海湖ノ實ニ歸リタル客有之救助ヲ要シ候ニ付テハ右科目外ニ關スルモノニ付本年度ヨリ潮災救助ノ目ヲ設置致度

(大蔵省) 附令 明治二十一年九月二十七日

何ノ海水災救助ノ目ニ歸入スヘシ



○第二部歳入現金收入整理簿ノ件(島根縣) 明治二十一年九月十一日

本年三御省訓令第十三號ヲ以テ第二部歳入月割額整理簿被廢候ニ付第二部歳入報告書其他整理方徳島縣本年四月廿二日(報)ヨリ御省主計局長(照會)處右報告書ハ徵收額整理簿ヲ以テ調整方云々御回答相成然ルニ第二部歳入中現金收入(手配)下付(報)ニ屬スル部分ハ徵收額整理簿(登記)致シ難キ筋ニテ整理上差支候條別紙様本(報)之ノ通り現金收入整理補助簿本年度以降新設方御承認相成度
追テ客年一月御省訓令第一號ニヨリ地券下付書付手数料現金ハ月長ニ於テ納付書ヲ以テ金庫(納入)スヘキモノニ付現金受替簿(登記)セサルモ本文補助簿(ハ)登記ノ積爲念副申候也
(大藏省)指令 明治二十一年九月二十六日
何ノ趣第二部歳入中現金收入ノ分(手配)下付(報)ハ二十一年度以降徵收額整理簿ニ登記(方)トモ整理スル儀ト心得ヘシ

○徴兵ニ關スル件(群馬縣) 明治二十一年九月二十一日

徴兵令第三十七條ニ據リ寄留地ニ於テ徵集ニ應スル者ノ中猶豫ニ屬スル者ノ取扱方客年御省訓令第十二號ヲ以テ示サレ候就テハ右照徴ノ者寄留地ニ在リテ逃亡失踪シ検査ニ應セス爲ニ先入兵不參名額ニ登記ノ者ハ本人復歸検査ヲ受ケ若クハ年齢四十歳以上ニ至リ徵召處分濟迄ハ依然寄留地府縣ノ管理ニ關スル儀ニ條前段果シテ然リトモハ寄留地徵集ノ者モ勿論同様ノ儀ニ候也
(陸軍省總務局)回答 明治二十一年九月二十八日

右ハ失踪逃亡等ニテ其年徵集スル能ハサル者ハ客年御省訓令第十二號第二項ニ準シ寄留地府縣ノ名簿ヲ副リ原籍府縣ニ通報シ該縣ノ管理ニ屬スル儀ト御承知有之度將又寄留地徵集ノ者モ同様ノ儀ニ有之候

○歳入決算報告書式(福岡縣) 明治二十一年九月二十五日

本年御省訓令第三十二號歳入決算報告書式(中)歳入豫算増減表ノ儀若クハ法律ニ據リ増減シタルモノヲ記入調製スヘキモノニシテ其増減ナキ場合ハ決算報告表ノ豫算現額ト同數ナル豫算原額ヲ記入スルニ止リ其他ニ記入ヲ要スルモノモ有之間敷様被存候條若シ御差支無之儀ニ候ハ、増減ナキ場合ハ該表進達セサル様致度
追而増減表調製ニ當リ其増減ナキ税目ハ該表(ハ)記入セサルモ御差支無之儀
(大藏省主計局)回答 明治二十一年十月十三日

右ハ御意見ノ通ニテ可然尤モ此場合ニ於テハ決算報告表表紙ニ「豫算額定額ニ對シ増減ナキヲ以本表豫算現額ノ欄内ニハ我定額ヲ掲ケ」ト御記載相成底且御進書ノ趣ハ差支候條都テ御記載可有之候

○桐章使用ノ件(和歌山縣) 明治二十一年十月十八日(電報)
縣下ニ於テ開キタル品評會賞狀ニ五七ノ桐章用フルモ苦シカラヌヤ
(宮内省)指令 明治二十一年十月十九日(電報)

品評會賞狀ニ桐章ヲ用フルハ禁令ノ限ニアラス

○新兵入營ニ係ル取扱方ノ件(佐賀縣) 明治二十一年十月二十日

- 第一項 新兵入營ノ期ニ臨ミ處刑中ニテ入營シ難キ者假令ハ十二月二十日刑期滿限ナルモ直ニ補充員ヨリ繰上入營セシム可キ哉
 - 第二項 新兵入營ノ期ニ臨ミ一時疾病ニテ入營シ難ク假令ハ一週間乃至二週間ヲ經レハ全快入營ス可キ見込ヲ以テ延期ノ儀届出モ全快ヲ待タズ直ニ補充員ヨリ繰上入營セシム可キ哉
 - 第三項 新兵入營前死亡ハ勿論失踪逃亡ノ者アルトキハ復歸ヲ待タズ直ニ補充員ヨリ繰上入營セシム可キ哉
 - 第四項 前三項屆當處ニ受理其旨近衛局鎮守府又ハ大隊區司令部へ通知マテニテ可然哉
 - 第五項 父母ノ重症或ハ死亡等ニテ徵兵事務條例第八十條ノ手續ヲ以テ入營延期ノ者ハ滿期ヲ待テ入營セシム可キ哉
 - 第六項 新兵入營前他ノ府縣へ轉籍又ハ全戸寄留スルモノハ本縣徵兵ニ缺員ト雖モ補充員ヨリ繰上ニ不及哉
 - 第七項 補充員ニテ現役志願スルモノアルトキハ籤札番號ニ不拘前缺員吏御採用可相成哉
- (陸軍省)指令 明治二十一年十一月一日
- 第一項 第二項十二月三十一日迄ニ入營シ得ヘキ見認ノ者ヲ除クノ外ハ何ノ通
 - 第三項 第四項 第五項 第七項何ノ通
 - 第六項 補充員ヲ繰上ケヘシ

○私設鐵道用地ニ係ル地租制備荒儲蓄金等徵收方ノ件(三重縣) 明治二十一年九月二十九日

私設鐵道用地ニシテ國稅ヲ免除セラレタルモノハ地方稅中地租制備荒儲蓄金等凡テ地租ニ據リ賦課スルモノハ自然免除ニ屬スヘキヤノ旨本月六日內務大臣へ相伺候處本月二十五日地租制備其他共免除ニ屬セスト御指令相成候然ルニ先般大藏大臣(鐵道用地ハ國稅ヲ免除セラル、ニ依リ民有地第一種ナルモ地價ヲ付スヘキ限ニ無之哉)何ニ對シ何ノ通ト御指令相成候券而其地價ヲ掲ケサルニ於テハ地租制備等賦課スルノ標榜トナスヘキモノ無之右ハ如何取計可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年十一月五日(內務省連帶)
相當ノ地價取調賦課ノ標榜ニ供スル儀ト相心得ヘシ但九月六日付第一六一二號何第一條ニ對スル同月十九日大藏省指令ハ取消ス

○整理公債證書無記名ヲ記名ニ變換其他取扱方ノ件(日本銀行) 明治二十一年十月三十一日

整理公債證書條例第十五條ニ無記名證書ヲ記名ニ變換セントスルモノハ其請求書ニ月長ノ捺印ヲ受ケ云々ト有之條處其與書ノ文圖

タル該請求書ノ全部ヲ保證スルアリ或ハ單ニ所有者ノ在籍ト印鑑トヲ保證スルニ止マル等其區々ニシテ取扱上疑義ニ相涉リ候間何レヲ允當トシ取扱可然哉

受ニ七分利付金銀公債證券所有者アリシニ該所有者有公債證券ヲ發シ置遺亡セシニ因リ之カ管財人印鑑ハ區戸長ノ保證ヲ經テ届出アルニ因リ毎期利子ハ該印鑑ニ照シ拂渡來候處今般有公債證券ハ當該ニ係リ元金代リ整理公債證券者有管財人ヨリ請求セリ就テハ該新證券記名方ノ儘ハ前陳逃亡等ニ不均本人記名タルヘキ或又ハ某管財人記名ヲ以交付シ可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年十一月二日
第一項 戶長與妻ノ要ハ本人ノ在籍及印鑑ヲ證明セシムルニ在リ

第二項 逃亡者所有ニ係ル證券ハ何某財產管理人何某ト記名スヘシ

○登記印紙取扱方ノ件(青森縣)伺 明治二十一年十月三十一日(電報)
登記印紙料ハ第二部收入ニ屬セラレタレトモ印紙ハ收稅部ニテ取扱其費用ハ徵稅費ニテ支辨スヘキヤ

○登記印紙取扱方ノ件(廣島縣)伺 明治二十一年十一月二日(電報)
登記印紙ノ受拂ハ收稅部ニテ取扱ハセ可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年十一月七日
登記印紙取扱方ノ件伺ハ收稅部ニ於テ之ヲ取扱ハシメ其請求並ニ受拂等ハ地券用紙ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

○陸軍省訓令ニ關スル件(陸軍省訓令ヨリ)照會 明治二十一年十一月二十四日
去七月二十六日御開合第三項當省甲第六號訓令分註ノ件ニ對シ及御回答候次第モ有之候處今般訓令ノ通本大臣ヨリ陸軍部内へ送相成候付向後ハ右送ニ依リ軍隊手帳(記載スル者モ永久兵役ニ堪ヘ難キ)確證アル者トシテ取扱候儀ト御承知可有之此段申入候也
別紙ハ陸軍省第二十三號ニ同シ

○登記印紙取扱方ノ件(福井縣)伺 明治二十一年十一月十三日

本月八日官報第千六百九號登記印紙取扱方ノ儘ニ付青森縣及廣島縣知事ヨリ伺出ニ對シ本月七日御指令其請求並ニ受拂等ハ地券用紙ニ準シテ處分スヘシト有之退テ考アルニ該印紙ハ地券用紙トハ品種モ異ナリ其實下賣捌方等ノ順序ニ於ルモ諸印紙同檢ノ取扱ニ有之隨テ當時保管方ヲ始メ受拂並ニ送達方等總テ諸印紙類ニ準シ取扱而シテ之ニ屬スル招牌製造費運搬費荷造費等ノ如キ

モ徵稅費第一部份中印紙鑑札取扱費ヲ以テ處分致度
(大藏省)指令 明治二十一年十一月二十七日
伺ノ通

○公債利札並ニ利金ノ件(東京府)伺 明治二十一年十一月二十二日

今般諸公債證券條例改正ニ付該事務ニ關スル必要ノ諸帳簿書類等ハ日本銀行へ引渡方御省第四十四號ヲ以御訓令相成候ニ付テハ昨二十年十一月以後ノ利札事故ノ爲メ貼付未済ノ者有之右ハ前件引渡ノ期日ニ至ルモ貼付難相成利札ハ御省へ還納及フヘキヤ又ハ日本銀行へ引續方取計フヘキヤ且又去ル十九年五月以前ニ係ル利金ニシテ交付方猶豫中ノ者有之右等ノモノハ未済者ノ嗣書ヲ製シ同銀行へ引續可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年十一月二十八日

第一項 金銀公債證券ニ關スル明治二十年十一月渡以降利札貼付未済ノ分ハ當省へ還納シ其旨日本銀行へ報告スヘシ
第二項 伺ノ通

○徴兵旅費支給方ノ件(石川縣)照會 明治二十一年十一月二十一日
 新兵入營ハ片道三里未満及三里以上ノ者共附添入ヲ要シ總テ入營前日迄ニ到着爲致候ニ付テハ三里未満ノ者ヘハ入營前日ノ宿泊料一日分金二十錢ヲ給シ三里以上ノ者ヘハ里程ニ對スル旅費ヲ給シ宿泊料ハ支給雜相成方ト存候果シテ然ラハ片道三里以上五里未満ノ者ハ其支給額三里未満ノ者ヨリ却テ減少シ不權衡ヲ感シ候ニ付支給方如何取計可然哉

(大藏省主計局)回答 明治二十一年十一月三十日
 入營前日ニ到着セシメタル者定則第二條第一項ノ旅行費額第三條第二項ノ宿泊料ニ對比シ少額ノ場合ハ旅行費ヲ給セス宿泊料ヲ支給スルコトヲ得

○登記印紙取扱方ノ件(徳島縣)伺 明治二十一年十一月二日
 登記印紙料ハ第二部繰入ニ屬セラレ候處今同主計局長ヨリ該印紙請求方ノ借照會ノ次第モ有之右ハ印紙ノ請拂方ハ收稅部ノ管掌トシ之レニ關スル經費ハ徵稅費ノ支辨ニ屬シ料金ノ收支豫算決算方ハ會計課ノ管掌トシ之レニ係ル經費ハ府縣費ノ支辨ニ屬スル儀ト相考候得共取扱ノ區分上判然致候

(大藏省)指令 明治二十一年十二月一日(内務省連帶)
 何ノ通

○登記印紙料徴收方ノ件(茨城縣)伺 明治二十一年十一月十七日
 本年十月八日勅令第六十六號登記印紙規則公布相成同月二十四日第四三七號ヲ以テ第二部繰入ヘ登記印紙料ノ目ヲ設ケ整理スヘキ旨御達相成候處右印紙料徴收ニ際シテハ納領告知書ヲ發付スルノ手續ヲ履行シ難クニ付納規則第十六條ニ準シ直ニ現金ヲ以テ郵便所ニ徴收シ該役所主任者ヨリ納付書ヲ添ヘテ金庫ニ送付セシメ可然哉

(大藏省)指令 明治二十一年十二月三日
 納入ヲシテ現金ヲ金庫ニ預ケ入レ其預リ證ヲ以テ納入セシメ郵便役所ヲシテ之レニ納付書ヲ添ヘ更ニ金庫ニ送納セシムヘシ

○公債證券事務引續ノ件(滋賀縣)伺 明治二十一年十一月二十四日
 今般訓令第四十四號及第四十五號ニ付テハ左ノ通相心得可然哉

第一 現在所轄ノ公債證券高引續クモノナレハ債主簿面ニ買受而シテ賣渡濟ノ形跡アリト雖トモ此ノ部分ニ對スル申繼ヲ爲スニ及ハス其引渡迄ニ係ル場分上ニ付後日ノ雜明ハ當縣ノ責任タル勿論ニ候哉

第二 公債證券ノ刷印紙其他未了ニシテ將來處分上ニ關スル必要ノ書類ハ引渡スヘシト雖トモ既ニ處分濟ノ願屆書及削除シタル舊

債主簿割印帳等ハ引續クヘカフサル節ト可相心得
 第三 債主簿ヲ始引渡ノ後本年内ニ於テ他府縣へ所轄管ニ寄リ公債証券携帶轉出届出候節ハ追テ取扱店ノ開始マテ處分方停止スヘキ
 第四 前項ニ反シ他ヨリ携帶又ハ他ノ管内ニテ分テ買取り轉入届出ルモノハ之ヲ取扱而シテ追加トシテ引渡ヲ爲スモ貸付告示第百四十一號ニ抵觸セサルヲ但兼テ甲應ヨリ送達アリシモノニ限ル
 第五 去十九年十月以前ニ係ル未納元利金ハ其事故申立ノ有無ヲ債主所屬ノ各取扱店へ申繼キ而シテ去十八年貸付第八號御達未償還額表送達ハ本年ヲ限リ廢止可然哉
 第六 亡失証書告示中又ハ利賦札亡失シ七箇月未償ノモノハ其事由ヲ詳細申繼キ爾後ハ取扱店ニ於テ前期ノ上代証書又ハ利賦金交付方ノ手續ヲ爲ス候儀
 第七 金庫公債証券ニ關スル二十年十一月以降ノ利札未貼付ノ分ハ該債主所屬取扱店へ可引渡候
 第八 豫テ準備トシテ受取置候公債証券補足記名紙ハ各取扱店所屬証書枚數ノ多寡ニ應シ分賦可引渡候
 第九 去十四年貸付乙第五十號御達ハ本年ヲ限リ消滅候平尤從前亡失証書ニシテ發見シ其但書ノ場合ニハ貸付ヘ直ニ還納シ可然哉
 (大藏省)指令 明治二十一年十二月四日
 第一項 第二項 第五項 第六項 第九項 何ノ通
 第三項 他府縣へ所轄管ニ寄リ公債証券携帶轉出届出ノモノト雖トモ當管告示第百四十一號ニ準シ停止スヘシ
 第四項 本年十二月四日以前甲應ヲ發達セシモノニ限リ何ノ通
 第七項 未貼付ノ利札及第八項補足記名紙ハ貸付ヘ還納スヘシ
 ○尋常師範學校等職員制服ヲ小禮服ニ換用ノ件(鳥取縣)同 明治二十一年十月十六日
 本年御省訓令第二號ニヨリ定メタル尋常師範學校長以下ノ服用ヲ以テ小禮服用用ノ場合ニ換用差許シ可然ヤ又同訓令ニ準據シ同中學校ノ服装ヲ縣限リ定メタルトキハ前同様換用シ得ルヤ否御指揮ヲ仰ク
 (文部省)指令 明治二十一年十一月八日
 尋常師範學校制服ヲ以テ小禮服用用ノ場合ニ換用ノ件ハ官中階級ヲ除ク外若シカラス右制服ニ準シ尋常中學校等職員ノ服用定メタルトキ亦同シ

○租稅收納報告表ノ件(茨城縣收稅長)照會 明治二十一年十一月二十九日
 租稅收納報告表調製方御改正ニ就テハ二十年度歲入モ改正様式ニ依リ調製スヘキハ勿論ノ處様式官損金備考ニ但徵稅額訂正表第何號ト有之候得共二十年度ニ於テハ總テ官損算申ヲ要シ候儀ニ付徵稅額減額ハ他ノ事故ニテ減額ヲ要セシ分ト合併報告致來候ニ付テハ特ニ該當スル報告無之候間二十年度ニ限リ稟申書番號ヲ記入致候テモ御差支無之哉
 (大藏省主稅局計算課)回答 明治二十一年十二月四日
 御見込ノ通
 ○證券印紙交換ノ件(埼玉縣)同 明治二十一年十二月四日
 本年五月閣令第七號ニ據リ登記料及手数料ハ六月一日以降證券印紙ヲ以テ上納スヘキ儀ニ相成候ニ付爲メニ印紙類賣捌人ハ從來該地方ニ於テ會テ賣捌ナキ證券二十五錢五十錢乃至一圓印紙ノ賣下ノ願來候處本年勅令第六十六號ヲ以テ右登記印紙規則ヲ公布セラレ本月一日ヨリ施行ニ付印紙賣捌人ハ已ニ之ノカ賣下ヲ受ケ現ニ賣捌殘餘ヲ所持スルモノ近年登記用ノ外會テ斯ノ如キ巨額ノ證券印紙ヲ使用スルコト稀ナレハ殆ント將來賣捌ノ目的擬絶シタルモノ、如シ故二十錢以下ノ證券印紙ト交換若クハ買戻シヲ請願スルモノアリ然リト雖モ明治十九年御省令第二十一號印紙類賣下賣捌規則ニ由リ同則第十七條ノ場合ヲ除クノ外買戻シヲ請願スル儀ニ可有之就テハ登記所在地ノ賣捌人ニシテ全ク登記用ノ爲メニ賣下ヲ受ケ現ニ二十五錢五十錢乃至一圓印紙ヲ所持スルモノニ限リ十錢以下ノ證券印紙ト交換ノ儀御聽許相成度
 (大藏省)指令 明治二十一年十二月十一日
 相當額ノ登記印紙ト交換ハ差支ナシ他ノ印紙ト交換ヲ許ルサス

○新兵入營期ノ件(第三師團長)申請 明治二十一年十二月十日
 本年徵集ノ新兵入營ノ期ニ臨ミ疾病犯罪等ニテ入營シ難キ者十二月滿日迄ニ其事故尙止マサルトキハ徵兵事務條例第八十三條後段翌年四月一日ニ至ルモ事故尙止マサル者ト同様取扱度
 (陸軍省)指令 明治二十一年十二月十七日
 申請ノ通認可ス

○歳出支拂案内表送付方ノ件(靜岡縣)照會 明治二十一年十二月十八日
 本年三月御省訓令第十號ニ依リ歳出報告書へ添付シテ差出シ候國庫金出納所支拂案内表送引表ノ儀ハ支拂案内書受領高ヲ元受トシ
 明治二十一年十二月 指令 大藏省 陸軍省

之ニ對シ現金支拂額並ニ差引未拂額ヲ掲記セルモノニシテ案内書受領ノ當月ニ於テ悉皆現金ヲ支拂ハサルトキハ更ニ其翌月ノ差引
 額ニ於テ前月分ノ案内書ニ對スル現金支拂額トシテ其月ノ案内書受領高ト區別シテ之ヲ掲ケ猶未拂アルトキハ更ニ其翌月ノ差引表
 ニ之ヲ掲ケルモノニ有之故ニ會計整理期限後即チ翌年度九月以降ハ縣廳ニ於テ支拂案内書ヲ發セサルモ出納所ニ於テハ前月受領ノ
 案内書ニシテ前月中現金支拂未済ノモノアルトキハ前月ノ追補ニ屬スル分トシテ其月ノ差引表調製出納所ヨリ送付シ來ルモ右ハ出
 納所ノ現金支拂ヲ示シタル迄ニ止マリ候儀ニ有之且ツ歲出報告書ニ差引表ヲ添付スルハ縣廳支拂切符發行高ト出納所案内書受領高
 ト差違無之ヲ證スルカ爲メニシテ出納所ニ於テ現金支拂ノ有無ヲ調査スル主意ニ無之ト存候ニ付右前月ノ追補ニ屬スル差引表ハ出
 納所ヨリ送付シ來ルモ縣廳ヨリハ御書ニ差違ニハ不及儀トハ存候
 一六蔵省主計局(回答) 明治二十一年十二月二十四日
 當月支拂案内書發行無之前月若クハ前々月發行ノ支拂案内書ニ對シ出納所ニ於テ現金支拂高ヲ掲ケ送付相成候場合ニ於テハ該表ハ
 直ニ當局ニ御送付相成候儀ト御承知有之度

